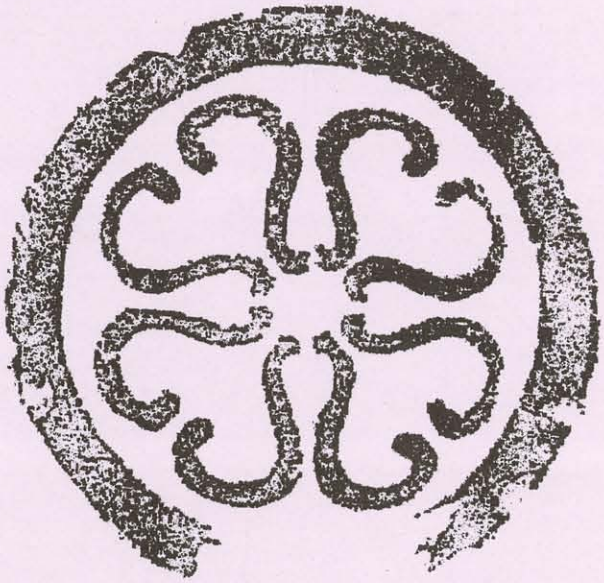
香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）



2002年12月

高松市教育委員会
香川県弁護士会

例　言

1．本報告書は，香川県弁護士会会館建設に伴う発掘調査報告書で，高松城跡（松平大膳家 中屋敷跡）［たかまつじょうあと〔まつだいらだいぜんけなかやしきあと〕］の報告を収録した。

2．発掘調査地ならびに調査期間は次の通りである。
調査地：高松市丸の内２－７　調査期間：平成14年２月１日～３月25日

3．調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し，その費用は香川県弁護士会が負担した。

4．発掘調査から整理作業，報告書執筆まで高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。

5．発掘調査・整理作業には以下の者が従事した。
発掘作業従事者　多田暖那・松下知草（以上奈良大学），大熊尊，片桐節子，国宗敏一，高木繁夫，松本春雄
整理作業従事者　井口夫美子，出石真理子，大川玲子，山中規子，吉本みどり

6．発掘調査にあたって，下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。
香川県教育委員会，香川県歴史博物館，（財）香川県埋蔵文化財調査センター，高松高等裁判所，（財）松平公益会
片桐孝浩，北野信彦，日下正剛，佐藤竜馬，陶山仁美，中山尚子，丹羽佑一，乗松真也，松田朝由，松平頼英，
松本和彦，御厨義道，森下友子，渡部明夫（五十音順，敬称略）

7．挿図として，「高松都市計画図（中心部）」を一部改変して使用した。

8．本報告の高度値は海技高を表し，方位は国土座標第Ⅳ系（旧座標）の北を示す。

9．本書で用いる遺構の略号は次の通りである。ＳＡ：柱穴列　ＳＤ：溝　ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱穴

10．本書に掲載した遺構の縮尺は特別の記載があるものを除き，Ｓ＝１／40である。

11．本書に掲載した遺物の縮尺は特別の記載があるものを除き，以下の通りである。
土器・陶磁器・土製品・瓦・木製品・金属器（貨幣を除く）……Ｓ＝１／４
石器・貨幣……Ｓ＝１／２

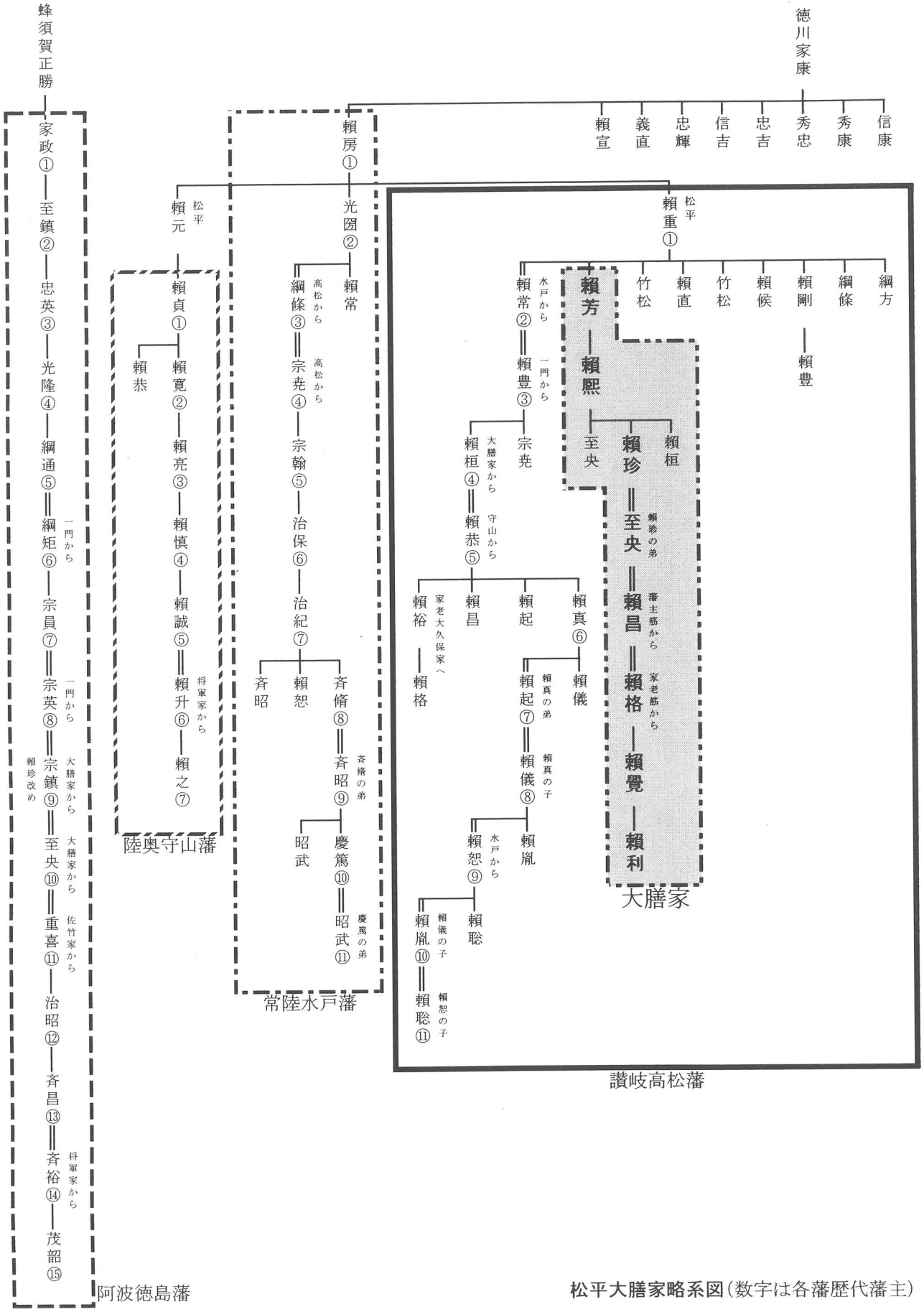
12．本書で用いる遺物の略号は次の通りである。
肥＝肥前系　瀬＝瀬戸•美濃系　京＝京•信楽系　備＝備前焼　堺＝堺または明石焼　大＝大谷焼
不＝産地不明　輸＝輸入　陶＝陶器　軟＝軟質陶器　磁＝磁器　土＝土師器　須＝須恵器
瓦質＝瓦質土器　弥＝弥生土器　色＝色絵　Ｋ＝金属器　Ｓ＝石器　Ｗ＝木器

13．本書に掲載した遺物の中で網掛け部分は次の意味を示す。
陶磁器類（濃網掛け＝鉄釉　薄網掛け＝青磁釉）　木器類（濃網掛け＝黒漆　薄網掛け＝朱漆）

14．発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

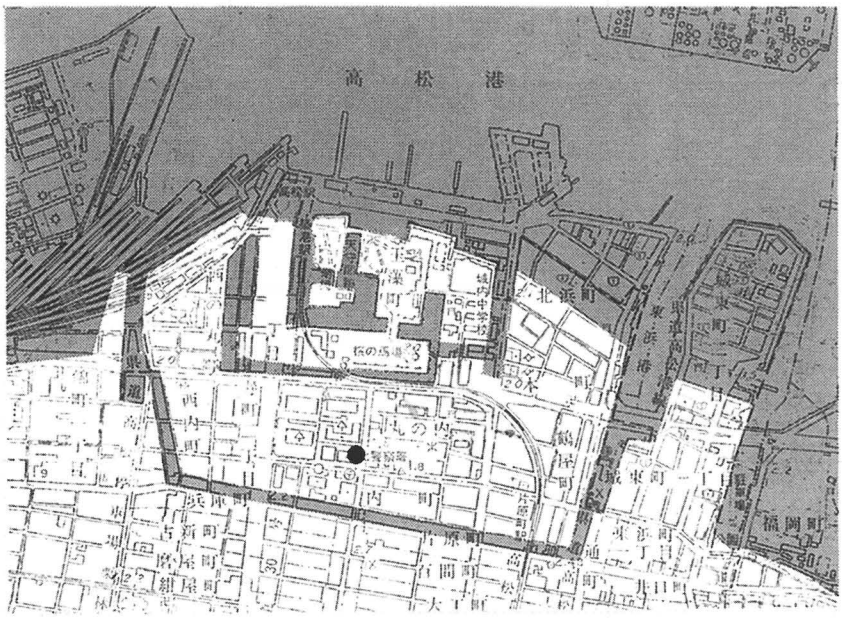
目　次

第1章 調査の経緯と経過……1
第2章 地理的・歴史的環境……1
第3章 調査の成果……2
第4章 まとめ……49
観察表……51
写真図版……65
報告書抄録……70



松平大膳家略系図（数字は各藩歴代藩主）

第１章 調査の経緯と経過



第１図　調査地位置図

平成13年10月23日に香川県弁護士会から会館建設予定地（高松市丸の内２番７）における埋蔵文化財包蔵地の照会があった。同地は周知の埋蔵文化財包蔵地の高松城跡に該当し，平成12年度に香川県教育委員会による家庭裁判所移転に伴う試掘調査が行われ，旧建物部分以外においては遺構・遺物が認められていた。このため，保護措置が必要になる可能性があると回答した。次いで，11月14日に香川県弁護士会から「埋蔵文化財発掘の届出について（文化財保護法57条の２）」が提出された。これに対し，香川県教育委員会から香川県弁護士会に工事着手前に発掘調査を実施するよう指導があった。これを受け，香川県弁護士会と協議の結果，「香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務」として工事着手前に発掘調査を行うことで合意し，平成13年12月20日に埋蔵文化財協定書を締結した。発掘調査は，香川県教育委員会の試掘結果をふまえ，旧建物部分以外の約115㎡を調査範囲として実施することとした。実掘面積は99㎡である。現地調査は２月１日から３月25日に実施した。整理作業は平成14年４月１日から12月27日に実施した。

第２章 地理的・歴史的環境

高松城跡は瀬戸内海に北面した香川県最大の平野である高松平野の中央先端に位置する。現在の高松市街は，西に石清尾山塊，東に屋島を望み，香東川・御坊川・詰田川・新川などによって形成され，近世以降高松城の城下町として発展してきた。しかしながら，これらの河川及び海浜部の景観は近世初頭の大規模な治水干拓事業によるものである。

中世頃までは高松城周辺は香川郡野原庄と呼ばれ，高松城は八輪島と呼ばれる香東川の河口の中州に築城したと言われている。中世の遺構や遺物は比較的多く見られ，特に高松城跡東ノ丸で検出した15世紀の漁民の墓である火葬墓などが知られている。中世以前においても同様の景観が推察され，近年の高松城跡周辺の調査において弥生土器・須恵器・土師器等が出土していることから，周辺に集落の存在も否定できない。

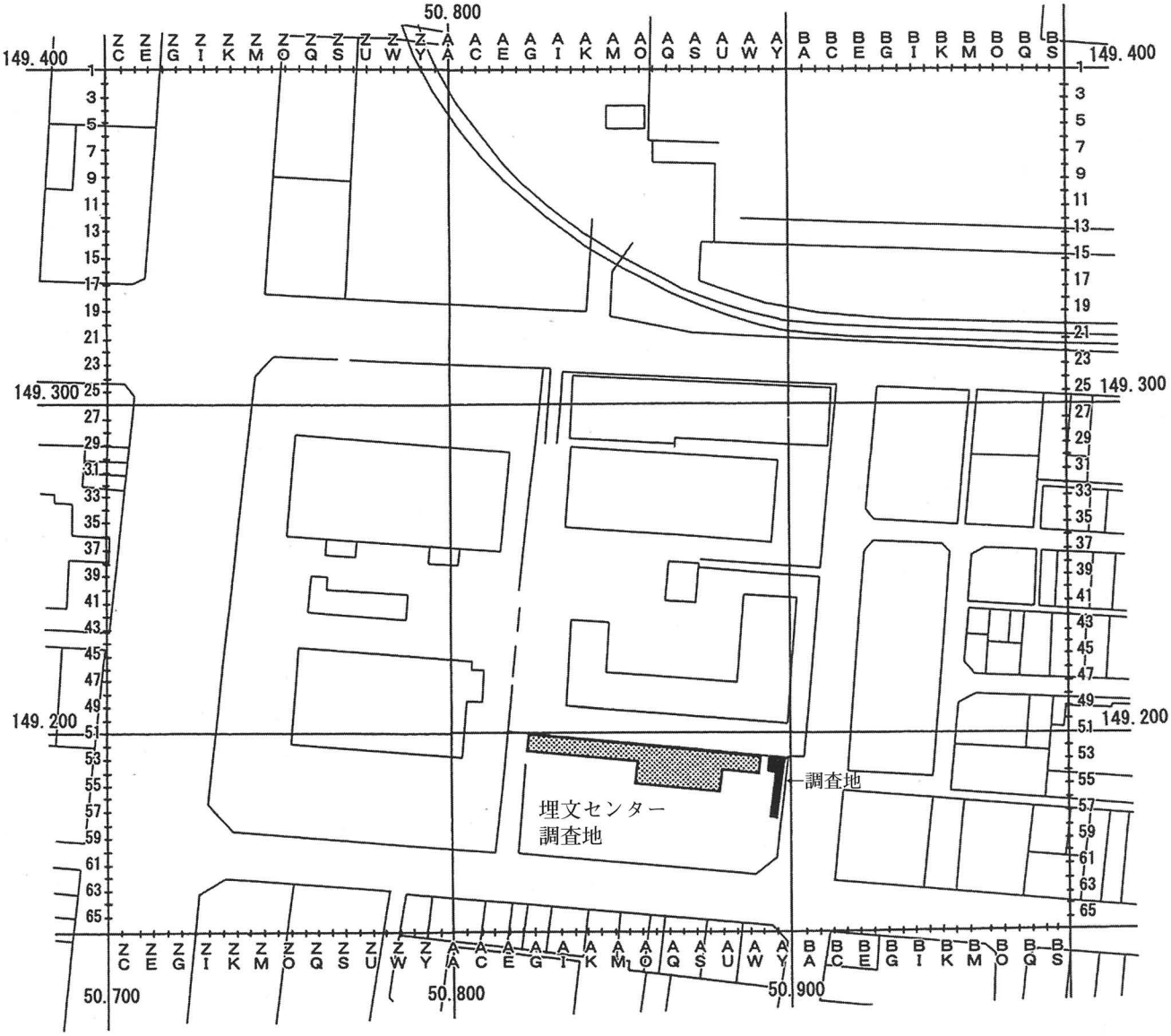
中世後半に入ると高松平野でも戦乱が起こっていたが，長宗我部元親によって四国は統一された。1585年豊臣秀吉の四国征伐により長宗我部氏が敗退すると，讃岐は仙石秀久，その後尾藤知宣に与えられるが，両者とも九州征伐の失敗により改易となり，1587年には生駒親正が入封し，讃岐17万石を領有し，1588年に高松城の築城を開始している。その後の関ケ原の戦いでは親正は西軍，その子一正は東軍として戦うことで生き残りを謀り，戦後改めて一正に讃岐一国が与えられた。生駒氏は一正・正俊・高俊と続くが，家臣団の対立から生駒騒動に発展し，1640年に改易され，出羽国矢島へ転封された。なお，生駒氏の在城期には前述のように治水干拓事業が盛んに行われた。家老の西嶋八兵衛の主導によるもので，最も大規模なものは石清尾山の東側を流れていた香東川を石清尾山の西側へ付け替えた香東川の付け替え事業である。さらに，西嶋八兵衛は高松城の東側に広がる「塩焼浜」に目を付け，三ノ丸東側の町人街東側の護岸工事を行い，屋島と高松城の間に広がっていた湾を干拓した。

その後1642年に生駒氏に代り高松に入封した松平頼重は，城郭の改修を行った。この結果，天守閣を中心に14の櫓を連ねる渦郭式縄張りを採用し，海水を導いた堅固な三重の堀を備えた現高松城になった。また，松平頼重も屋島と高松城の間に広がっていた湾の干拓に力を注ぎ，現在見られるような景観が生み出された。明治４年廃藩置県の令により高松藩は高松県になり，高松城も兵部省（のち陸軍省）の所管となった。明治23年には旧藩主松平家に払い下げられたが，高松市街の発展とともに城郭外側から市街化され，現在は，本丸・二ノ丸・三ノ丸・桜の馬場・内堀・中堀の一部が残されているに過ぎない。調査地は江戸時代においては大手門の正面に位置し，上級家臣団の屋敷地が立ち並ぶ地域であった。絵図等によると生駒期は大塚八右衛門邸，松平期は松平大膳家の中屋敷であることがうかがえる。

第３章 調査の成果

第１節 調査の方法

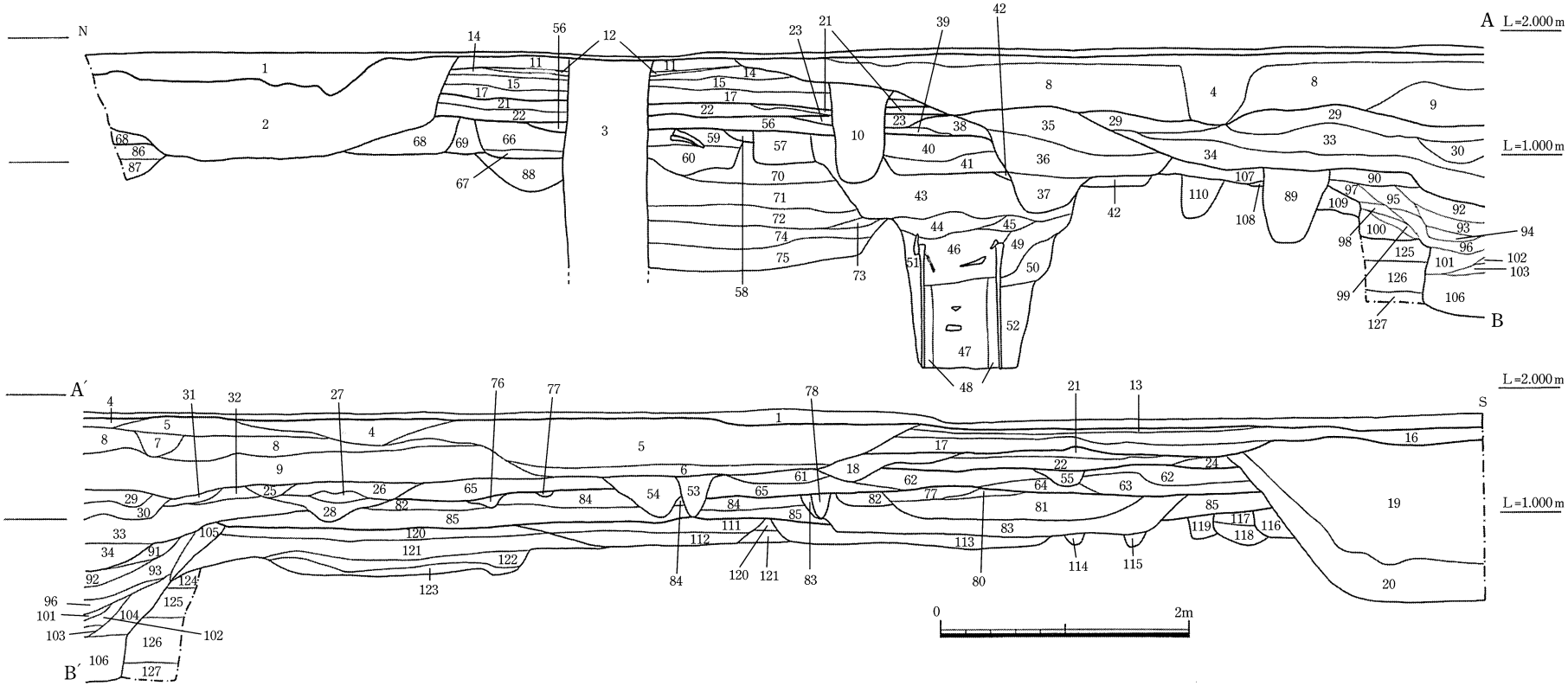
調査地は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した高松城跡（丸の内地区）に隣接し，連続する遺構も想定された。このため同調査で採用した高松市丸の内全域に設定した４m四方のグリッド割に従い発掘調査を行った。



第２図　グリッド割図

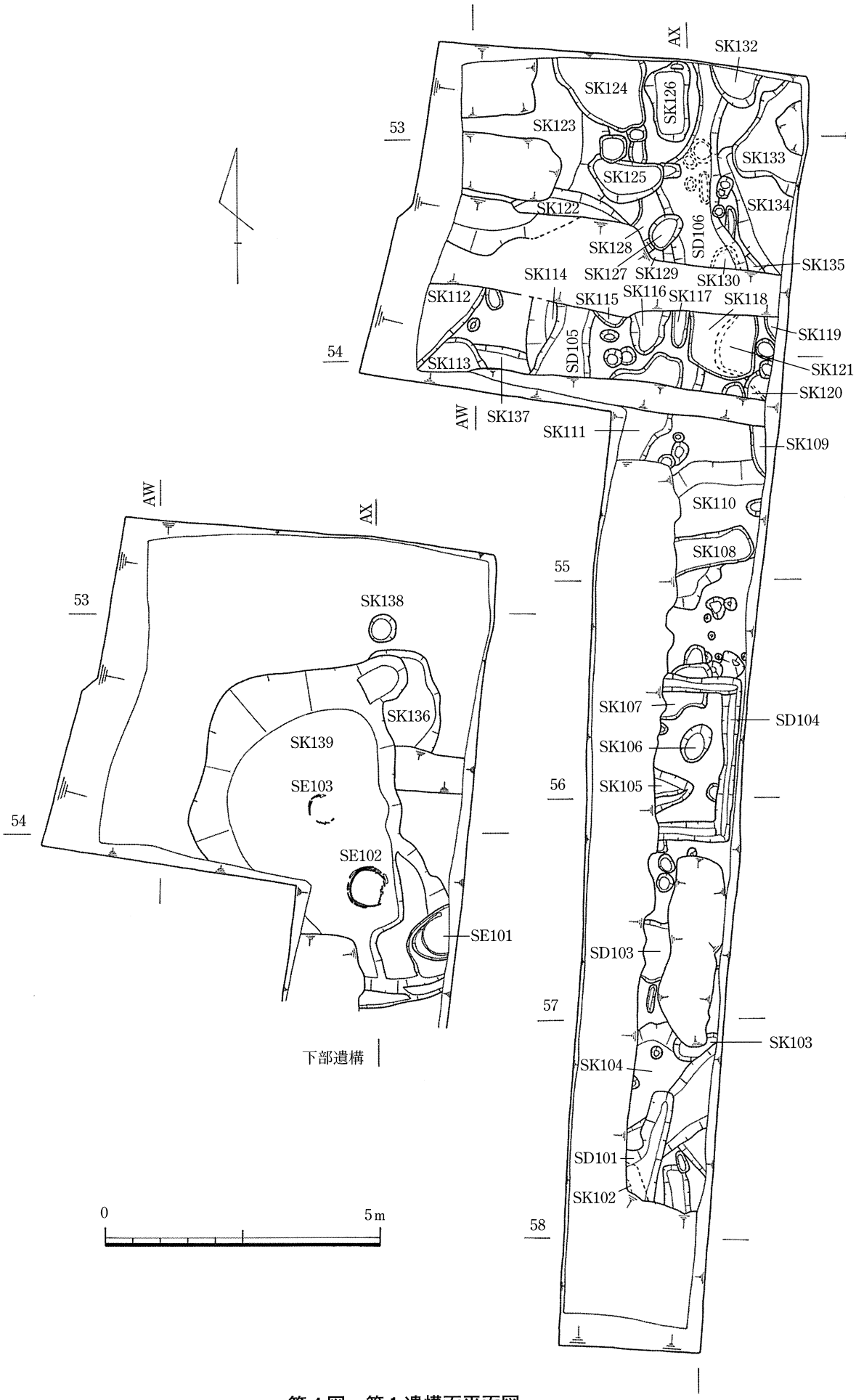
第２節 基本層序と遺構面（第３～５図）

調査地の大半は撹乱を受けており，かろうじて調査区の東壁で土層を確認することができた。現代の撹乱が調査区中央部に大きく入っているものの，北部と南部において高松空襲時の焼土層（17層）を確認した。焼土層の直下が戦前までの面となり，調査区南端の大規模な撹乱は大正～昭和初期頃のものと考えられる。また空襲時の焼土層の下層においてもう１層焼土層を確認した。この直下が概ね19世紀の遺構面になる。当初はこの面で調査を進めていたが，上部からの撹乱が著しく，遺構面の大半が撹乱であることから，この面での調査は断念し，撹乱が少ない所まで掘り下げた。19世紀の遺構面以下は整地層が続くが，その中でも84層の上面において遺構面を確認できた。概ね18世紀の遺構面と考えられ，この面を第１遺構面とした。ただし，撹乱のため調査を断念した19世紀の遺構面から掘り込まれた遺構もこの面で確認しており，18～19世紀の遺構が混在した形で調査を実施した。このためこの遺構面の下限はややあいまいな状況である。84層以下も整地層が認められるが，124層で自然堆積層と考えられるシルト層に変化する。この124層の上面で17世紀の遺構面を確認し，この面を第２遺構面とした。124層以下掘削の及んだ127層まで砂層が続き，遺構面は確認できなかったが，126層からは弥生土器の小片が数点出土しており，弥生時代の包含層と考えられる。

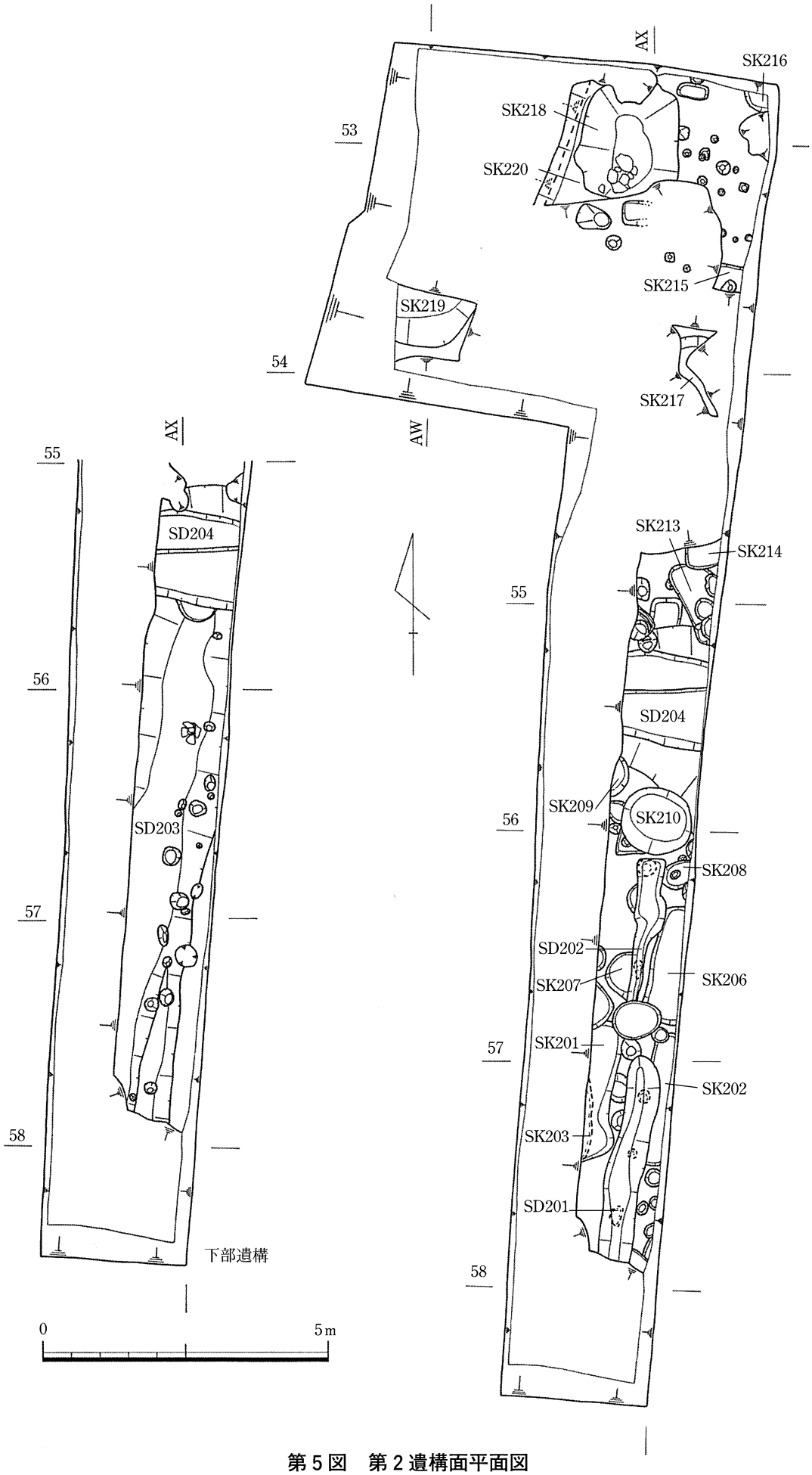


1	2.5Y	7/4	浅黄	花崗土（炭多く含む）
2	2.5Y	7/1	灰白	粗砂～礫
3	10YR	8/4	浅黄橙	花崗土
4	2.5Y	5/1	黄灰	細砂～礫
5	2.5Y	5/2	暗灰黄	細砂～礫
6	10YR	6/1	褐灰	細砂
7	2.5Y	4/2	暗灰黄	砂混粘質土
8	2.5Y	5/2	暗灰黄	砂混粘質土
9	5Y	5/1	灰	砂混粘質土
10	2.5Y	6/2	灰黄	粗砂～礫
11	2.5Y	6/1	黄灰	礫
12	2.5Y	7/4	浅黄	粘土
13	2.5Y	5/1	黄灰	細砂
14	2.5Y	4/1	黄灰	粘質シルト
15	2.5Y	3/1	黒褐	粘質シルト
16	2.5Y	6/2	灰黄	細砂
17	2.5Y	5/1	黄灰	細砂～礫（炭多く含む）
18	10YR	4/2	灰黄褐	細砂
19	10YR	2/1	黒	細砂（炭・焼土含む）
20	10YR	8/3	浅黄橙	粘土
21	2.5Y	7/4	浅黄	細砂
22	5Y	4/1	灰	砂混粘質土（炭・焼土含む）
23	10YR	6/2	灰黄褐	砂混粘質土
24	5Y	5/1	灰	細砂～粗砂
25	7.5YR	3/1	黒褐	粘土（炭・焼土含む）
26	2.5Y	6/3	にぶい黄	粘土（2.5Y 5/1 黄灰粘土ブロック含む）
27	2.5Y	6/1	黄灰	粘土
28	2.5Y	7/3	浅黄	シルト
29	10YR	5/2	灰黄褐	シルト～細砂
30	2.5Y	5/1	黄灰	粘土
31	2.5Y	4/2	暗灰黄	細砂
32	2.5Y	6/3	にぶい黄	粘土（2.5Y 5/1 黄灰粘土ブロック含む）
33	2.5Y	6/3	にぶい黄	砂混粘質土
34	10YR	7/1	灰白	砂混粘質土
35	10YR	6/2	灰黄褐	粗砂～礫
36	10YR	6/1	褐灰	粘質シルト
37	2.5Y	7/1	灰白	粘土
38	10YR	2/1	黒	砂混粘土（焼土含む）
39	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘質土（炭含む）
40	2.5Y	7/3	浅黄	粘土（2.5Y 8/3 淡黄粘土ブロック含む）
41	2.5Y	5/2	暗灰黄	砂混粘土（炭含む）
42	2.5Y	4/1	黄灰	砂混粘質土
43	2.5Y	4/2	暗灰黄	砂混粘質土（10YR 7/4 にぶい黄橙粘土ブロック含む）
44	10YR	5/1	褐灰	粗砂
45	2.5Y	6/2	灰黄	砂混粘質土
46	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘土
47	5B	4/1	暗青灰	粘土
48	7.5Y	6/1	灰	砂混粘土
49	2.5Y	6/1	黄灰	砂混粘土
50	5Y	7/3	浅黄	細砂（5Y 4/1 灰粘土ブロック含む）
51	2.5Y	5/2	暗灰黄	粘土
52	5Y	6/2	灰オリーブ	砂混粘土
53	5Y	6/3	灰オリーブ	砂混粘質土
54	2.5Y	6/1	灰	砂混粘質土
55	10YR	6/1	褐灰	粗砂～礫
56	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘質土（炭含む）
57	5Y	4/1	灰	砂混粘質土
58	2.5Y	7/2	黄灰	砂混粘質土
59	10YR	3/1	黒褐	砂混粘質土
60	10YR	2/1	黒	砂混粘質土（炭多く含む）
61	5Y	7/2	灰白	細砂
62	5Y	6/1	灰	細砂～粗砂
63	2.5Y	4/1	黄灰	砂混粘質土
64	2.5Y	4/1	黄灰	細砂～粗砂
65	2.5Y	6/3	にぶい黄	粘土（2.5Y 5/1 黄灰粘土ブロック含む）
66	5Y	4/1	灰	砂混粘質土（炭含む）
67	2.5Y	3/1	黒褐	砂混粘質土（炭含む）
68	10YR	5/1	褐灰	砂混粘質土
69	2.5Y	5/2	暗灰黄	砂混粘質土
70	2.5Y	5/3	黄褐	砂混粘質土（2.5Y 7/4 浅黄粘土ブロック含む）
71	2.5Y	5/2	暗灰黄	砂混粘質土（炭・焼土多く含む）
72	10YR	1.7/	黒	粘土（炭多く含む）
73	10GY	5/1	緑灰	粘土
74	2.5GY	4/1	暗オリーブ灰	粘土（炭含む）
75	5Y	3/1	オリーブ黒	粘土（木器多量に含む）
76	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘質土
77	2.5Y	6/1	黄灰	細砂
78	7.5YR	6/1	灰	砂混粘質土
79	2.5Y	5/1	黄灰	粗砂
80	2.5Y	6/2	灰黄	砂混粘質土（10YR 7/4 にぶい黄橙粘土ブロック含む）
81	2.5Y	5/2	暗灰黄	砂混粘質土
82	2.5Y	6/2	灰黄	シルト～細砂
83	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘質土（10YR 7/4 にぶい黄橙粘土ブロック含む）
84	2.5Y	6/3	にぶい黄	砂混粘質土
85	5Y	4/1	灰	砂混粘質土
86	2.5Y	6/2	灰黄	シルト
87	2.5Y	4/2	暗灰黄	粘質シルト
88	10Y	5/1	灰	砂混粘土
89	5Y	5/1	灰	砂混粘質土
90	5Y	4/1	灰	粘質シルト
91	2.5Y	6/2	灰黄	細砂～粗砂（2.5Y 4/2 暗灰黄粘土ブロック含む）
92	2.5Y	5/2	暗灰黄	シルト～細砂
93	2.5Y	5/2	暗灰黄	粗砂
94	2.5Y	4/1	黄灰	粘質シルト
95	5Y	5/2	灰オリーブ	粘質シルト
96	5Y	4/1	灰	砂混粘土
97	5Y	6/3	オリーブ黄	細砂
98	2.5Y	5/1	灰	シルト
99	5Y	7/1	灰白	シルト
100	2.5Y	4/1	黄灰	砂混粘土
101	7.5Y	3/1	オリーブ黒	粘土
102	7.5Y	3/2	オリーブ黒	粘土
103	10G	3/1	黒緑灰	粘土
104	N	3/0	暗灰	粘土
105	10YR	4/2	灰黄褐	砂混粘質土
106	10BG	4/1	暗青灰	砂混粘土
107	2.5Y	3/1	黒褐	砂混粘質土
108	5Y	4/1	灰	砂混粘質土
109	5Y	5/1	灰	粘質シルト
110	5Y	3/1	オリーブ黒	砂混粘質土
111	2.5Y	6/3	にぶい黄	砂混粘質土
112	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘質土
113	2.5Y	6/2	灰黄	細砂
114	2.5Y	6/1	黄灰	細砂
115	2.5Y	6/1	黄灰	細砂
116	10YR	5/1	褐灰	砂混粘質土
117	2.5Y	4/1	黄灰	砂混粘質土
118	2.5Y	5/1	黄灰	粘土（2.5Y 7/4 浅黄粘土ブロック含む）
119	2.5Y	6/1	黄灰	細砂
120	10YR	4/1	褐灰	砂混粘質土（灰・焼土多く含む）
121	2.5Y	6/1	黄灰	砂混粘質土
122	2.5Y	7/1	灰黄	シルト～細砂
123	2.5Y	5/1	黄灰	砂混粘土
124	5Y	7/2	灰白	シルト
125	2.5Y	7/2	灰黄	細砂
126	5BG	6/1	緑灰	シルト～細砂（弥生包含層）
127	2.5Y	8/2	灰黄	粗砂

第3図　調査区東壁上層断面図



第４図　第１遺構面平面図



第５図　第２遺構面平面図

表１　高松城跡（弁護士会館）主要遺構一覧

第２遺構面

遺構名	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	平面形	断面形	出土遺物	特記事項	頁
SD201	364＋α	65	20	溝	逆台形	土，肥陶，瓦		7
SD202	248＋α	52	13	溝	逆台形	土，肥陶，瓦		7
SD203	906＋α	144＋α	65	溝	U字	土，肥陶，瀬陶，備陶，瓦，瓜の種，木	区画溝，肥陶碗中から瓜の種	7
SD204	144＋α	360	128	溝	逆台形	土，肥陶，志野，備陶，瓦，木	区画溝	7
SK201	245	50＋α	12	溝状	半円形	備陶，瓦		
SK202	232	38＋α	8	溝状	不明	瓦		
SK203	150＋α	14	7	不明	不明			
SK204	80＋α	32＋α	3	不明	皿状			
SK205	86	66	5	卵形	皿状	肥陶，瓦		
SK206	210	52＋α	15	不明	逆台形	瓦		
SK207	82	46＋α	10	円形	逆台形	ニシ貝	ニシ貝多量に廃棄	11
SK208	48＋α	46	25	不明	逆台形	土		
SK209	68＋α	24＋α	7	不明	皿状	土		11
SK210	124	114	45	円形	逆台形	土，肥陶，瓦，鉄	埋土は焼失，焼瓦多量に投棄	11
SK211	欠番							
SK212								
SK213	108＋α	74	5	不明	皿状	土，瓦		
SK214	64＋α	44＋α	6	不明	皿状			
SK215	88＋α	44＋α	25	不明	逆三角形			
SK216	40＋α	32＋α	11	不明	半円形			
SK217	112＋α	50＋α	70	不明	不明	肥陶，志野，瓦		11
SK218	200	182	103	長方形	U字	土，肥陶磁，瀬陶，備陶，瓦，釘，木		11
SK219	168＋α	92＋α	34	不明	不明	土，肥陶，備陶		11
SK220	240＋α	120＋α	20＋α	不明	不明	土		

第１遺構面

SD101	203＋α	50	11	溝	皿状	土，瓦		
SD102	225＋α	97	16	溝	逆台形	土，肥陶，瓦，馬の歯		12
SD103	145＋α	103	32	溝	逆台形	肥陶磁，瀬磁，瓦	区画溝?	12
SD104	510＋α	35	60	コの字	逆台形	土，肥陶磁		13
SD105	130＋α	110	32	溝	逆台形	土，瓦，釘，ニシ貝		13
SD106	363＋α	133	17	溝	逆台形	肥陶磁，備陶，瓦		
SK101	90＋α	46	15	溝状	U字			
SK102	77＋α	32＋α	28	不明	不明	土，肥磁，瀬陶，猿面		13
SK103	80＋α	51	12	不明	逆台形	土，瓦		
SK104	232	140＋α	32	不明	逆台形	肥陶，備陶，瓦，刀		14
SK105	85＋α	70＋α	10	不明	逆三角形	土，肥陶，寛永通宝		
SK106	72	50	11	楕円形	逆台形	土，肥陶，瓦		
SK107	82＋α	76	13	不明	皿状			
SK108	140＋α	60	7	溝状	皿状	土，肥磁，瓦，ニシ貝		14
SK109	82＋α	28＋α	8	不明	皿状	肥陶磁，堺陶，軟，ニシ貝		14
SK110	266	152＋α	44	不明	逆台形	土，肥陶磁，瀬陶磁，京陶，大陶，軟，瓦		14
SK111	204＋α	128	7	不明	皿状	土，肥磁，瀬磁，軟，土人形，瓦		18
SK112	195＋α	96＋α	27	不明	逆台形	土，肥陶磁，志野，京陶，備陶，砥石		18
SK113	126＋α	61＋α	7	不明	逆台形	肥陶磁		
SK114	360	134＋α	74	不明	逆台形	土，肥陶磁，瀬陶磁，京陶，備陶，火打石		18
SK115	62＋α	22＋α	5	不明	逆台形	土，瓦		
SK116	77＋α	70	7	不明	逆台形			
SK117	67＋α	30	5	溝状	逆台形	土，瓦		
SK118	122	116＋α	7	方形	逆台形	土，肥陶磁，京陶，瓦		18
SK119	43＋α	22＋α	4	不明	皿状	瓦		
SK120	53＋α	43＋α	5	不明	皿状	土，肥磁，軟，瓦		
SK121	150＋α	106＋α	115	不明	逆台形	土，肥陶磁，瀬陶磁，京陶，備陶，軟，瓦，木	軟質陶器土瓶多量出土	18
SK122	221＋α	48＋α	32	不明	皿状	肥磁，京陶，備陶		18
SK123	352	290	65	不明	逆台形	土，肥陶磁，瀬陶，京陶，備陶，堺陶，瓦，木	大膳家家紋瓦・家紋入り理兵衛焼出土	20
SK124	167	135＋α	14	不明	皿状	土，京陶，瓦		
SK125	138	79	20	三角形	逆台形	土，肥磁，瀬陶，瓦，木		41
SK126	146	81	91	長方形	逆台形	土，肥磁，瀬陶，京陶，瓦，寛永通宝，硯		41
SK127	70	47	13	楕円形	逆台形	土，肥磁，瓦，釘	埋甕	41
SK128	145＋α	70	35	溝状	U字	土，肥陶磁，京陶，備陶，堺陶，瓦，火打石		42
SK129	94＋α	79	46	長方形	U字	肥陶字，瓦		42
SK130	52＋α	41＋α	6	楕円形	逆台形	不陶		
SK131	135＋α	125＋α	35	不明	不明	肥陶磁，瓦		
SK132	96	72＋α	7	不明	皿状	土，肥磁，瓦		
SK133	217＋α	130＋α	18	不明	逆台形	土，肥磁，瓦		
SK134	250＋α	150＋α	25	不明	逆台形	肥磁，瓦		
SK135	68＋α	49＋α	43	不明	不明	土，肥磁，瀬磁，京陶，備陶，瓦		42
SK136	171＋α	151	35	長方形	逆台形	土，肥陶磁，京陶，備陶，瓦		42
SK137	133＋α	36＋α	23	不明	逆台形	肥磁，京陶，備陶，瓦		42
SK138	51	49	22	円形	逆台形	肥陶磁，備陶，木	擂鉢，陶器，漆器を埋納	42
SK139	650	375	158	楕円形	U字	土，肥陶磁，瀬陶磁，京陶，備陶，軟，瓦		42
SE101	113＋α	75＋α	190	円形	不明	肥磁，京陶		42
SE102	118＋α	118＋α	94	円形	不明	弥，土，肥磁，瀬陶，京陶，備陶		42
SE103	122＋α	122＋α	130	円形	不明	土，肥磁，瀬陶，京陶，簪		42

第３節 第２遺構面

第２遺構面は海抜85cm～１ｍで検出した。調査区の南から北へ向かって遺構面が高くなっている。遺構面の時期は，概ね17世紀と考えられ，生駒期から松平期の初期に該当すると考えられる。現代の撹乱や第１遺構面の遺構により，調査地の大半が撹乱を受けた状態ではあったが，調査区の南半を中心に土坑20基，溝４条，ピット多数を検出した。以下，遺物の図示できた遺構を中心に述べていく。その他の遺構については，主要遺構一覧（表１）を参考にしていただきたい。

SD201（第６・７図）

幅65cm，深さ20cmを測る溝で，南側は撹乱によって削平されている。出土遺物は肥前系陶器，土師器が見られる。

SA201（第６図）

SD201を完掘すると下層から柱穴を検出した。SD201とほぼ同じ方位で４基の柱穴が並ぶ。検出長は3.3mを測る。柱間はすべて約1.1mと統一されている。遺物は出土していない。

SD202（第６・７図）

SD201の北側で検出した幅52cm，深さ13cm，長さ2.5mの溝である。出土遺物は肥前系陶器，土師器が見られる。

SA202（第６図）

SA201と同様に，SD202を完掘すると下層から柱穴を検出した。SD202とほぼ同じ方位で４基の柱穴が並ぶ。検出長は4.4mを測る。柱間は約1.2m～1.8mとばらつきがある。南端の柱穴には漆器椀の痕跡が残っていたが，その他の柱穴からは遺物は出土していない。

SD203・SA203・204（第６・７図）

推定幅約180cm，深さ65cmを測る溝である。断面形状は浅いU字を呈し，溝中央部はやや窪んでいる。埋土は10層に分層でき，埋土最上層は地山の粘土ブロックを多量に含んでいることから人為的に埋め戻された整地層と考えられる。溝は南から北へ流れ，SD204につきあたり，SD204以北へは延びていない。SD204との合流部分については，半円形に一段低く掘り込まれている。出土遺物は肥前系陶器および土師皿が目立つ。概ね17世紀中葉のものと考えられる。なお，第７図23の肥前系陶器碗の中からは瓜の種が多数出土した。

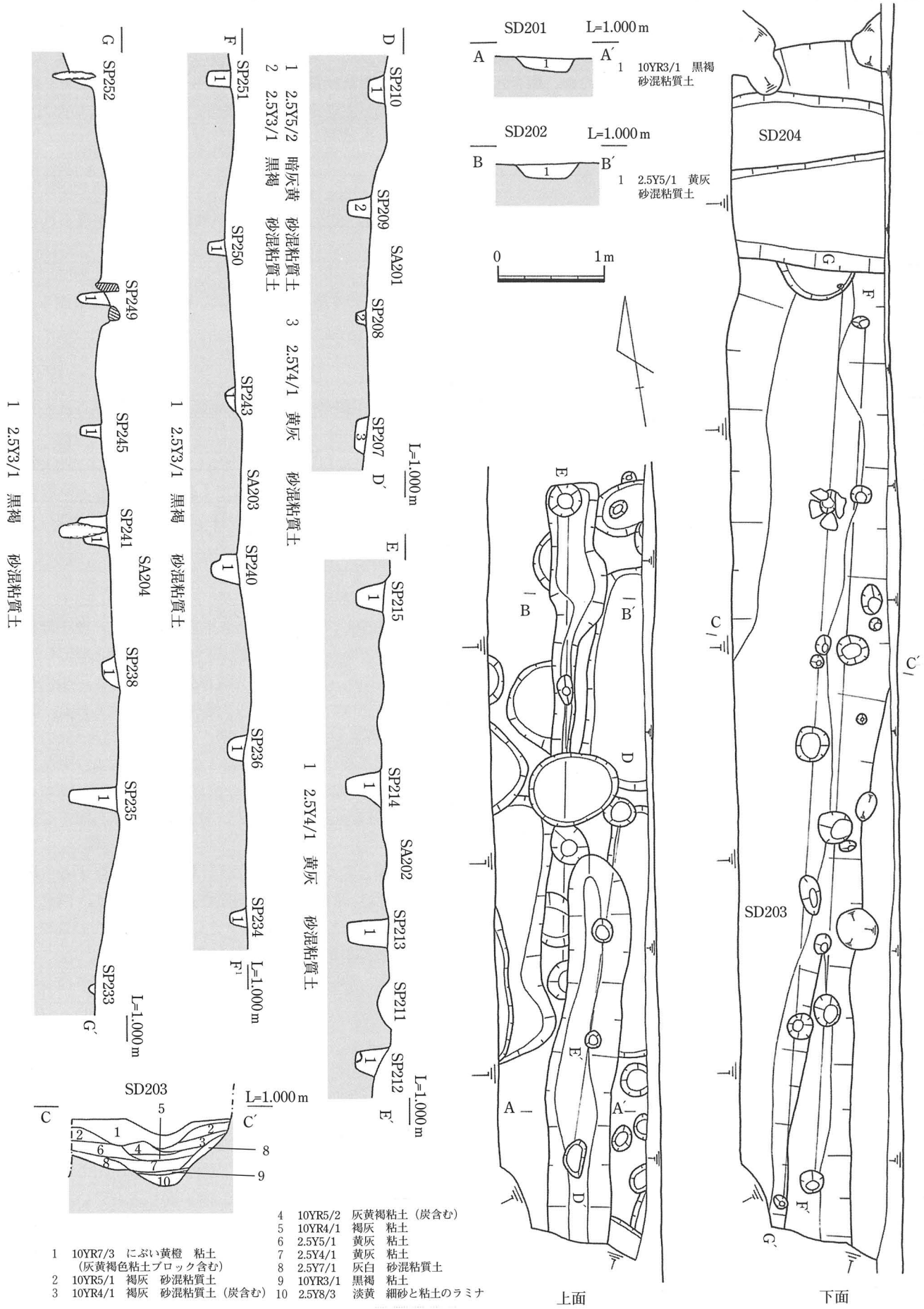
さらに，SD203の底面で溝の東岸に沿って２列の柱穴列SA203・204を検出した。SA203は６基の柱穴により構成され，検出長7.8mを測る。柱間は約1.4～1.6mとほぼそろえている。SA204は７基の柱穴により構成され，検出長8.6ｍを測る。柱間は0.8～2.2mとばらつきがある。なお，一部の柱穴には杭が残存していた。また，柱穴の周りに石組みを施している柱穴も見られた。SA203・204とも遺物は出土していない。

SD203・SA203・204の性格としては屋敷地の区画に伴う溝や柱穴列と考えられる。しかしながら，現存する生駒期の城下絵図（『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』推定1638～1639年製作，高松市歴史資料館蔵）においては，南北方向の区画溝がT字になる部分は周辺には無く，すべて十字に交差して描かれている。クランクした溝を絵図では簡略化して十字に書いた可能性もあるが，SD204との切り合い関係からも絵図以前の地割の可能性を考えたい。

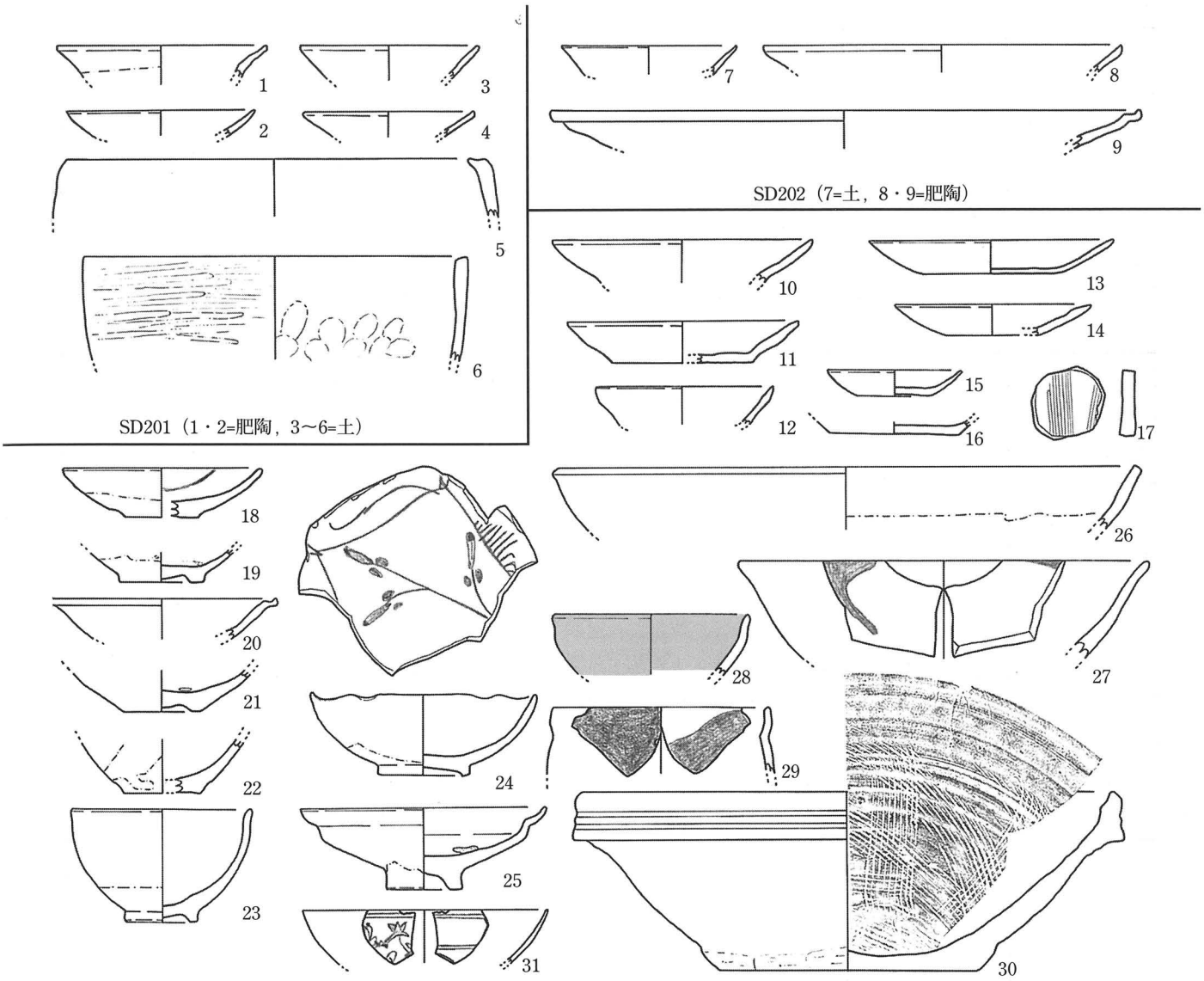
また，前述のようにSD203は人為的に埋め戻され整地されているが，その後もSD201・202・SA201・202が作られることから，埋没後もある程度区画を意識していたことがうかがえる。

SD204（第８図）

調査区が狭いため，当初は溝という認識が無く，土坑として調査を行っていたが，屋敷の区画溝と考えられるSD203がSD204につきあたって途切れることや，隣接地の高松城跡（丸の内地区）の調査で検出されているSK08・10がSD204の延長部分になる可能性が考えられることから，SD204は東西方向へ延びる区画溝であると判断した。幅360cm，深さ128cmを測り，SD203のほぼ倍の規模である。断面形状はV字にゆるやかに掘り下がり，下層部分は幅80cmの範囲を約60cm垂直に掘り下げている。溝底は海抜マイナス30cmである。埋土は17層に分層できた。溝が掘り込んでいる層は砂層であるため崩れやすいためか，数度の掘り返しを実施したことが断面観察により認めることができる。また，埋土の最上層部分はSD203と同様に粘土ブロックを多量に含んでおり，人為的な埋め戻しによる整地がなされている。なお，SD203とSD204の合流部分はSD203からSD204へ排水するよう一段段差を設けていることから同時期に機能していたと考えられるが，両者は切り合い関係をもっており，廃絶についてはSD203を先に埋め戻し，一定期間はSD204だけが機能していた時期を経て，その後SD204が埋め戻されたと考えられる。出土遺物は志野をはじめ肥前系陶器等の陶磁器類



第6図　SD201・202・203，SA201・202・203・204平・断面図

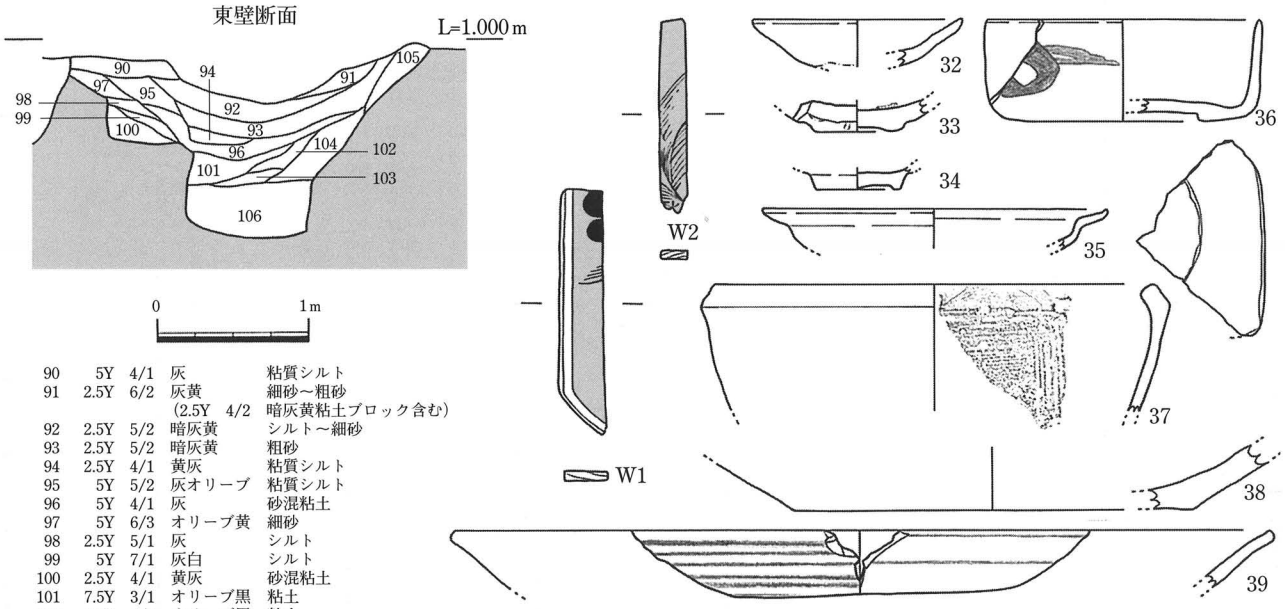


SD201（1・2=肥陶，3～6=土）

SD202（7=土，8・9=肥陶）

SD203（10～17=土，18～28=肥陶，29=瀬陶，30=備陶，31=輪磁）

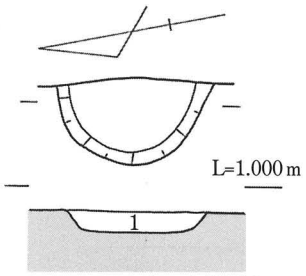
第７図　SD201・202・203出土遺物実測図



90	5Y	4/1	灰	粘質シルト
91	2.5Y	6/2	灰黄	細砂～粗砂
			(2.5Y 4/2	暗灰黄粘土ブロック含む)
92	2.5Y	5/2	暗灰黄	シルト～細砂
93	2.5Y	5/2	暗灰黄	粗砂
94	2.5Y	4/1	黄灰	粘質シルト
95	5Y	5/2	灰オリーブ	粘質シルト
96	5Y	4/1	灰	砂混粘土
97	5Y	6/3	オリーブ黄	細砂
98	2.5Y	5/1	灰	シルト
99	5Y	7/1	灰白	シルト
100	2.5Y	4/1	黄灰	砂混粘土
101	7.5Y	3/1	オリーブ黒	粘土
102	7.5Y	3/2	オリーブ黒	粘土
103	10G	3/1	暗緑灰	粘土
104	N	3/0	暗灰	粘土
105	10YR	4/2	灰黄褐	砂混粘質土
106	10BG	4/1	暗青灰	砂混粘土

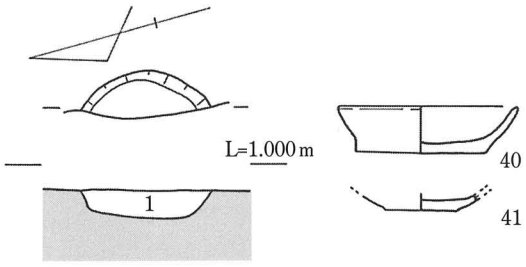
（32～35・39=肥陶，36=志野，37=土，38=備陶）

第８図　SD204断面図及び出土遺物実測図



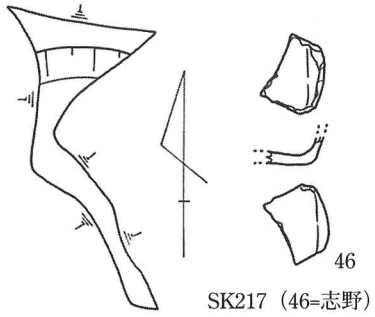
1　10YR　4/1　褐灰　砂混粘質土

SK207

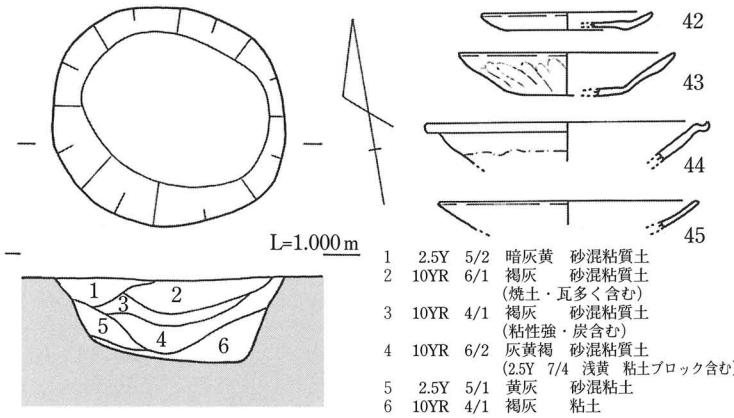


1　10YR　4/1　褐灰　砂混粘質土

SK209（40・41=土）

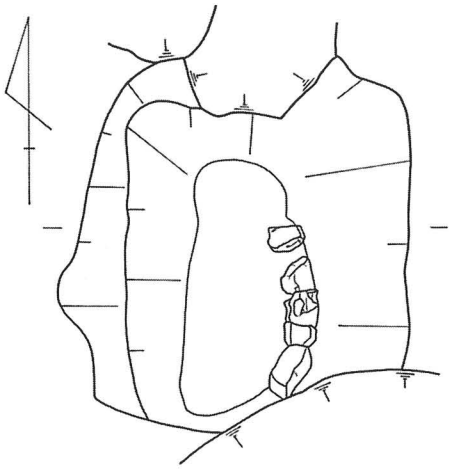


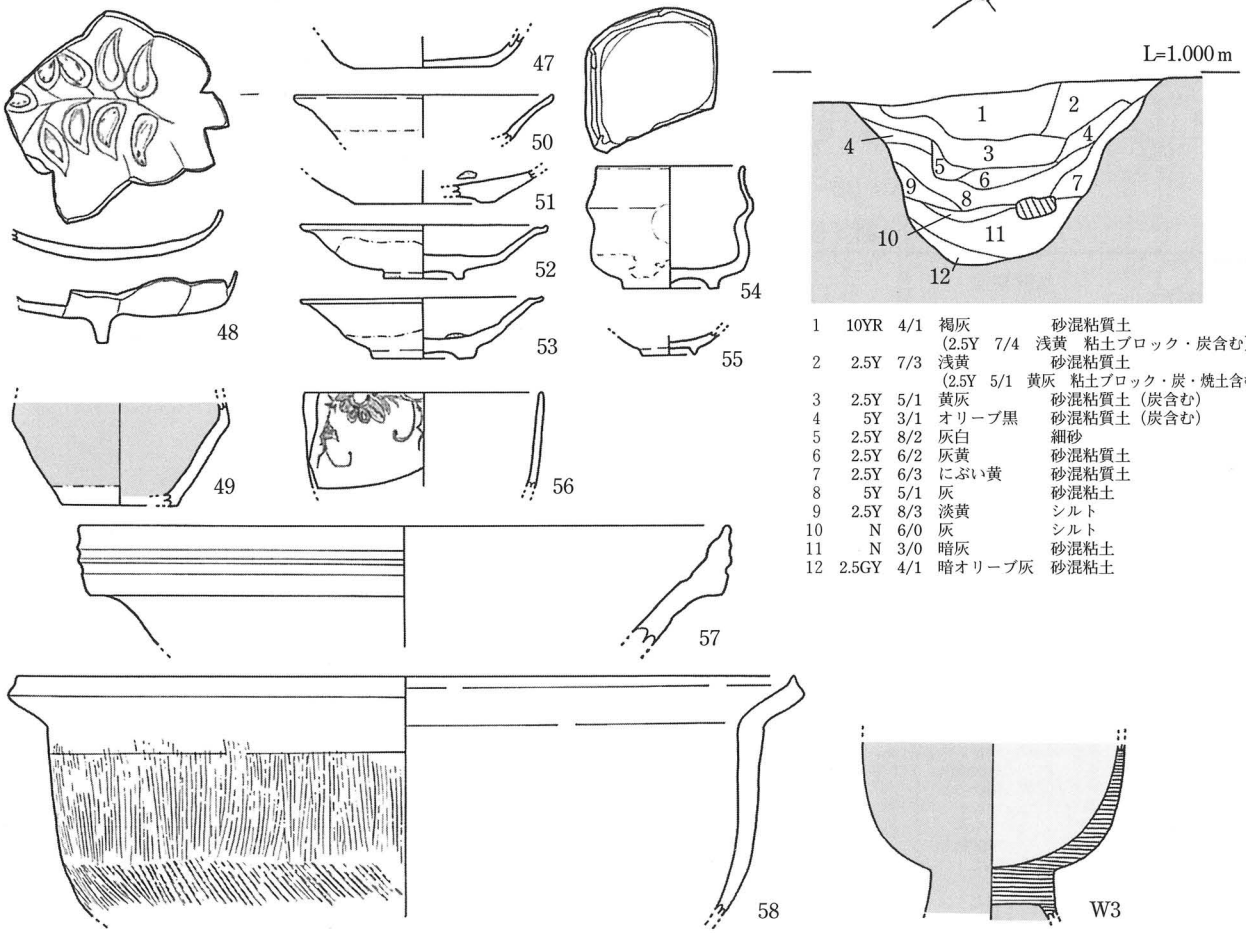
SK217（46=志野）



1　2.5Y　5/2　暗灰黄　砂混粘質土
2　10YR　6/1　褐灰　砂混粘質土
（焼土・瓦多く含む）
3　10YR　4/1　褐灰　砂混粘質土
（粘性強・炭含む）
4　10YR　6/2　灰黄褐　砂混粘質土
（2.5Y　7/4　浅黄　粘土ブロック含む）
5　2.5Y　5/1　黄灰　砂混粘土
6　10YR　4/1　褐灰　粘土

SK210（42・43=土，44・45=肥陶）





1　10YR　4/1　褐灰　砂混粘質土
（2.5Y　7/4　浅黄　粘土ブロック・炭含む）
2　2.5Y　7/3　浅黄　砂混粘質土
（2.5Y　5/1　黄灰　粘土ブロック・炭・焼土含む）
3　2.5Y　5/1　黄灰　砂混粘質土（炭含む）
4　5Y　3/1　オリーブ黒　砂混粘質土（炭含む）
5　2.5Y　8/2　灰白　細砂
6　2.5Y　6/2　灰黄　砂混粘質土
7　2.5Y　6/3　にぶい黄　砂混粘質土
8　5Y　5/1　灰　砂混粘土
9　2.5Y　8/3　淡黄　シルト
10　N　6/0　灰　シルト
11　N　3/0　暗灰　砂混粘土
12　2.5GY　4/1　暗オリーブ灰　砂混粘土

SK218（47・58=土，48=瀬陶，49～54=肥陶，55・56=肥磁，57=備陶）

第９図　第２遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図

の他，漆器も見られる。概ね17世紀中葉のものと考えられる。

また，絵図との対比では，前述の『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』には東西方向の区画溝が描かれているが，松平期の初期に描かれとされる『高松城下図屏風』（推定17世紀中頃製作，香川県歴史博物館蔵）では調査地部分は南北に細長い屋敷地であったことがうかがえ，東西方向の区画は存在しない。その後，『高松城下図』（推定1716～1736年製作，鎌田共済会郷土博物館蔵）では再度東西方向の区画が見られる。遺物の時期と合わせて推察するとSD204は『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』に描かれた溝と考えられる。また，同絵図および隣接地の高松城跡（丸の内地区）の調査成果からSD204以北は大塚八右衛門邸，以南は柴山忠右衛門邸と考えられる。

SK207（第９図）

SD202に切られているが，円形の土坑と考えられ，長径82cm，深さ10cmを測る。遺構内からは多量のニシ貝の貝殻が隙間無くつめられた状態で出土しており，貝殻の廃棄土坑と考えられる。その他の遺物は１点も出土しなかった。

SK209（第９図）

遺構の半分が撹乱により壊れているが，円形の土坑と考えられる，長径68cm，深さ７cmを測る。埋土は単層で，土師皿２点のみ出土した。

SK210（第９図）

円形の土坑で，長径124cm，短径114cm，深さ45cmを測る。火事などの後始末に利用されたのか，遺構内は焼土とコンテナ４箱分にも及ぶ焼けた瓦が出土した。その他は肥前系陶器と土師皿がわずかに出土したにすぎない。概ね17世紀中葉と考えられる。当該期の火事としては，1662年の火災が文献で知られている。

SK217（第９図）

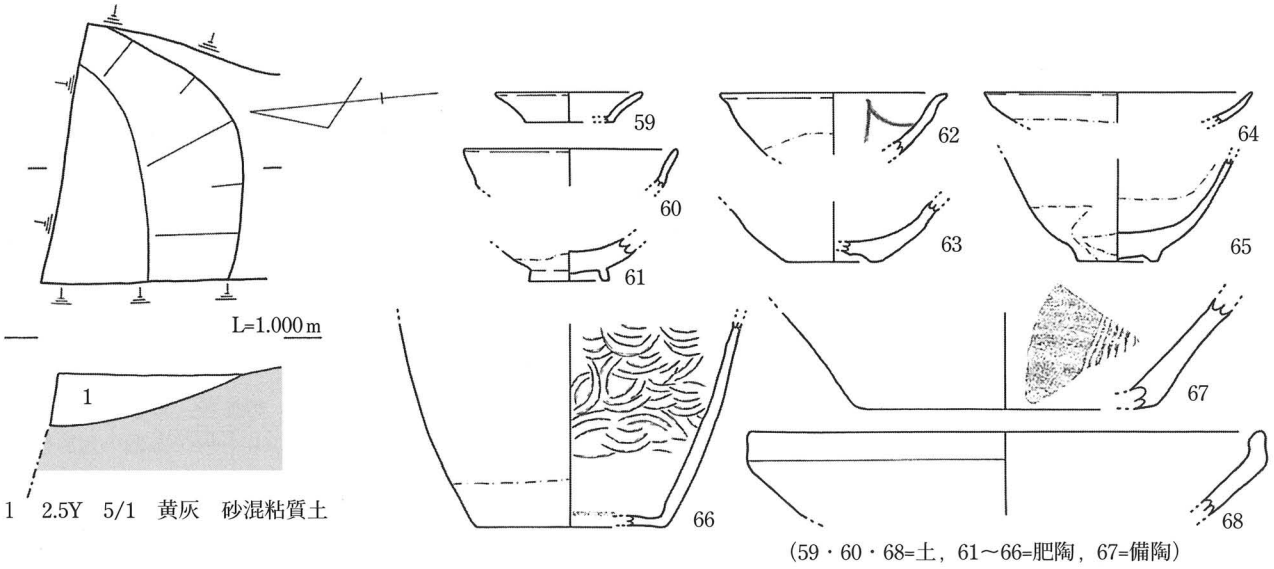
遺構の大半が第１遺構面からの掘り込みにより失われているため規模は不明である。図示した志野の他，肥前系陶器が出土した。

SK218（第９図）

調査区の北端で検出した方形の土坑で，長辺200cm，短辺182cmを測る。U字の断面形状を呈し，埋土は12層に分層できる。下層部分で東壁に平行して５個の石からなる石列を検出した。石列は自然石を利用するものの，西面をそろえて並べている。また，遺構の上面においても礎石状の集石遺構が認められたが，SK218との関連は不明である。出土遺物は肥前系陶磁器の他，漆器椀も見られる。概ね17世紀前半と考えられる。

SK219（第10図）

調査区西端で検出した土坑で，西側は調査区外へ延びている。出土遺物は肥前系陶器が中心で，概ね17世紀前半と考えられる。



（59・60・68=土，61～66=肥陶，67=備陶）

第10図　SK219平・断面図及び出土遺物実測図

第４節 第１遺構面

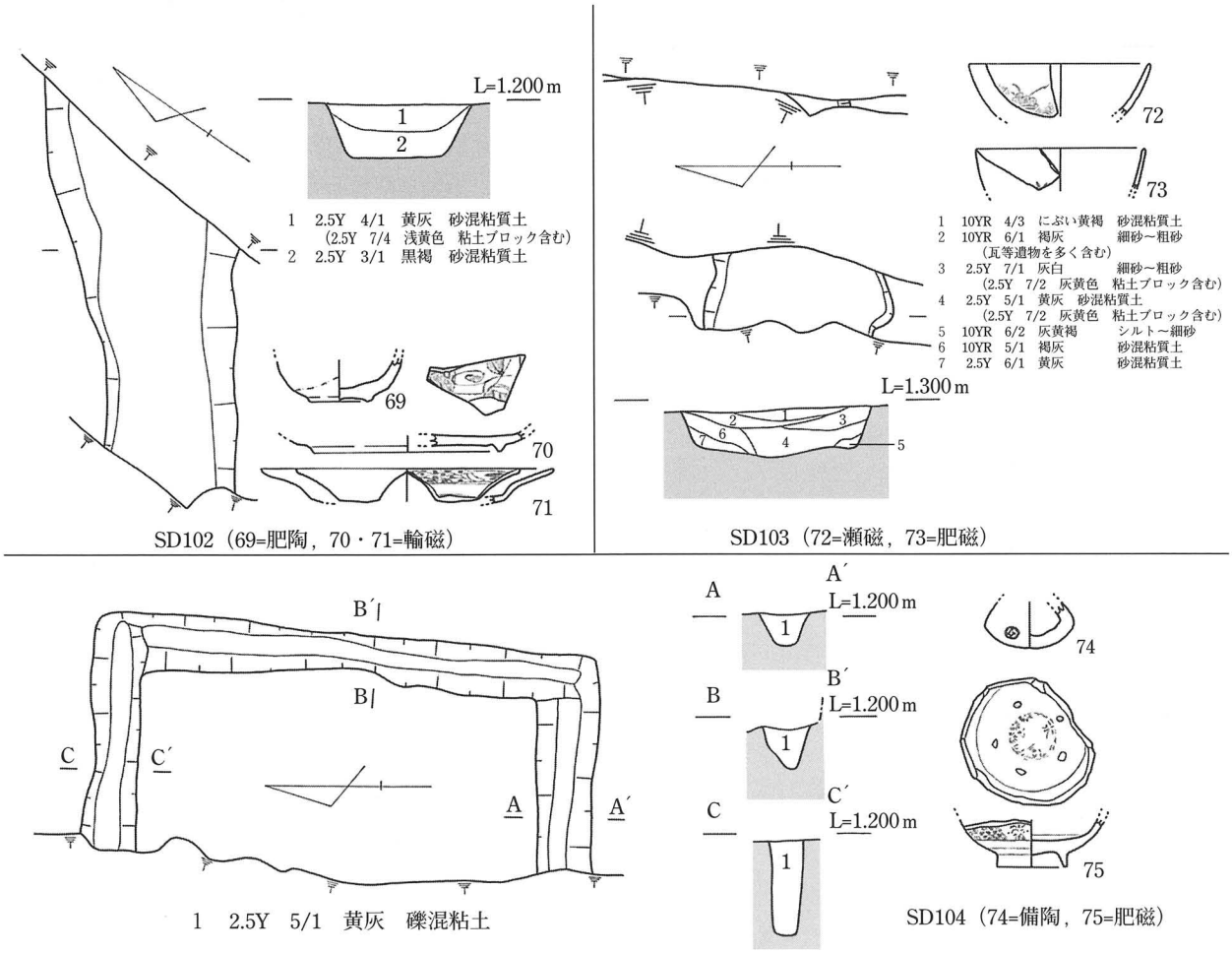
第１遺構面は海抜1.15～1.25mで検出した。遺構面の時期は，概ね18世紀後半と考えられるが，上層からの掘り込みの19世紀の遺構も同一面で調査を行ったことから18～19世紀の遺構が混在している。上層の19世紀の遺構面から確実に掘り込んでいる遺構は明治以降のものであるが，撹乱が著しく，遺構面の下限を正確に判断することはできなかった。第１遺構面では土坑39基，溝６条，井戸３基，ピット多数を検出した。特に調査区北半は遺構面を形成する整地層が見られないほど遺構が重複した状況で検出した。以下，遺物の図示できた遺構を中心に述べていく。その他の遺構については，主要遺構一覧（表１）を参考にしていただきたい。

SD102（第11図）

幅97cm，深さ16cmを測る。地割に斜行するため土坑の可能性も考えられる。出土遺物は肥前系陶器，輸入陶磁器等17世紀前半の遺物ばかりであるが，いずれも下層遺構の遺物が混入したものと考えられる。図示した遺物以外に馬の歯も出土した。

SD103（第11図）

撹乱により遺構の大半が消滅しているものの，幅103cmを測る東西方向の溝と考えられる。埋土は７層に分層でき断面形状は逆台形を呈する。３・４層部分は粘土ブロックを含み，遺物は上層のみで出土した。遺物中に瀬戸美濃系磁器碗が見られることから，19世紀に埋没したと考えられる。なお，今回の調査地付近には東西方向の屋敷の区画が存在していたことが18世紀以降幕末までの各絵図において描かれている。調査範囲が非常に狭いため，正確な判断ができたとは言い難いが，調査区内においては東西方向の溝はこの１条しかなく，他の区画施設も見られない。第２遺構面で検出した生駒期の区画溝に比べると規模が小さく，積極的に区画溝という判断はできないが，その可能性も捨て切れない。仮にこの溝を区画溝とすれば，現存する絵図等からSD103以北が松平大膳家の中屋敷，以南が小夫家または久米家の屋敷と考えられる。



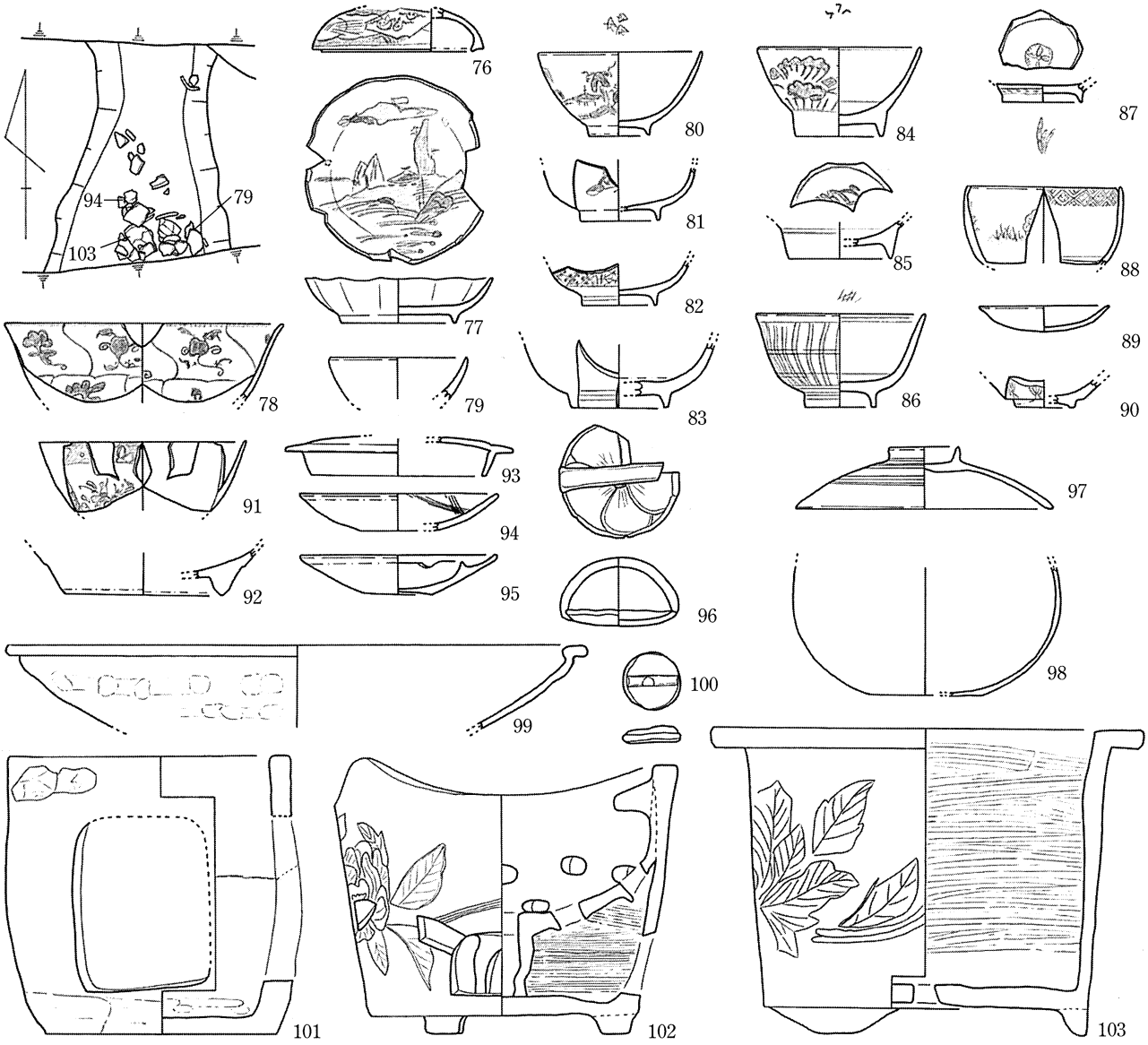
第11図 第１遺構図 溝 平・断面図及び出土遺物実測図

SD104（第11図）

西側が撹乱を受け不明であるが，南・東・北の３方にコの字状に流れる溝である。その延長は5.1m，最大幅は35cmを測る。各溝は段差をもち，南・東・北と順に深くなっており，北西部の最深部は深さ65cmを測る。埋土は単層で，埋土中には拳大の礫を隙間なく詰め込まれていた。出土遺物に型紙刷の肥前系磁器皿が見られることから明治の遺構と考えられる。

SD105（第12図）

南北とも撹乱により長さは不明であるが，幅1.1mの溝である。埋土は３層に分層でき，断面形状は逆台形である。埋土中には粘土ブロックや炭を多く含み，遺物は中層部分でまとまって出土した。肥前系磁器の広東碗，瀬戸美濃系磁器，軟質陶器等が見られることから19世紀前半の遺構と考えられる。

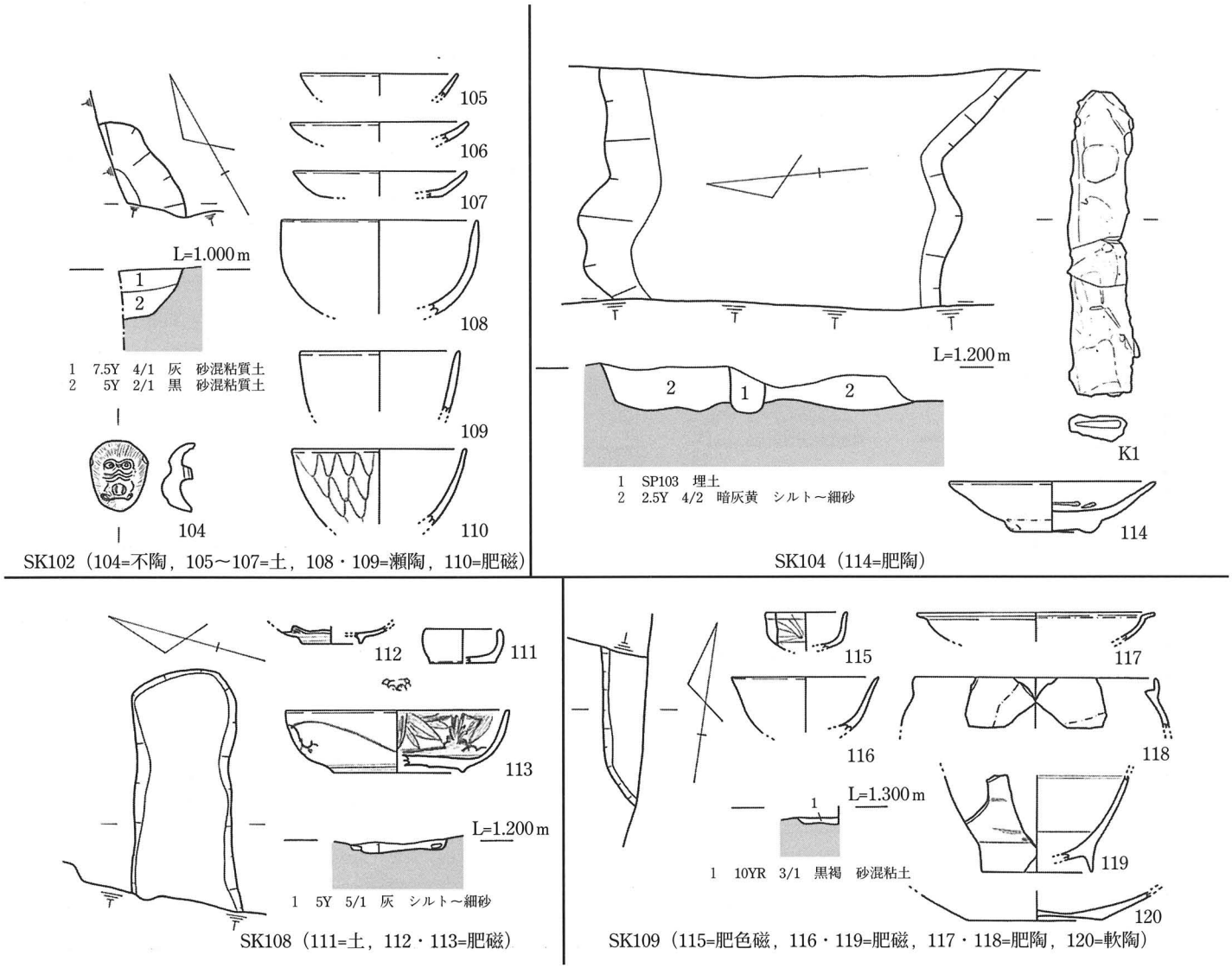


（76～87=肥磁，88=瀬陶，89=備陶，90～96=京陶，97・98=軟，99～103=土）

第12図　SD105平面図及び出土遺物実測図

SK102（第13図）

調査区の南端でSD101の下層で検出した遺構である。南と西は撹乱で削平されており，規模・形状ともに不明である。検出面のレベルは第２遺構面とほぼ同レベルであり，掘り込み面がSD101によって削平されているので第１・第２遺構面いずれの遺構かは判断しづらく，第２遺構面の遺構の可能性も考えられる。ここでは第１遺構面の調査中に検出したことから，第１遺構面の遺構として報告しておく。遺物は猿顔の芥子面の他，土師皿等が見られる。17世紀後半と考えられる。



第13図　第１遺構面 土坑 平・断面図及び出土遺物実測図①

SK104（第13図）

SK104は長辺2.32m，短辺1.4m以上の土坑である。出土遺物のほとんどが17世紀前～中葉の遺物で，下層遺構の遺物が混入したと考えられる。

SK108（第13図）

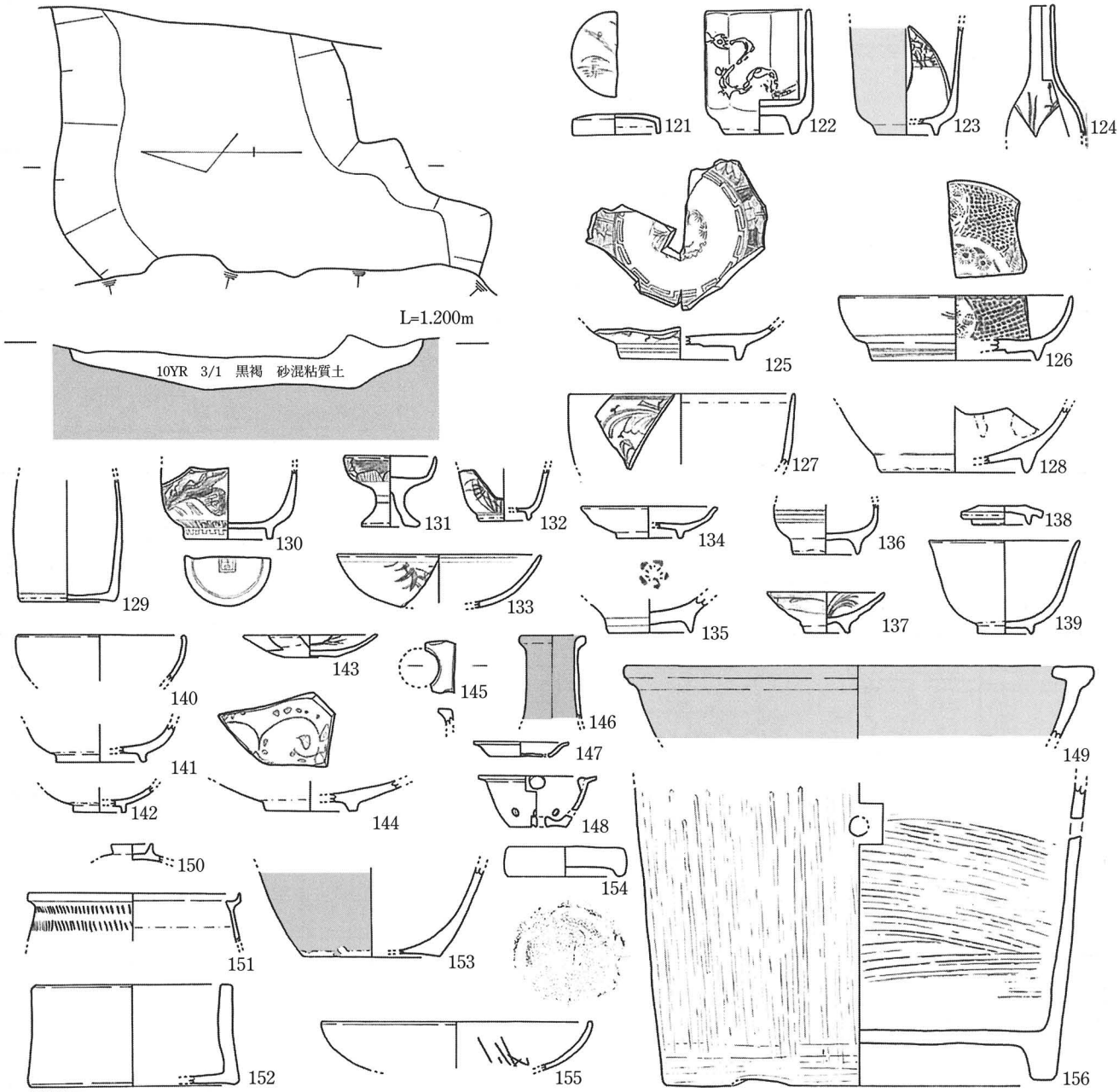
長辺1.4m以上，短辺60cmの溝状の土坑である。深さは７cmで断面形態は浅い皿状を呈する。出土遺物は土師器の小碗や蛇の目凹形高台を有する肥前系磁器など18世紀後半頃の様相を示すが，切り合い関係にあるSK110に明治の遺物が見られることから，明治以降の遺構と考えられる。

SK109（第13図）

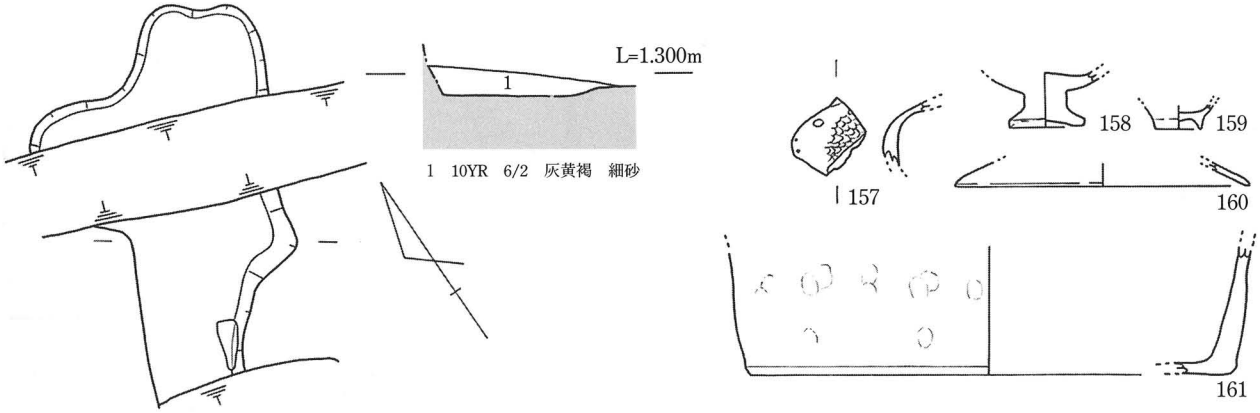
長辺82cm以上，短辺28cm以上，深さ８cmの土坑である。出土遺物は肥前系磁器の広東碗が見られることから19世紀初頭の様相を示すが，SK108同様，切り合い関係にあるSK110に明治の遺物が見られることから，明治以降の遺構と考えられる。

SK110（第14図）

長辺2.66m，短辺1.5m以上になる不整形の土坑である。SK108・109に切られている。出土遺物は土師質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶磁器，京信楽系陶器，大谷焼等多種多量に見られるが，全体的に混じりのある資料群で18世紀後半～明治の遺物が見られる。

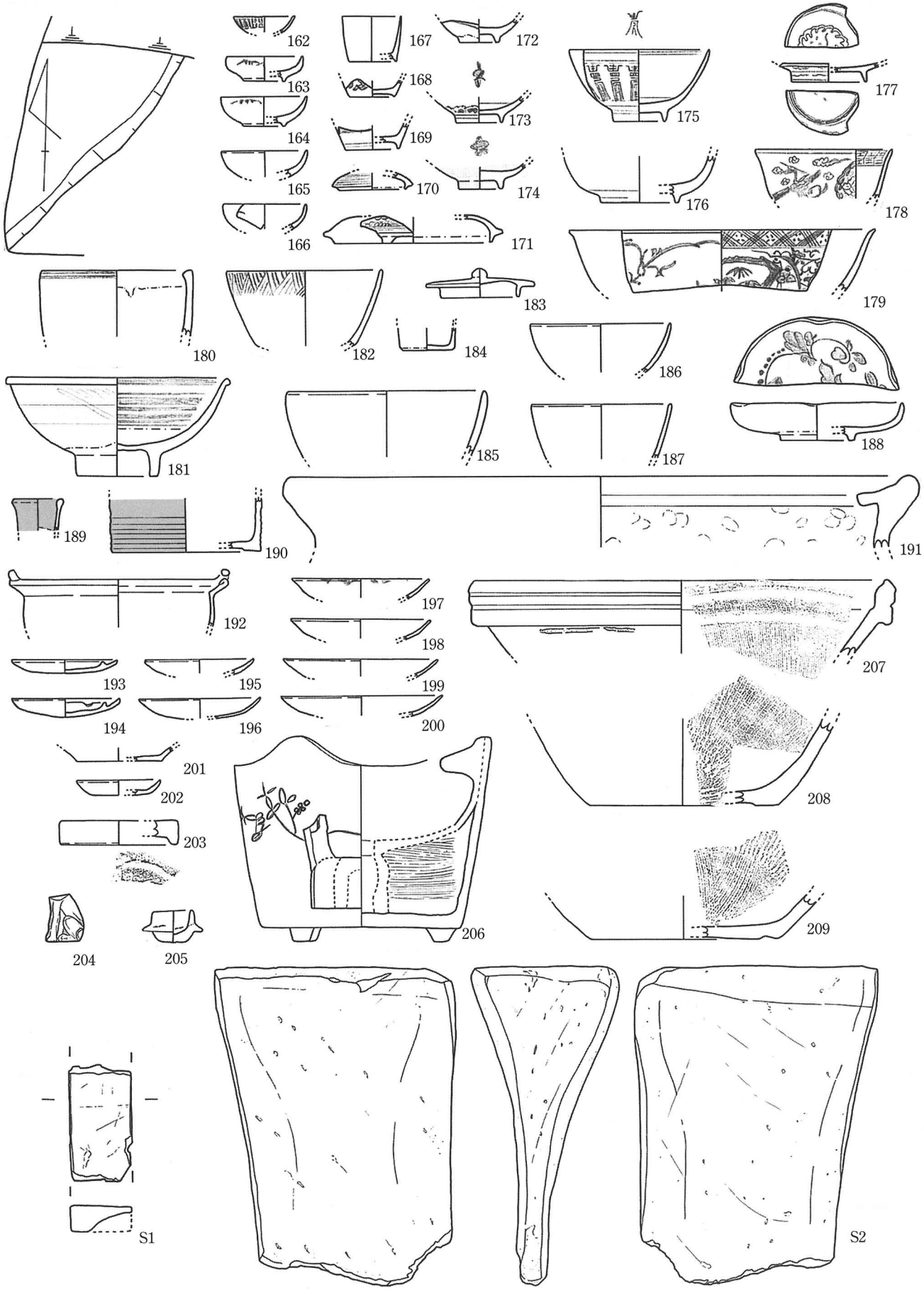


SK110（121～128=肥磁，129～133=瀬磁，134・135=瀬陶，136・137=肥陶，138～143=京陶，144=京陶色，145～149=不陶，150・151=軟，152=備陶，153=大，154・155=土，156=瓦質）



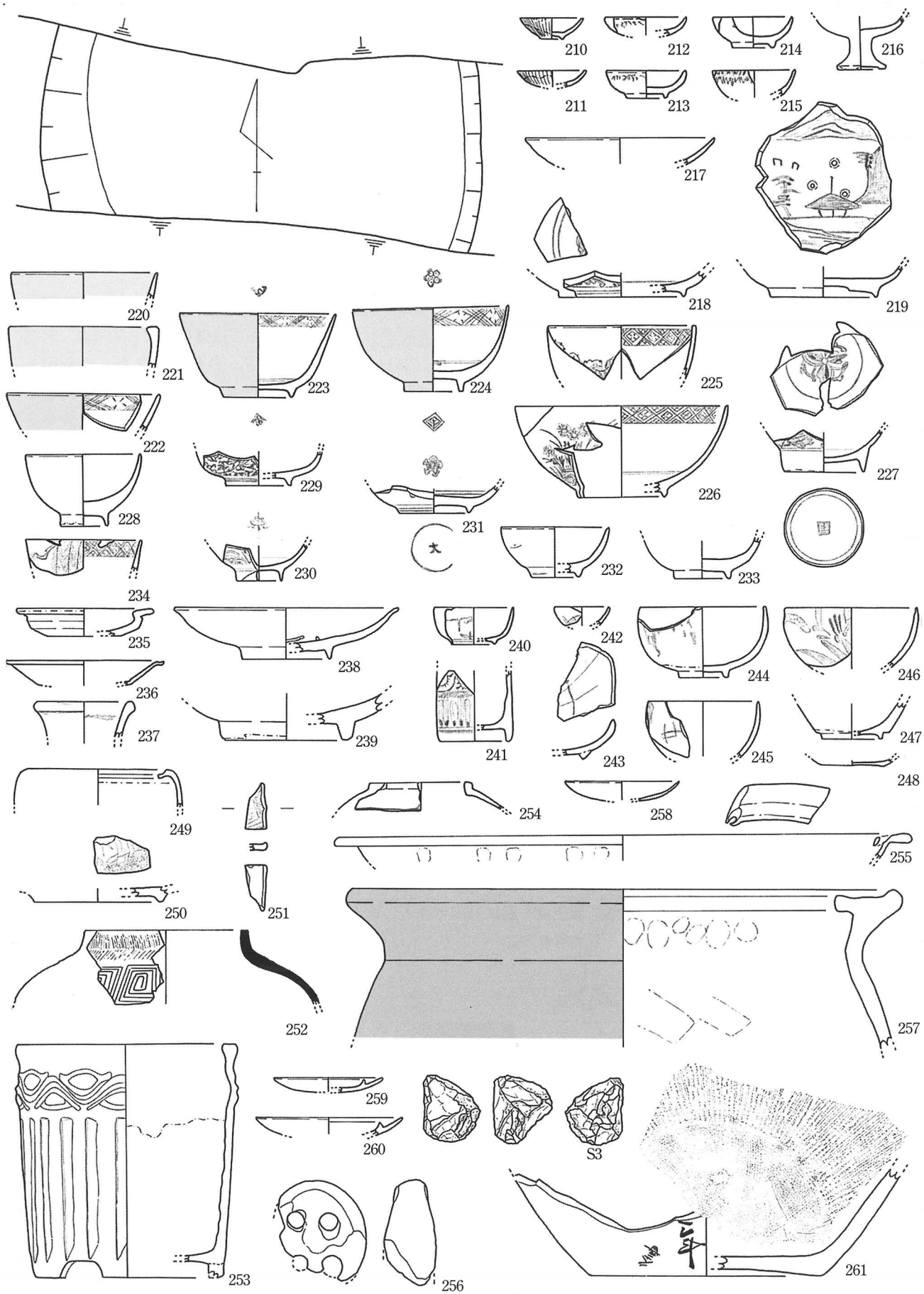
SK111（157・161=土，158=肥磁，159=瀬磁，160=軟）

第14図　第１遺構面 土坑 平・断面図及び出土遺物実測図②



SK112（162～179=肥磁，180・181=肥陶，182=志野，183～187=京陶，188=京陶色，189・190=不陶，191～200・207=備陶，201～206=土，208・209=堺陶）

第15図　SK112平面図及び出土遺物実測図



SK114（210～234=肥磁，235～239=肥陶，240～242=瀬磁，243・244=瀬陶，245・246=京陶色，247～249=京陶，250・251=源内，252=須，253・254=不陶，255・256=土，257～260=備陶，261=堺）

第16図　SK114平面図及び出土遺物実測図

SK111（第14図）

長辺２m以上になる不整形の土坑である。埋土は単層で，深さは７cmの浅い皿状の堆積である。出土遺物中には瀬戸美濃系磁器の盃や軟質陶器が見られ，概ね19世紀中葉と考えられる。

SK112（第15図）

調査区の西端で検出した土坑である。遺構は調査区外にのびるが，隣接する高松城跡（丸の内地区）では検出されていないことから，西側へはほとんど延びないことが想定できる。肥前系磁器，京・信楽系陶器，備前焼等が主体を占める。また，ミニチュアの釜，犬の土製品などの玩具類も出土した。19世紀前半の遺構と考えられる。

SK114（第16図）

北と南が撹乱により削平されているが，径3.6mの円形の土坑になると考えられる。深さ74cmを測る埋土は７層に分層でき，各層から多量に遺物が出土した。肥前系磁器，京・信楽系陶器が主体を占め，その他瀬戸美濃系陶磁器，備前焼，火打ち石などが見られる。250・251は源内焼の可能性が高い。261は明石焼の擂鉢で，外面に「久喜」の刻印と「□年」の墨書が見られるが，上部が欠損しているため，年号が不明である。遺構の時期としては外面青磁釉の肥前系磁器碗など18世紀後半の様相を示すものも多いが，瀬戸美濃系磁器など後出する要素を持つ遺物も多量に含むことから19世紀の遺構と考えられる。

SK118（第17図）

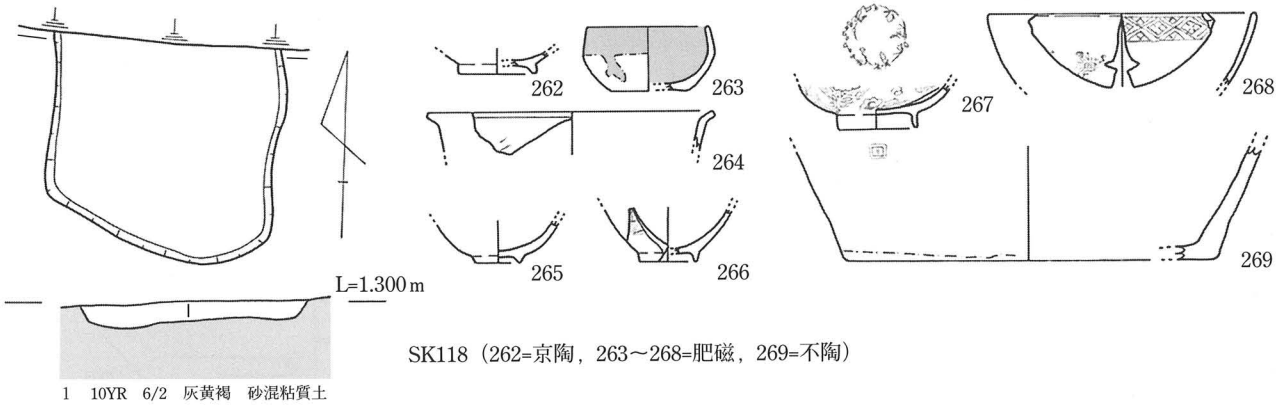
SD106の南側延長部分にあたるため，溝の続きとも考えられるが，深さ，埋土ともSD106と異なることから，別の遺構として取り扱った。北側が撹乱により削平されているが，東西1.22m，南北1.16m以上を測る方形の土坑である。埋土は単層で，断面形状は浅い逆台形を呈する。SK121と切り合い関係にあり，下層のSK121が19世紀の遺構であることから，19世紀以降の遺構と考えられる。

SK121（第18・19図）

SK118の下層で検出した遺構である。東側は調査区外へ延びるため規模は不明であるが，長辺1.5m以上，短辺1.06m以上，深さ1.15mを測る。埋土は６層に分層でき，土層は調査区東壁断面図の70～75層に該当する。埋土は全体に炭を含むが，特に中層（72層）および下層（74層）に多量の炭が含まれていた。出土遺物は陶磁器類と木製品が見られる。陶磁器類は上層（70・71層）から出土した。肥前系磁器，京信楽系陶器，軟質陶器が主体を占める。特に軟質陶器の土瓶が６個体出土しており，いずれも完形に近い。また，最下層（75層）からは下駄，漆器椀等，多量の木製品が出土した。端反碗，軟質陶器が見られることから19世紀の遺構と考えられる。

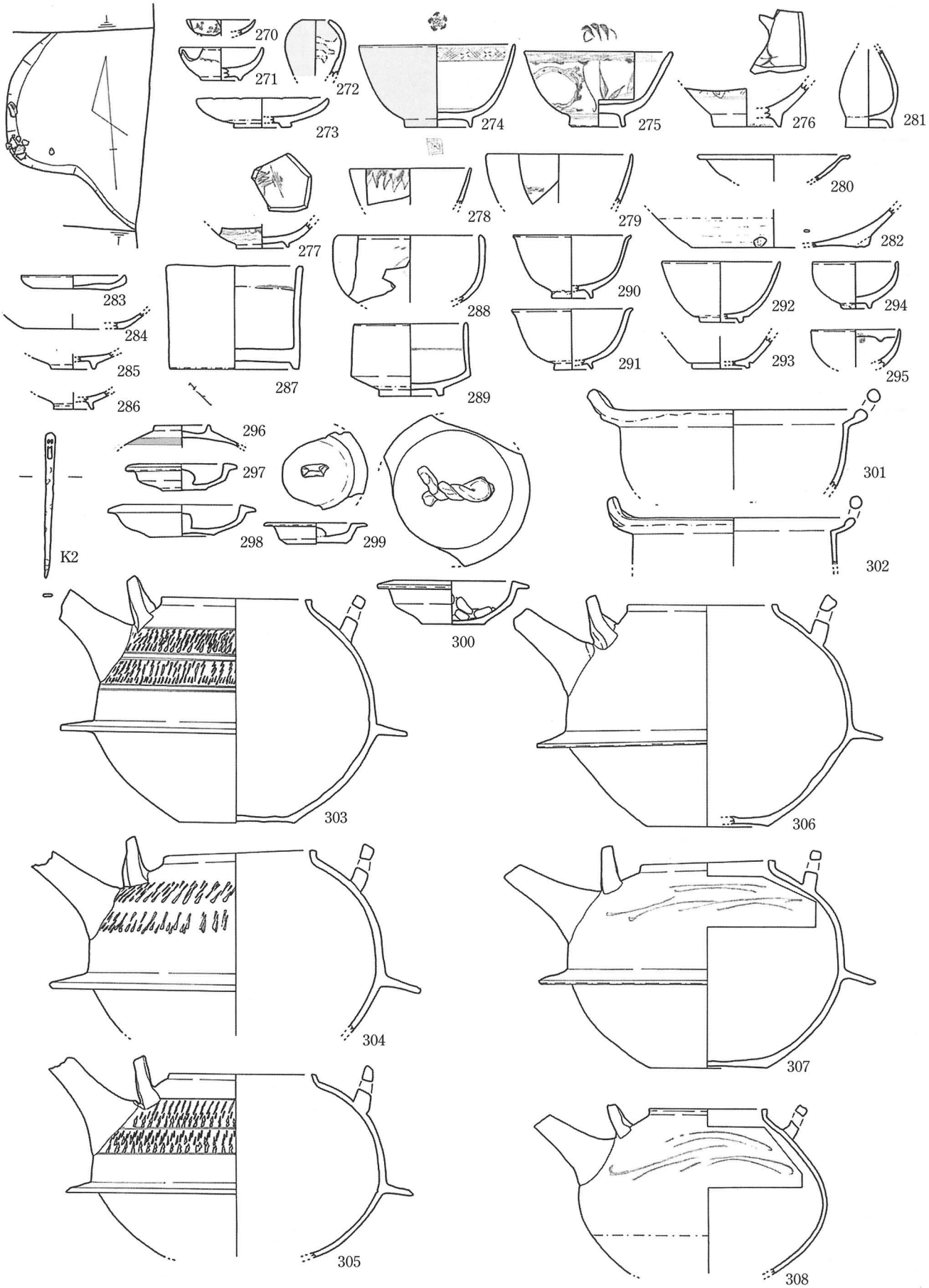
SK122（第20図）

長辺2.21m以上，深さ32cmの土坑である。埋土は４層に分層できる。外面青磁釉の肥前系磁器碗や京信楽系陶器の煎じ碗などが見られ，18世紀後半の遺構と考えられる。



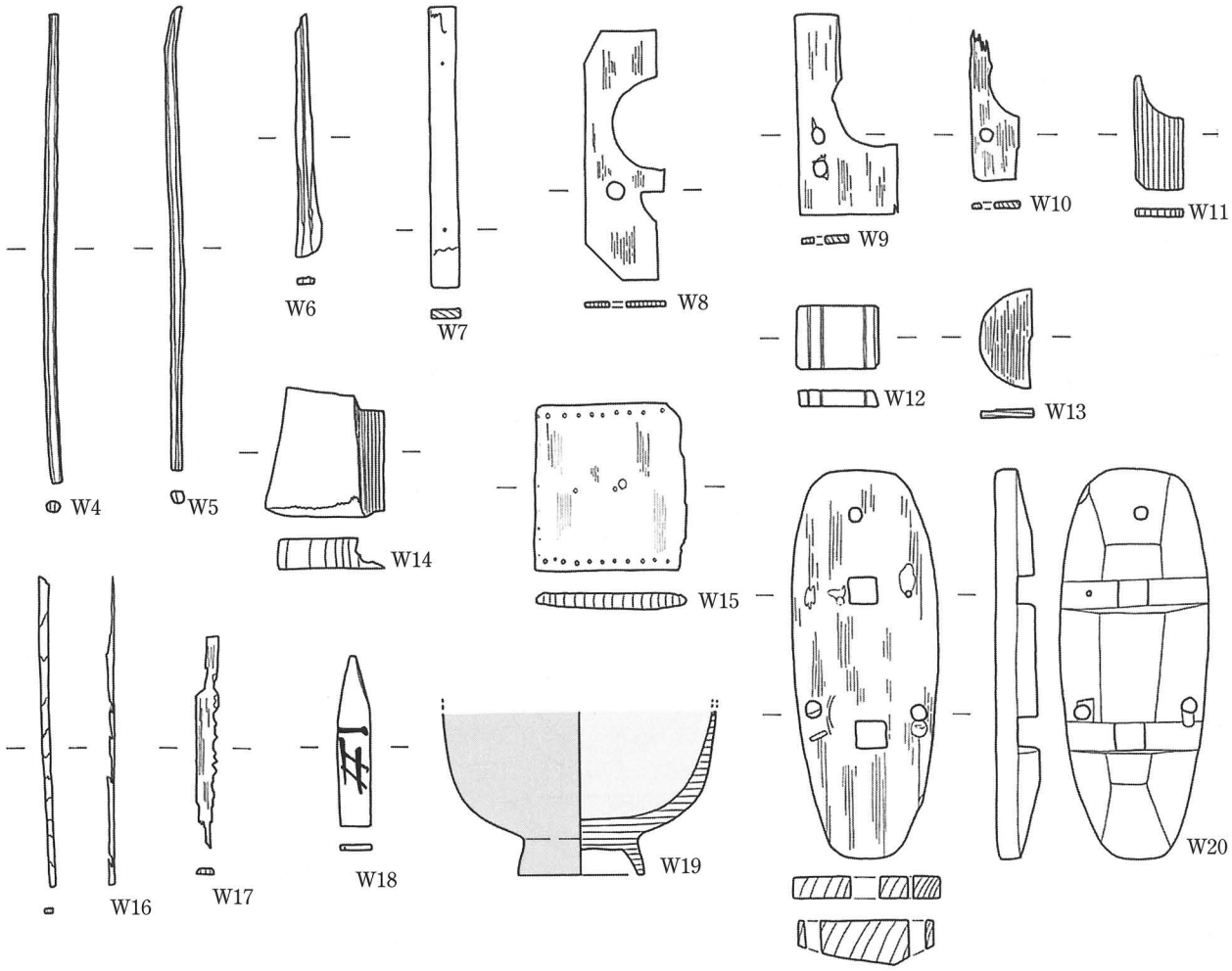
SK118（262=京陶，263～268=肥磁，269=不陶）

第17図　SK118平・断面図及び出土遺物実測図

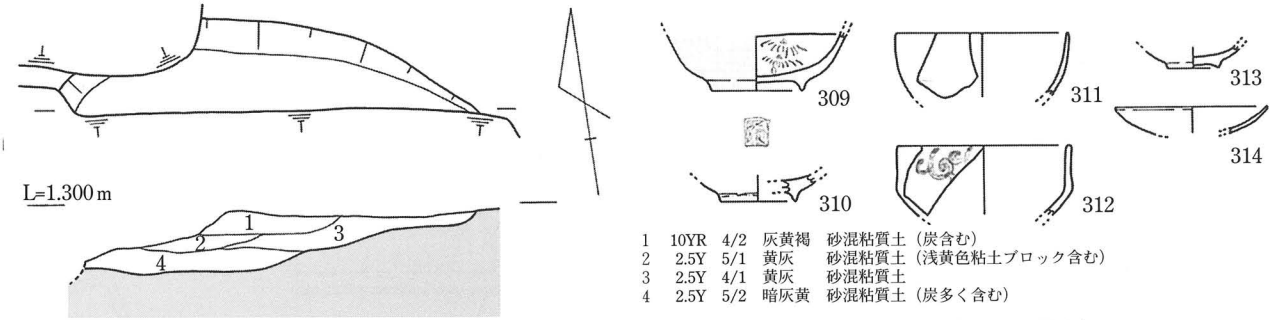


SK121（270～279=肥磁，280=肥陶，281・282=不陶，283・284=土，285～295=京陶，296～308=軟）

第18図　SK121平面図及び出土遺物実測図



第19図　SK121最下層出土木製品実測図



1　10YR　4/2　灰黄褐　砂混粘質土（炭含む）
2　2.5Y　5/1　黄灰　砂混粘質土（浅黄色粘土ブロック含む）
3　2.5Y　4/1　黄灰　砂混粘質土
4　2.5Y　5/2　暗灰黄　砂混粘質土（炭多く含む）

SK122（309=肥磁，310～313=京陶，314=備陶）

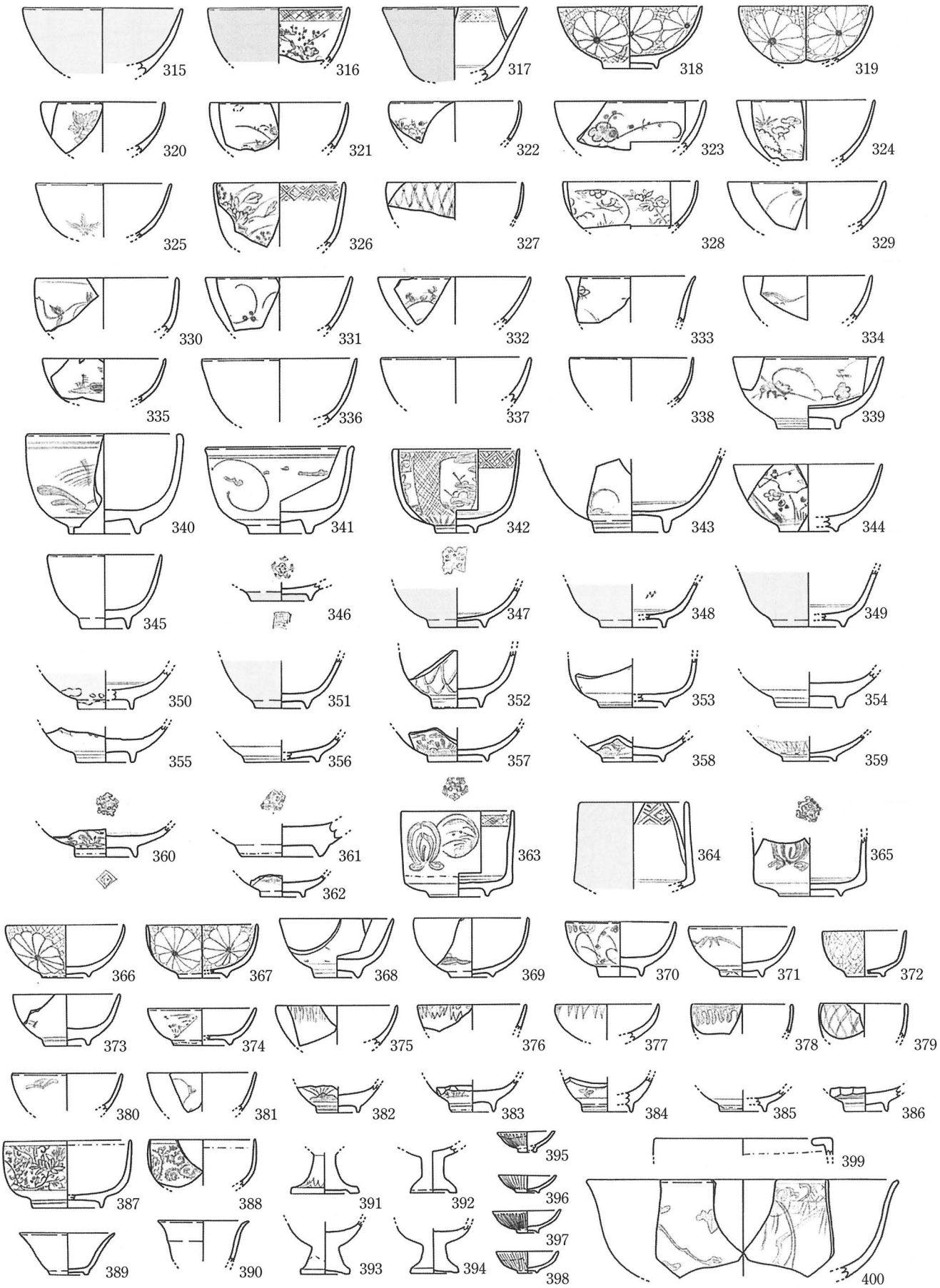
第20図　SK122平・断面図及び出土遺物実測図

SK123（第21～40図）

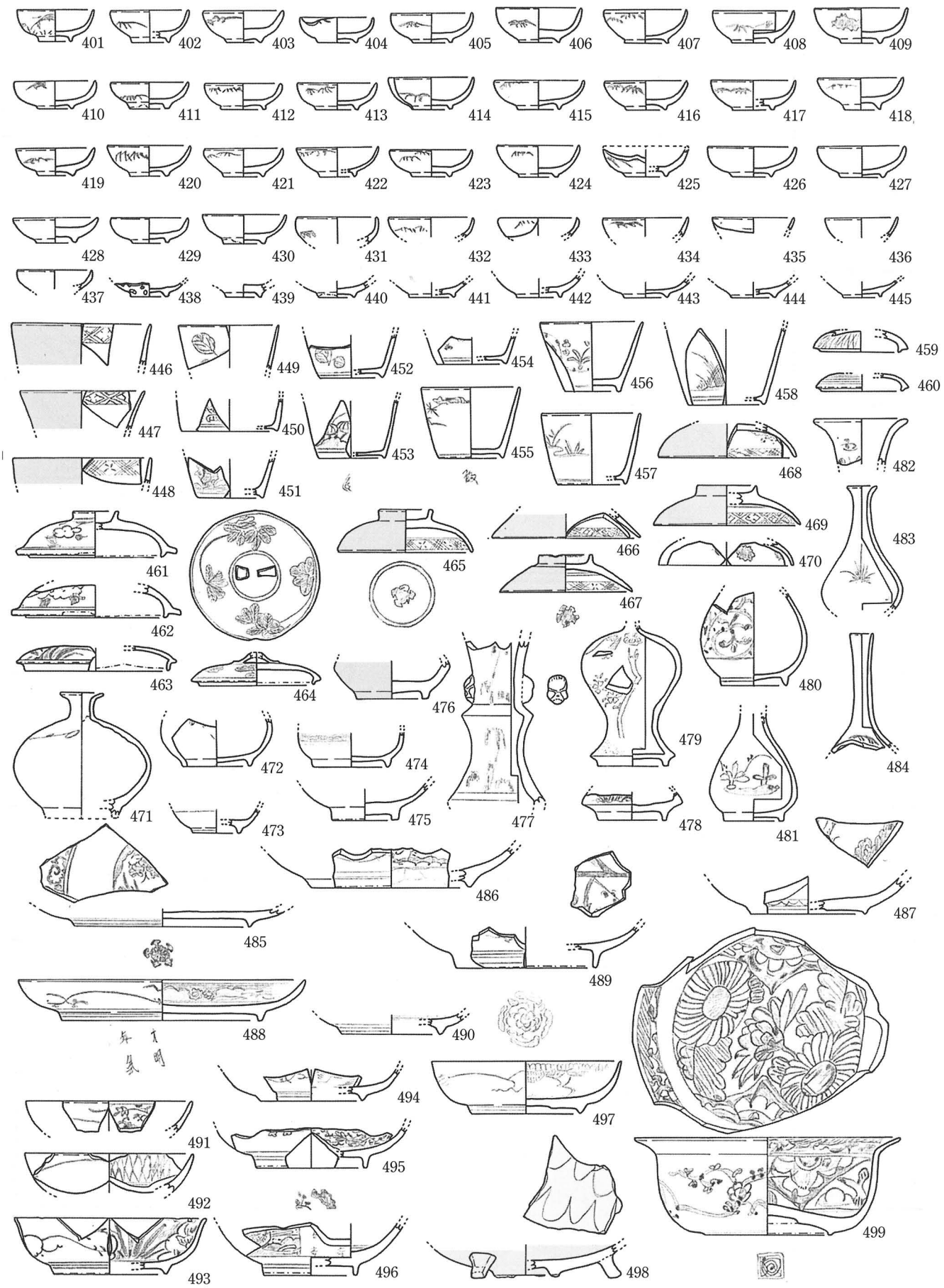
調査区北西隅で検出した大型の土坑である。検出部分の規模は東西約2.9m，南北約3.3m，深さ65cmを測る。検出部分は遺構の南東隅部分と考えられ，西側は高松城跡（丸の内地区）のSK07につながり，東西約4.5mの規模になる。埋土は4層に分層でき，断面形状は逆台形を呈する。出土遺物はコンテナ100箱以上にのぼり，今回の調査で出土した遺物の半数はこの遺構のものである。土器類では肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶器，京信楽系陶器，備前焼，土師質土器等，木器類では漆器椀，曲物，箸等が見られる。その他，馬，人，茄子，社等の土製品やミニチュアの食器類等玩具類も出土した。遺物は遺構内に隙間無く折り重なるようにして検出したが，主に土器類が上層中心に，木器類が下層を中心に出土した。遺構上部が撹乱を受けていたためか，遺構の上面からの掘り込みはなく，遺物の混入がほとんどなく，18世紀第3四半期の良好な資料群と言える。漆器椀や箸が多いことから，饗宴後の後片付けに利用された可能性が考えられる。

1	5Y	4/1	灰	砂混粘質土
2	N	2/0	黒	粘土
3	7.5Y	2/1	黒	粘土
4	2.5Y	5/1	黄灰	細砂

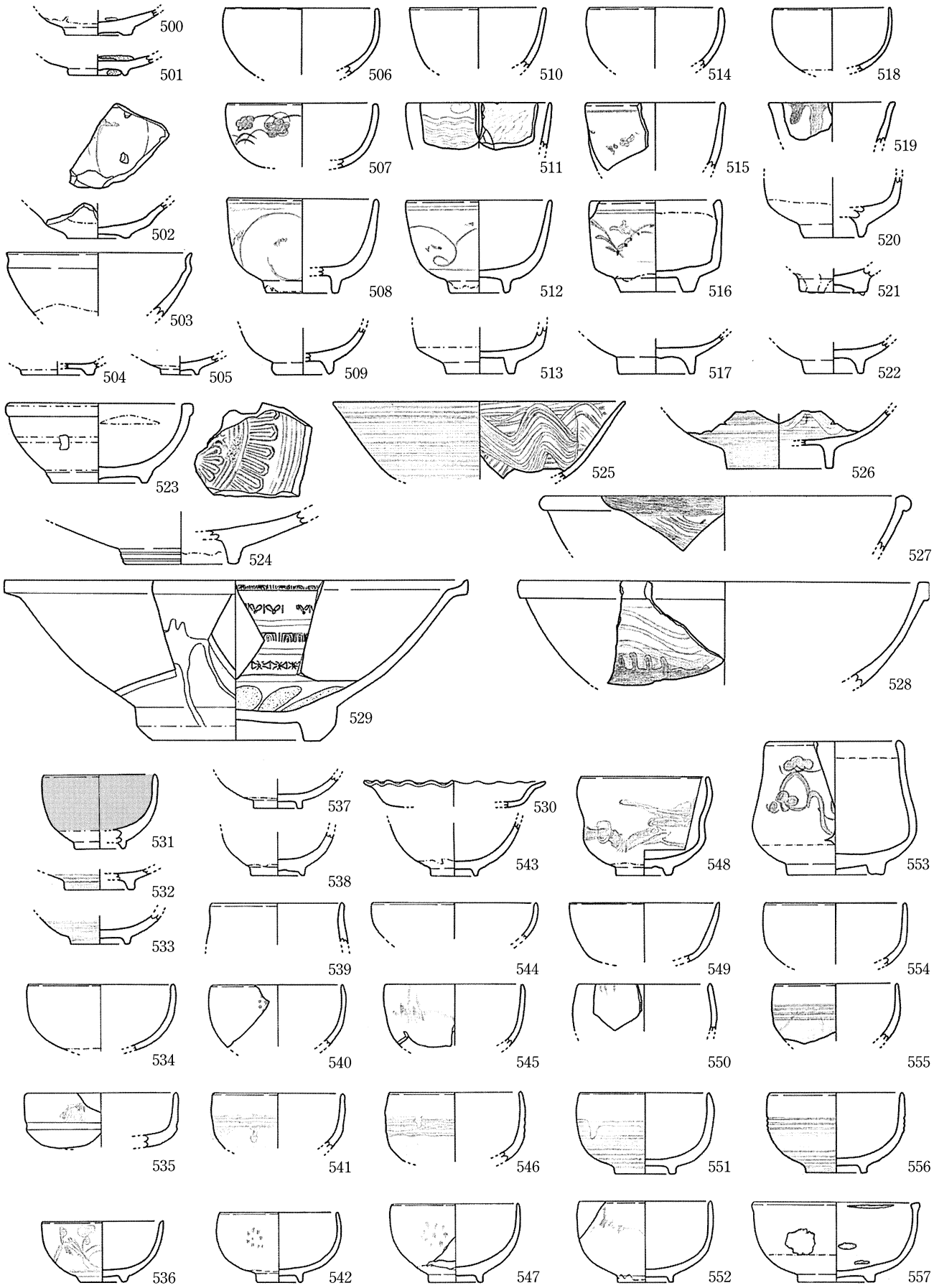
第21図　SK123平・断面図



第22図　SK123出土遺物実測図（肥前系磁器①）

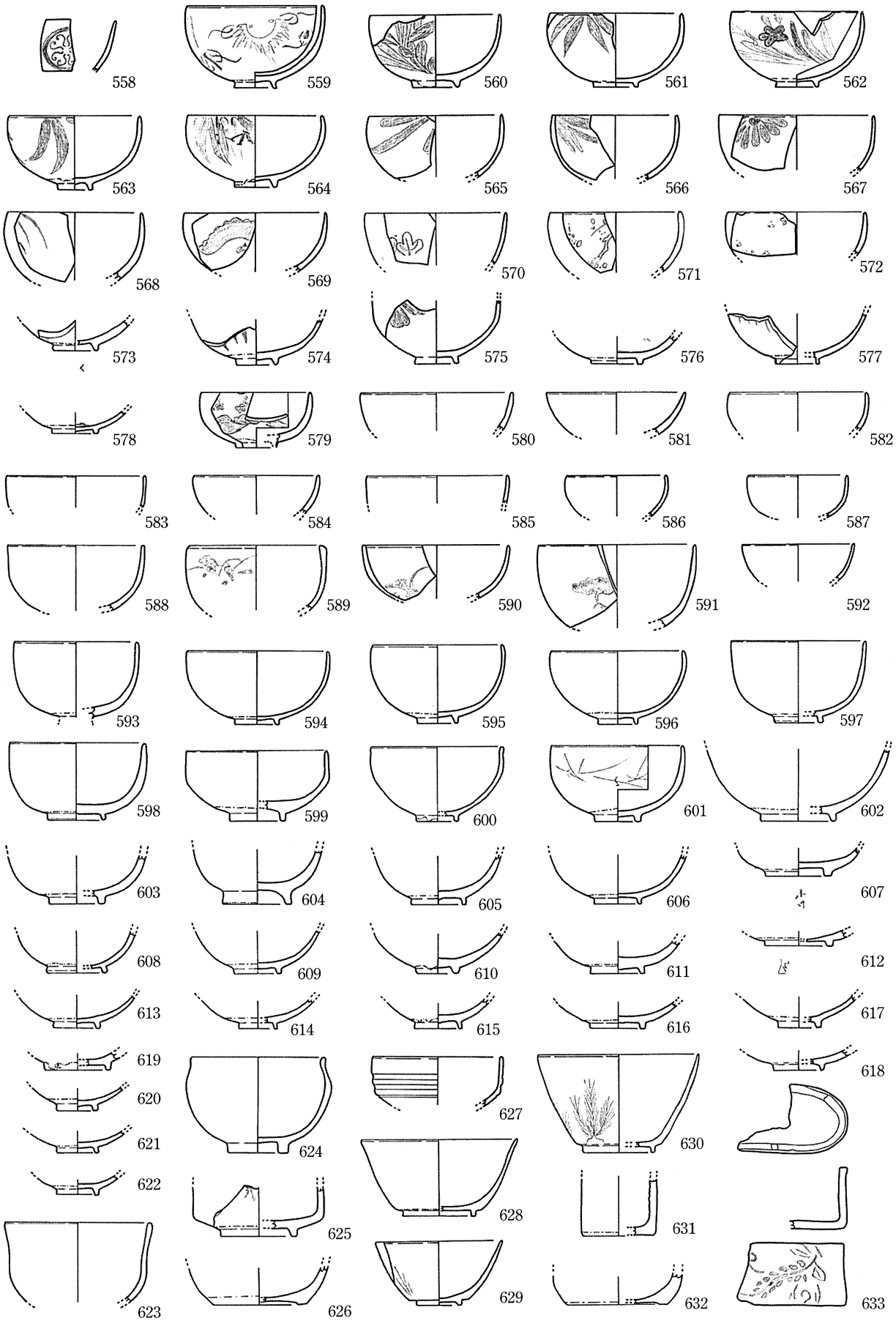


第23図　SK123出土遺物実測図（肥前系磁器②）

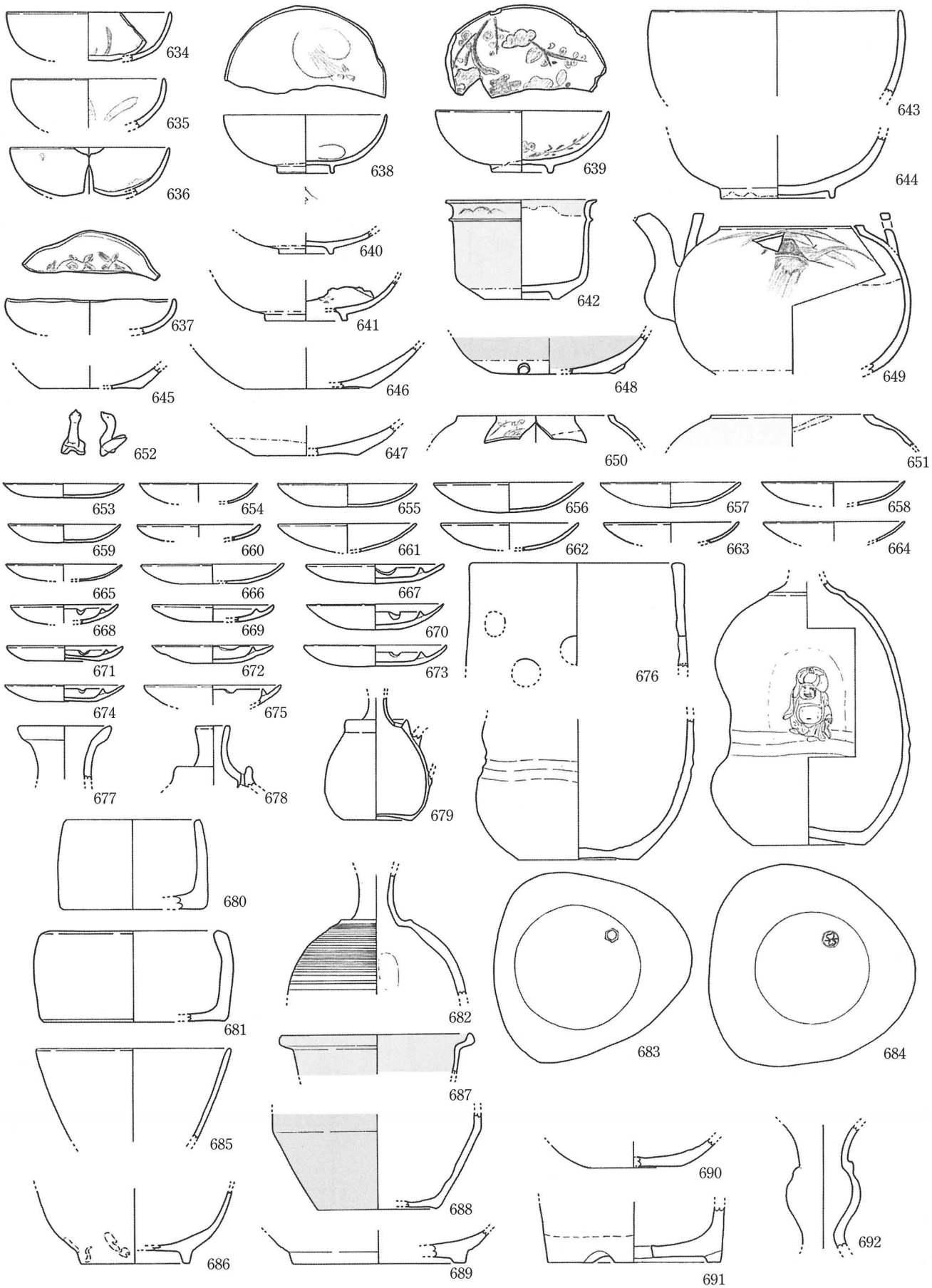


（500～528=肥陶，529～557=瀬陶）

第24図　SK123出土遺物実測図（肥前・瀬戸美濃系陶器）

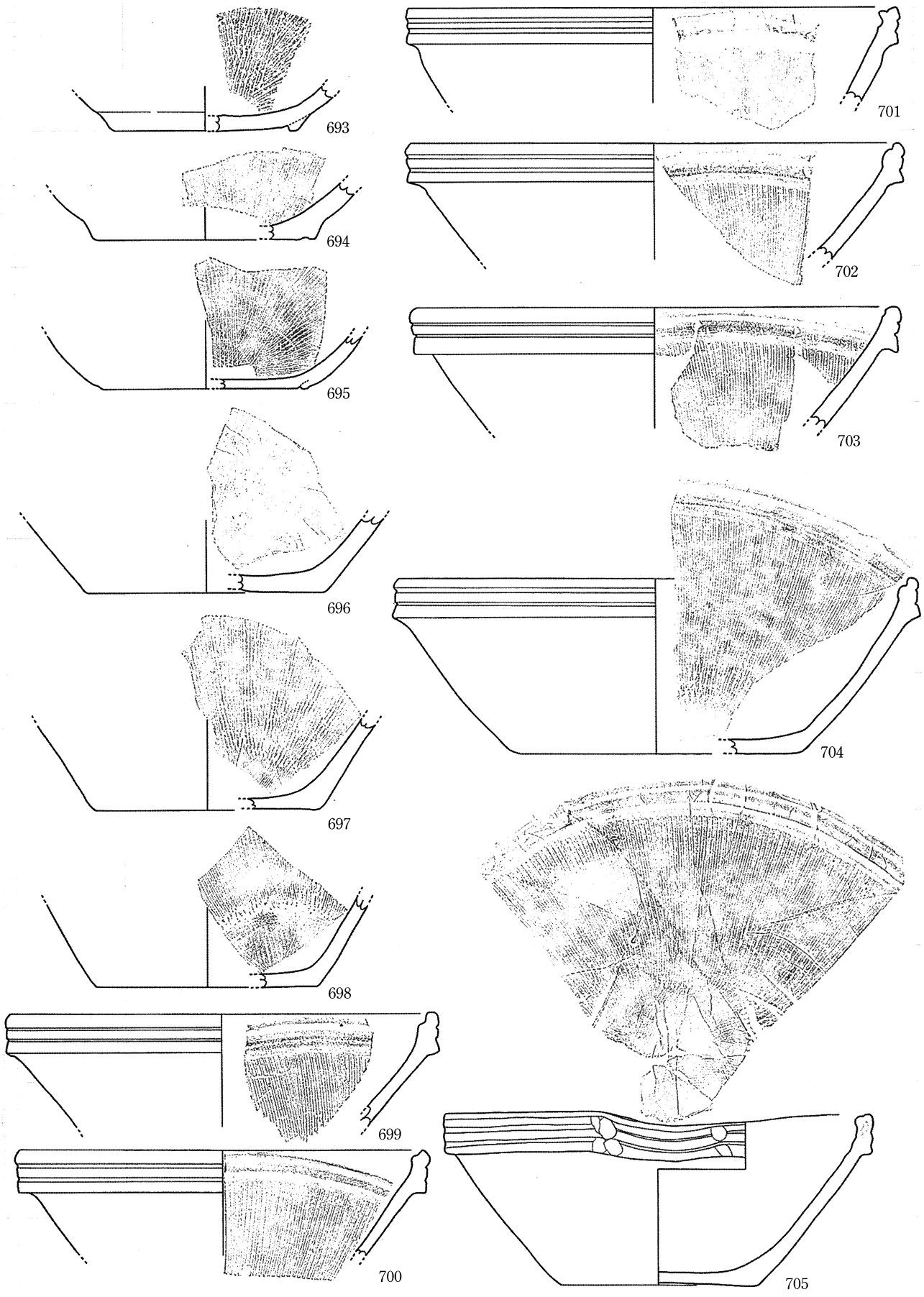


第25図　SK123出土遺物実測図（京信楽系陶器）

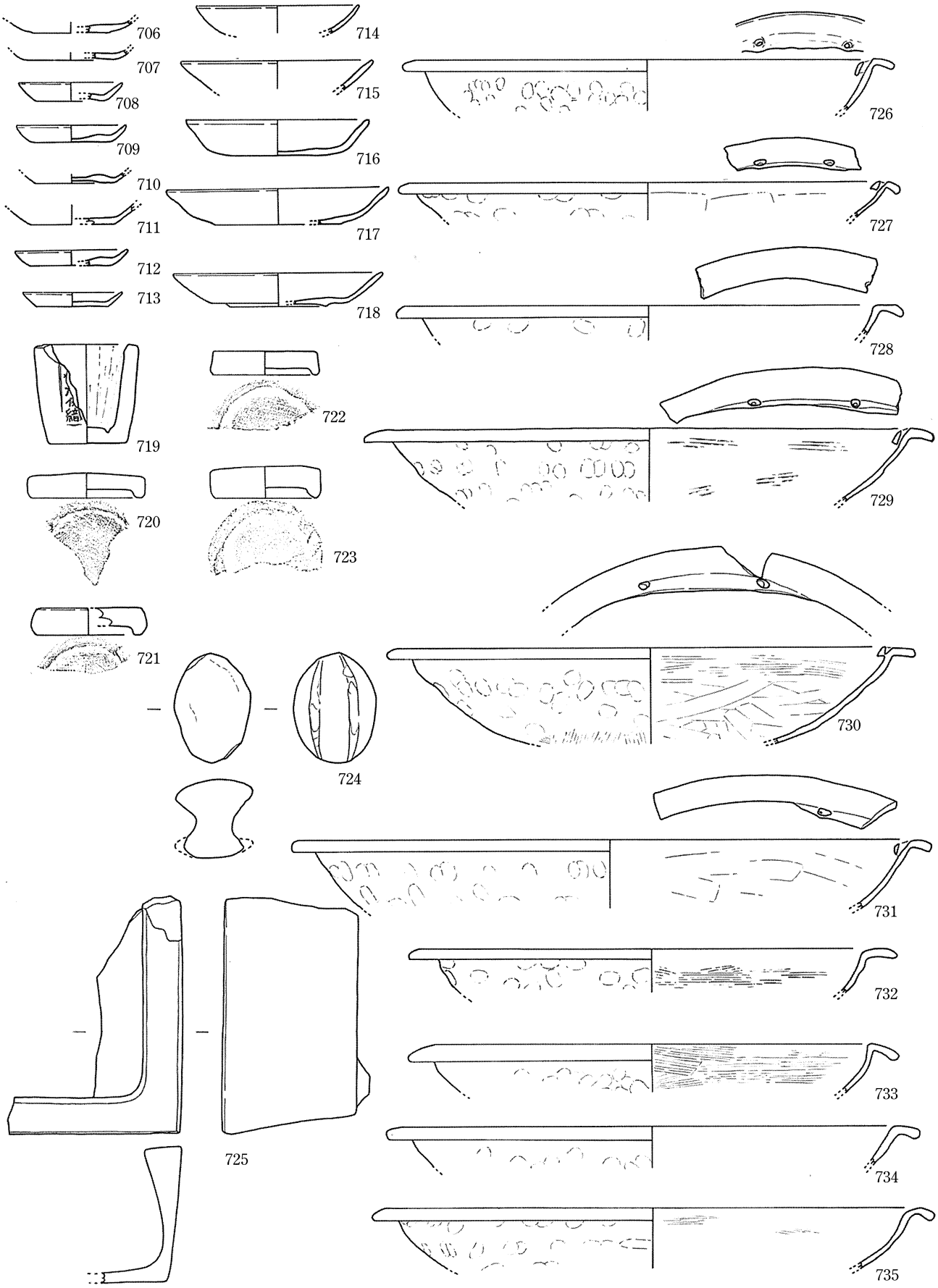


（634～652=京陶，653～684=備陶，685～692=不陶）

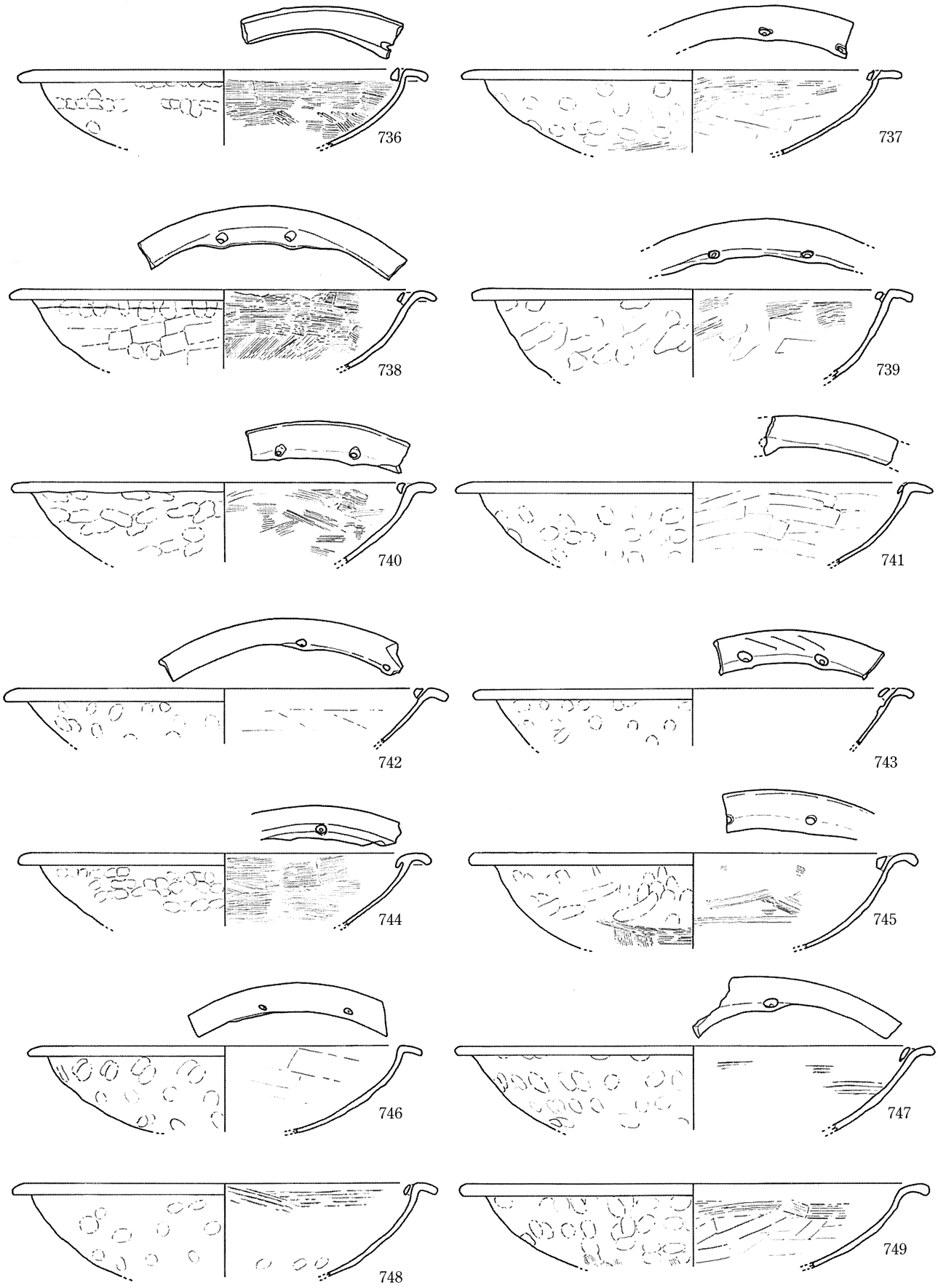
第26図　SK123出土遺物実測図（京信楽・備前・産地不明陶器）



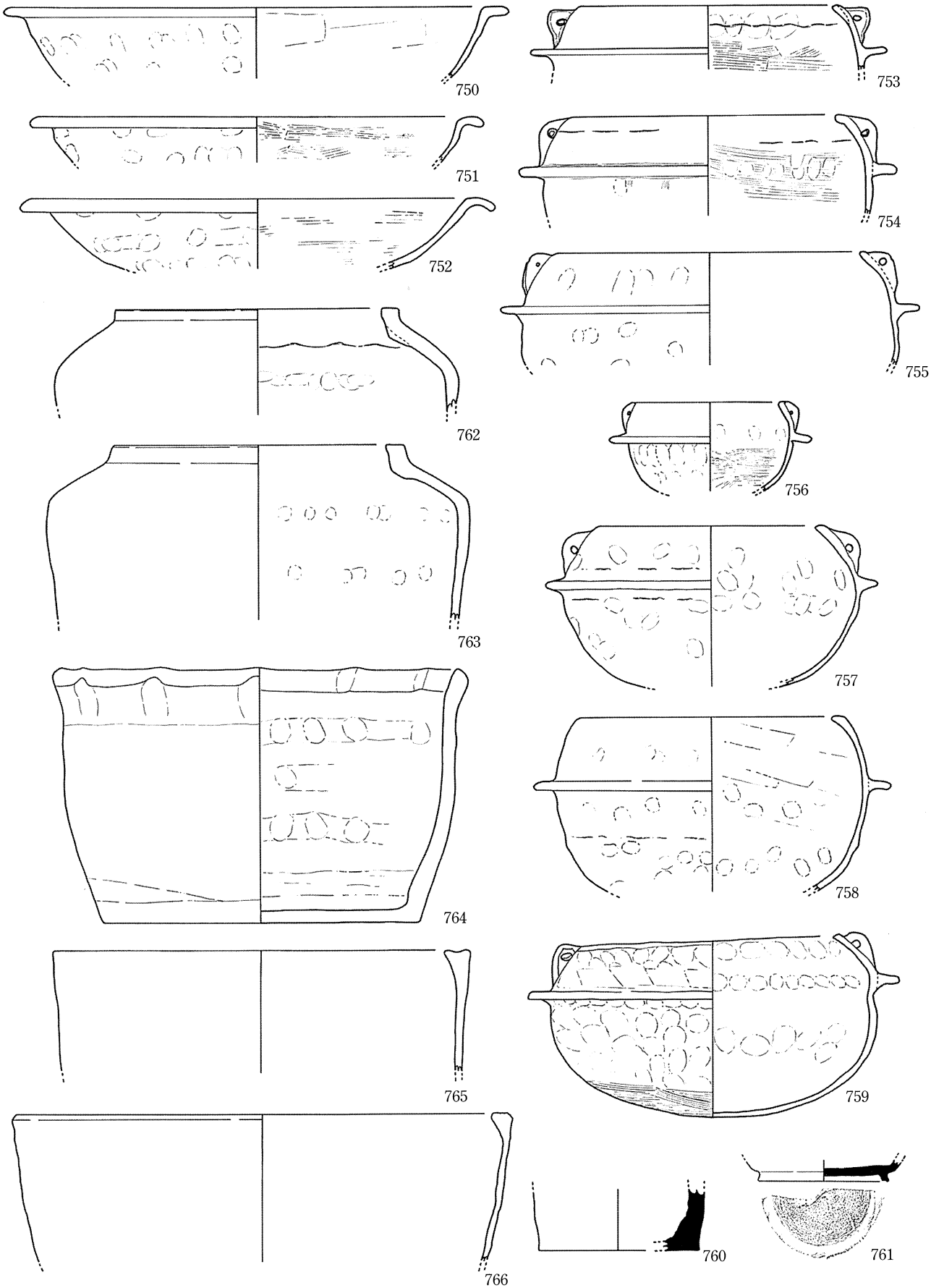
第27図　SK123出土遺物実測図（堺焼擂鉢）



第28図　SK123出土遺物実測図（土師質土器等①）



第29図　SK123出土遺物実測図（土師質土器等②）

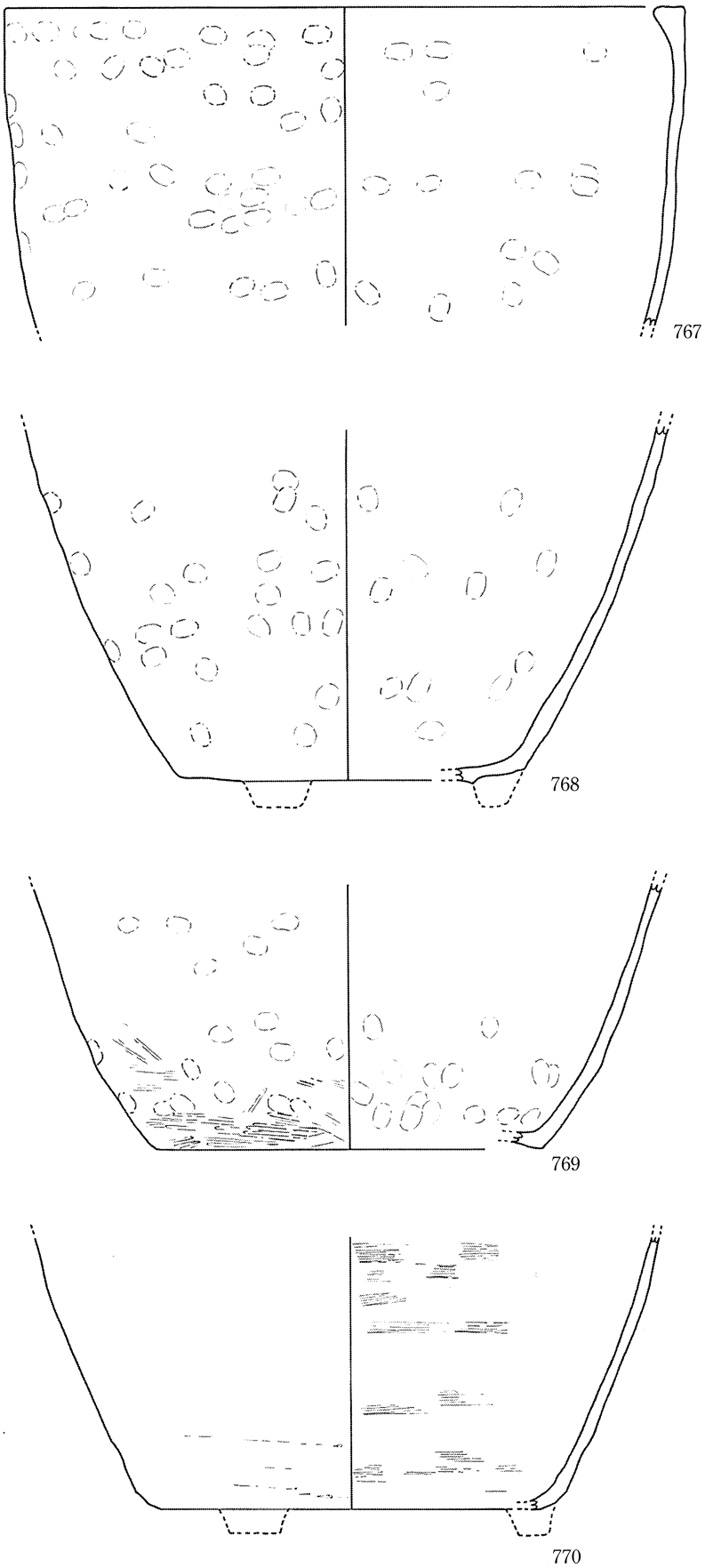


第30図　SK123出土遺物実測図（土師質土器等③）

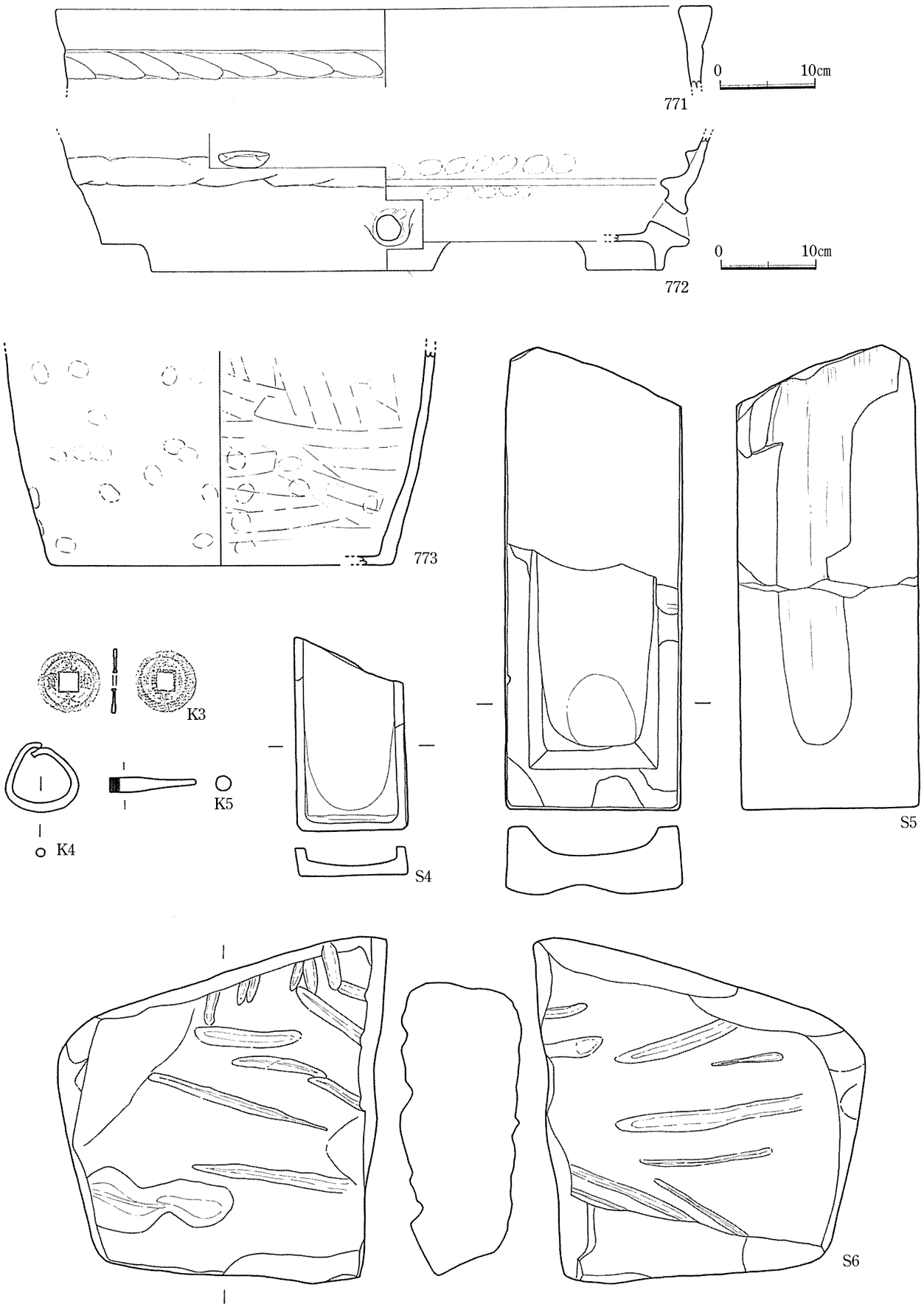
315～499は肥前系磁器である。315～386は碗形態のもので，315～365までの大振りの碗と366～386の小振りの碗に分けることができる。316・317・346～351・364は外面青磁釉を施している。318・319・367は内外面ともに菊花散らしが見られる。見込みに施される五弁花文のコンニャク印判は346・347・360・361・363・365の大振りの碗のみに認められる。一方，小振りの碗には375～378に見られるように雨降り文が多い。なお，小振りの碗には盃や仏飯具の口縁部が含まれていると考えられる。387・388は口縁部内面が無釉となっており，蓋物である。389・390は盃である。391～394は仏飯具で，無地のものが主体を占めるが，391のように裾部に文様を施すものも見られる。395～398は紅皿で，外面下半を無釉にしている。399・400は鉢である。401～445は紅猪口である。409のほとんどの口縁部に笹の染付けが認められる。446～458は蕎麦猪口である。446～448は外面青磁釉，内面四方襷が見られる。459～470は蓋である。459・460は小型で合子の蓋と考えられる。461～464は口縁部に返しが付いており，壺・蓋物の蓋と考えられる。465～470は碗の蓋である。465～469は外面青磁釉，内面四方襷が見られる。471・472は油壺である。473～475は内面が無釉であり，瓶と考えられる。476～478は花生である。476は青磁釉，477は人面の耳が付く。480～484は鶴首瓶である。485～499は皿である。488は見込に五弁花文高台内に「大明年製」の名が見られる。497・499は蛇の目凹形高台を有する。498は青磁の脚付きの皿である。

500～529は肥前系陶器である。500～503は胎土目や砂目を有する皿・碗で17世紀前半のもので混入品と考えられる。504～522は碗である。508・512・515・516のように陶胎染付も多い。また，513・516のような筒形碗も見られる。523～529は鉢である。525・526は刷毛目が見られる。

530～557は瀬戸美濃系陶器である。530は口縁が波状の皿である。531～556は碗である。536・542・545・547・550・552は陶胎染付である。557は鉢で，内外面にに溶着痕が見られる。



第31図　SK123出土遺物実測図（土師質土器等④）



第32図　SK123出土遺物実測図（土師質土器・金属器・石器）

558は理兵衛焼である。口縁部の小片であるが，薄手の碗形態になると考えられる。青色の上絵付けで松平大膳家の家紋である丸に中陰四つ葵の家紋が描かれている。

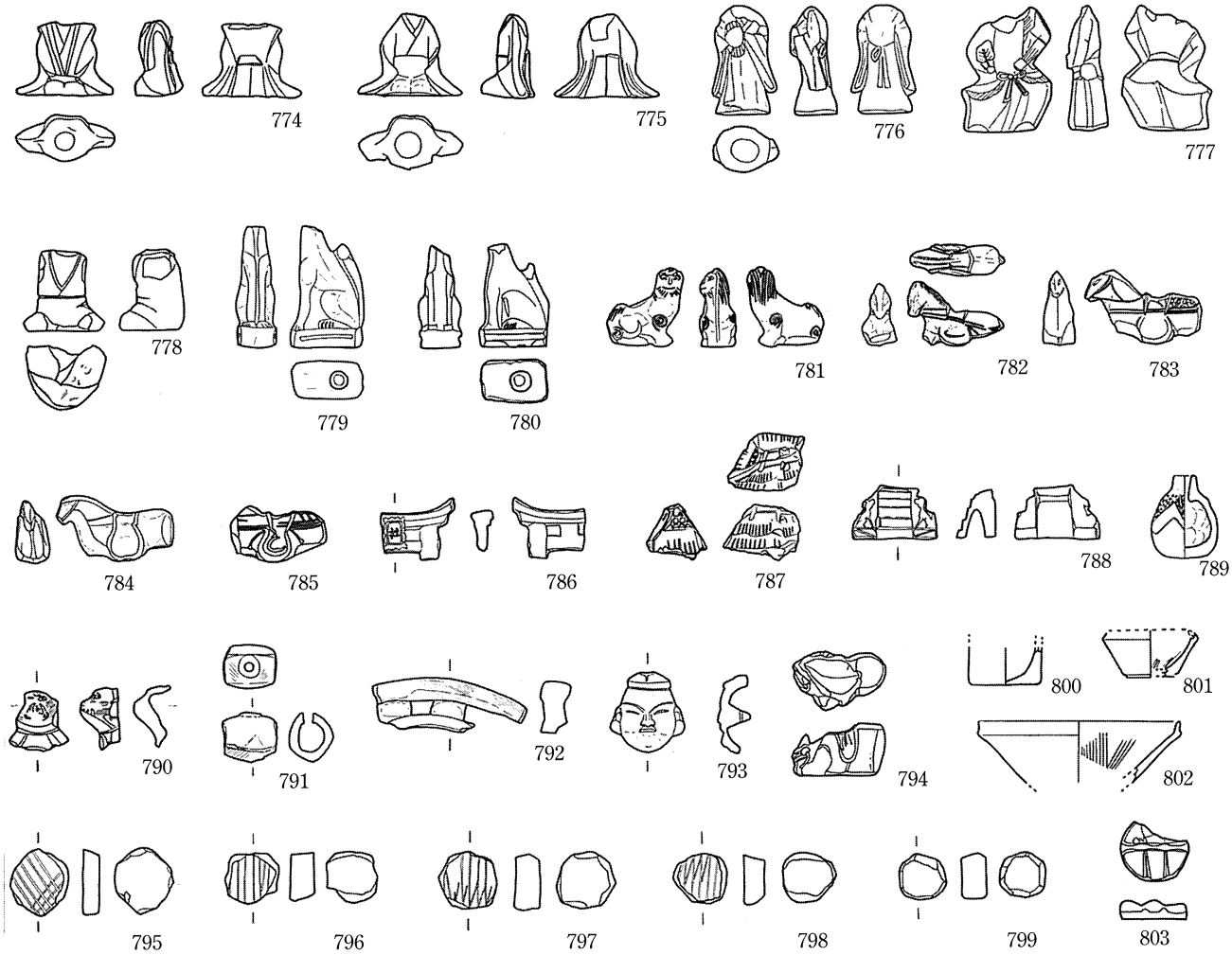
559～652は京信楽系陶器である。559～630は碗である。559～579が色絵である。559は吉祥文，561・563・564は笹の葉が描かれている。570・571には一部金の使用が認められる。631～633は鉢である。634～641は皿である。634～639は色絵である。642～644は鉢である。642は外面青磁釉で，内面無釉である。645～652は土瓶である。652は注口根元の飾りと考えられる。

653～684は備前焼である。653～675は灯明皿で，653～666のような皿形態のものと，667～675のように返しが付くタイプの2種類見られる。いずれも口縁部には煤が付着している。676は不明の製品で，円孔が見られる。677は瓶の口縁部である。678・679は油徳利である。体部上半に油垂れを防ぐ返しと円孔が見られ，679のように取っ手が付く。680・681は鉢である。682～684は徳利である。683・684は底部に刻印が見られる。

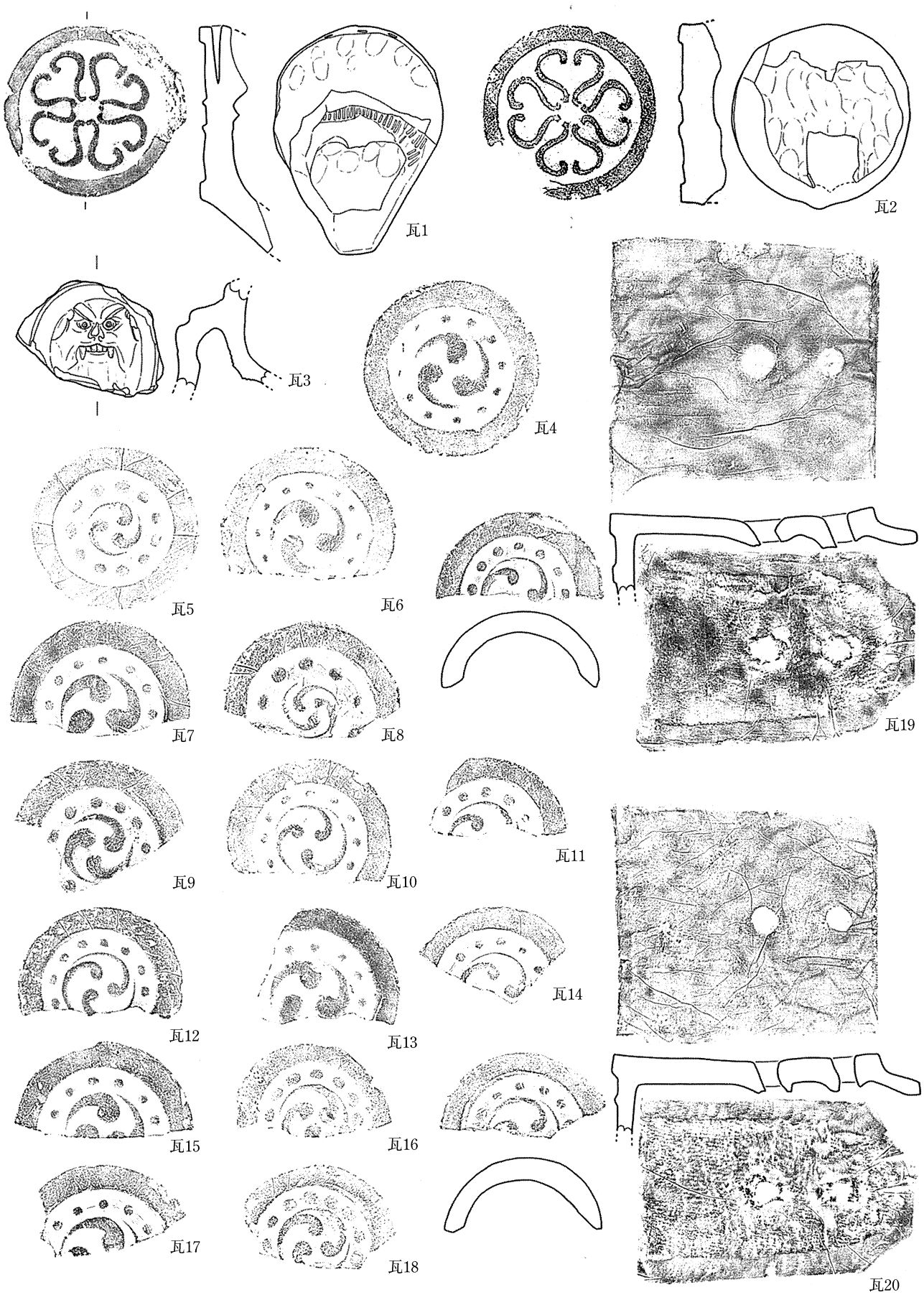
685～692は産地不明の陶器である。685・686は碗，687～690は鉢である。691は底部に円孔が見られることから植木鉢，692は花生である。

693～705は堺または明石焼の擂鉢である。693～695には形骸化した高台が見られる。705は見込部分に放射状の擂り目が見られる。

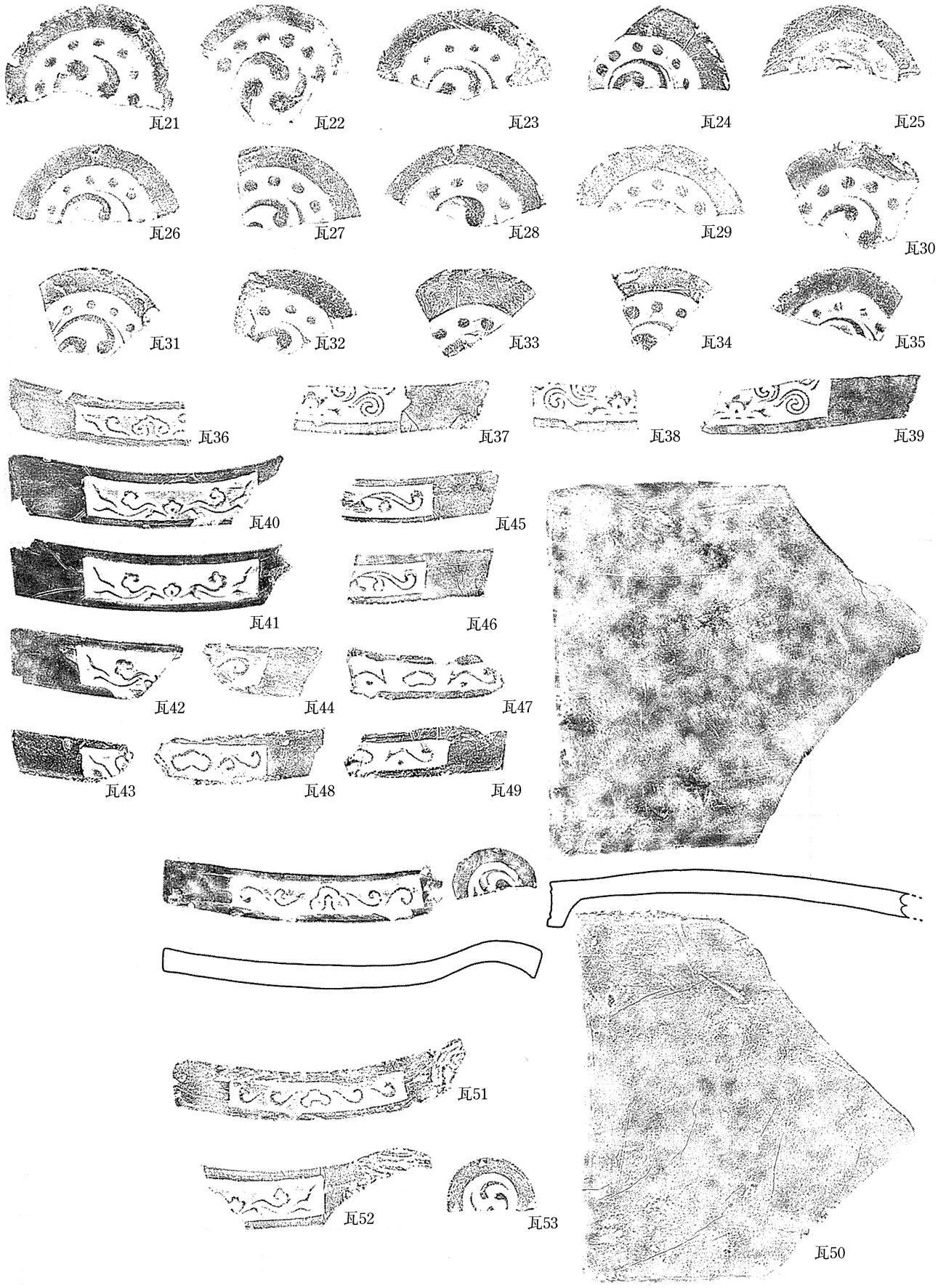
706～773は土器類である。706～718は皿である。719は焼塩壺で，外面には刻印が見られる。720～723は焼き塩壺の蓋で，内面には布目圧痕が見られる。724は土錘である。725は瓦質の火鉢で，四隅に脚が付く。726～752は土師質の焙烙である。内耳の幅は狭く，円孔も貫通しないものや，貫通していても不十分なものが多い。外面は指頭圧，内面は一部板ナデのものも見られるが，ヨコハケのものが多い。753～759は羽釜である。760・761は混入品の須恵器である。761の底部には爪痕が数多く残る。762～770・773は火鉢と考えられる。762・763は体部上半が内傾し，短く直立する口縁部をもつ。764は口縁が波状で，浅い鉢のような形態を呈する。765～770・773はやや深めで，底部に3方向の脚をもつ。771は井戸枠，772は風呂釜である。



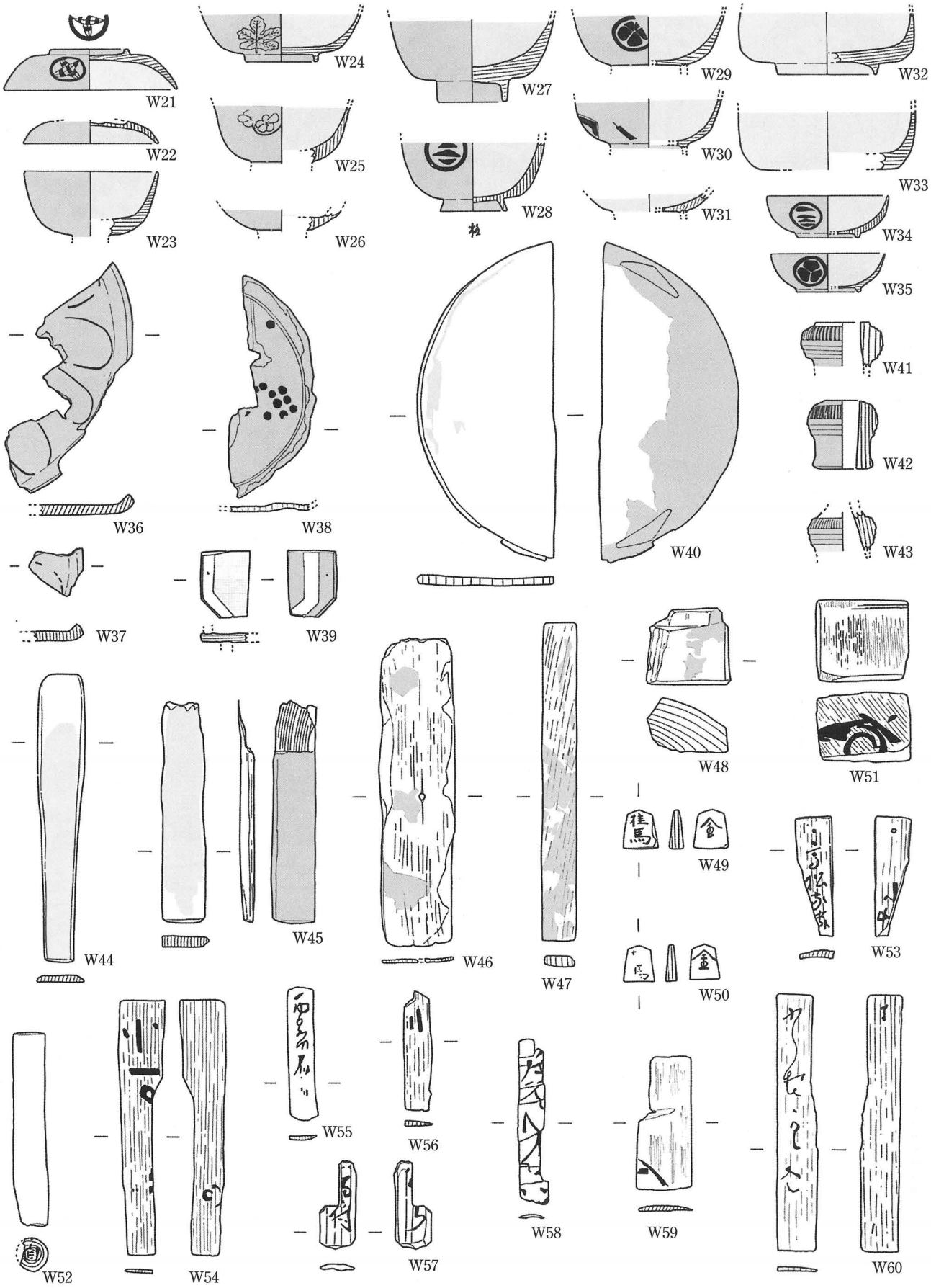
第33図　SK123出土遺物実測図（玩具類）



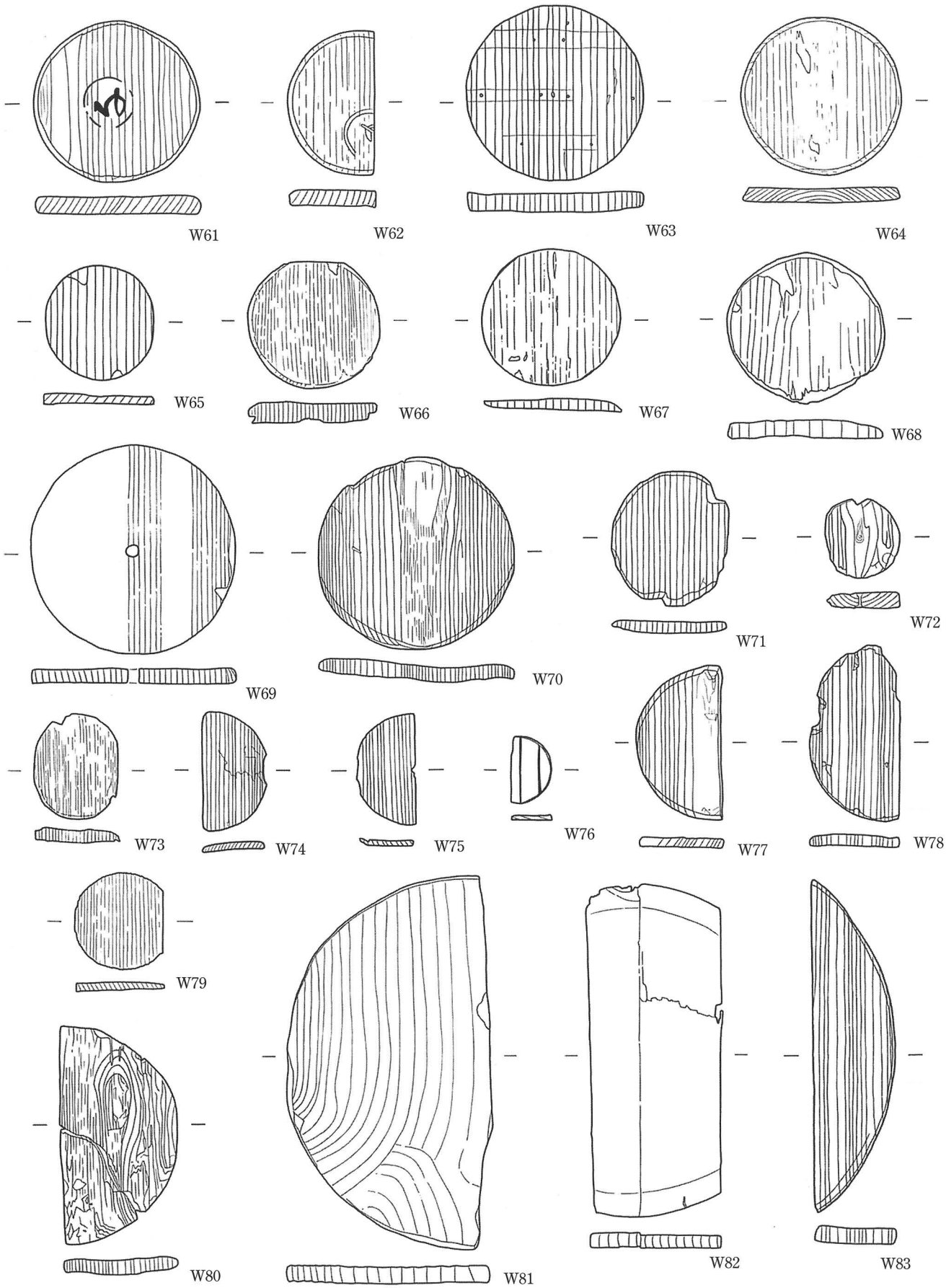
第34図　SK123出土瓦拓本①



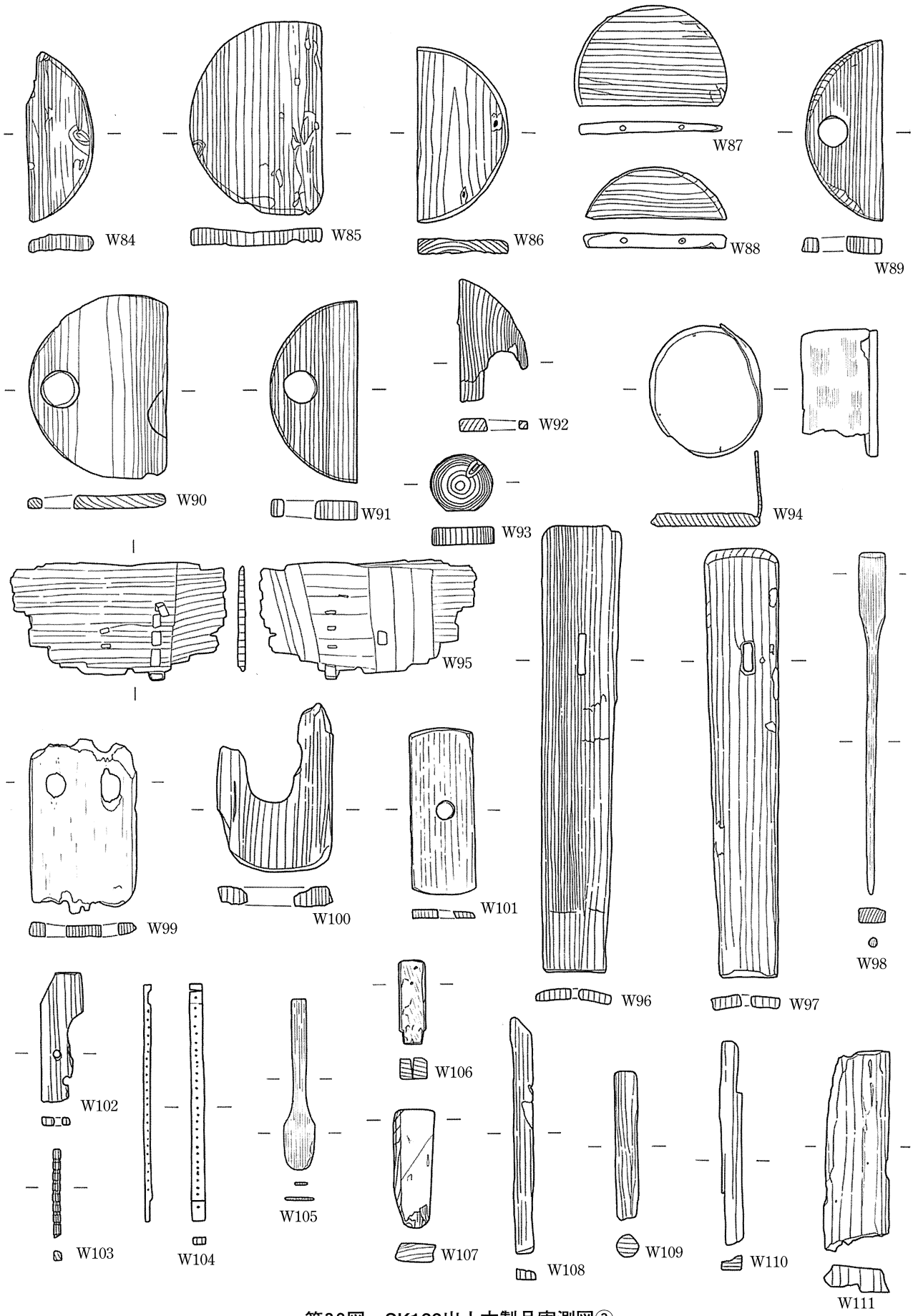
第35図　SK123出土瓦拓本②



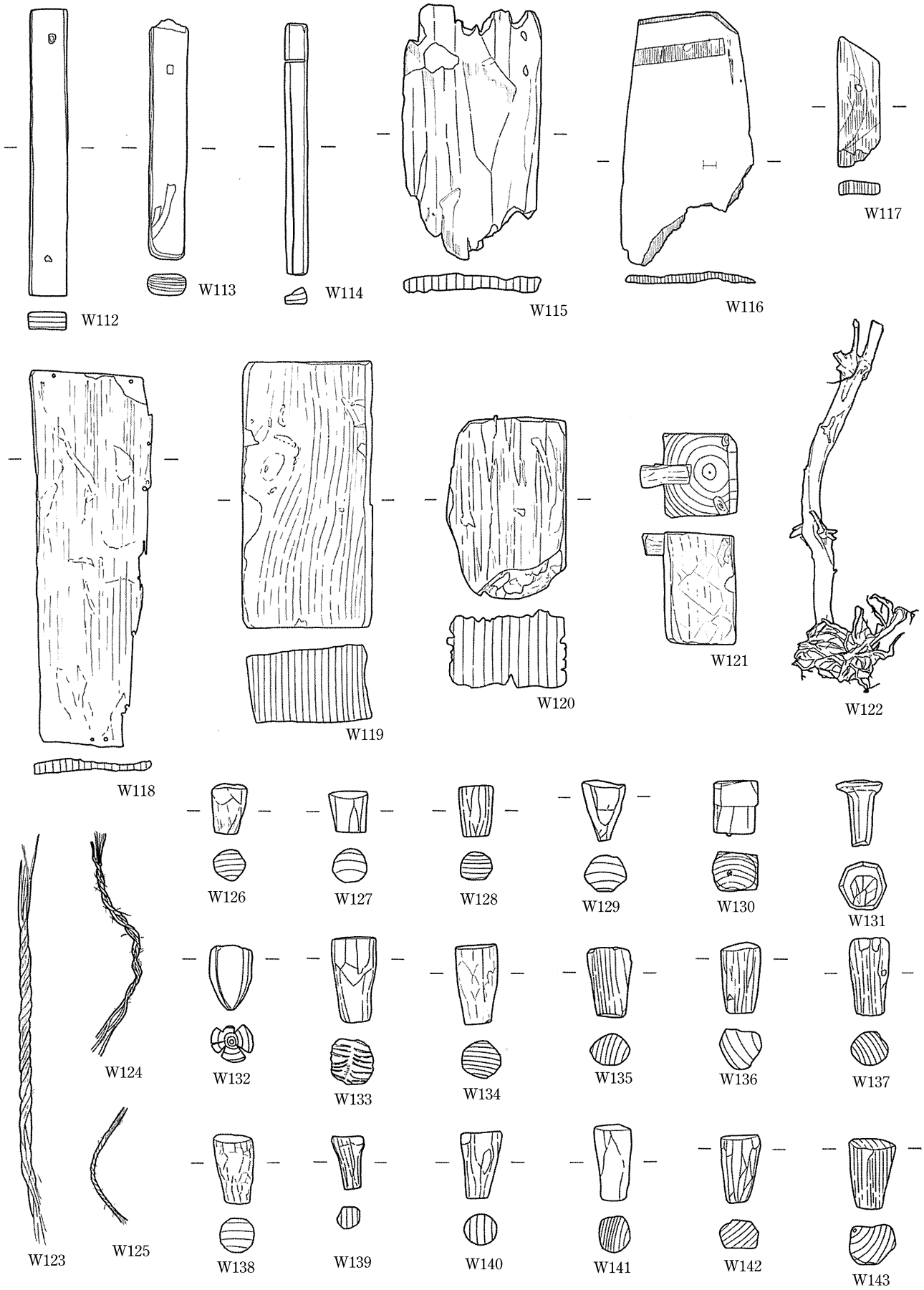
第36図　SK123出土木製品実測図①



第37図　SK123出土木製品実測図②



第38図　SK123出土木製品実測図③



第39図　SK123出土木製品実測図④

K３～K５は金属製品，S４～S６は石製品である。K３は寛永通宝，K４は輪状の製品，K５は煙管の吸口部分である。S４・S５は硯である。S６は豊島石を加工したものである。

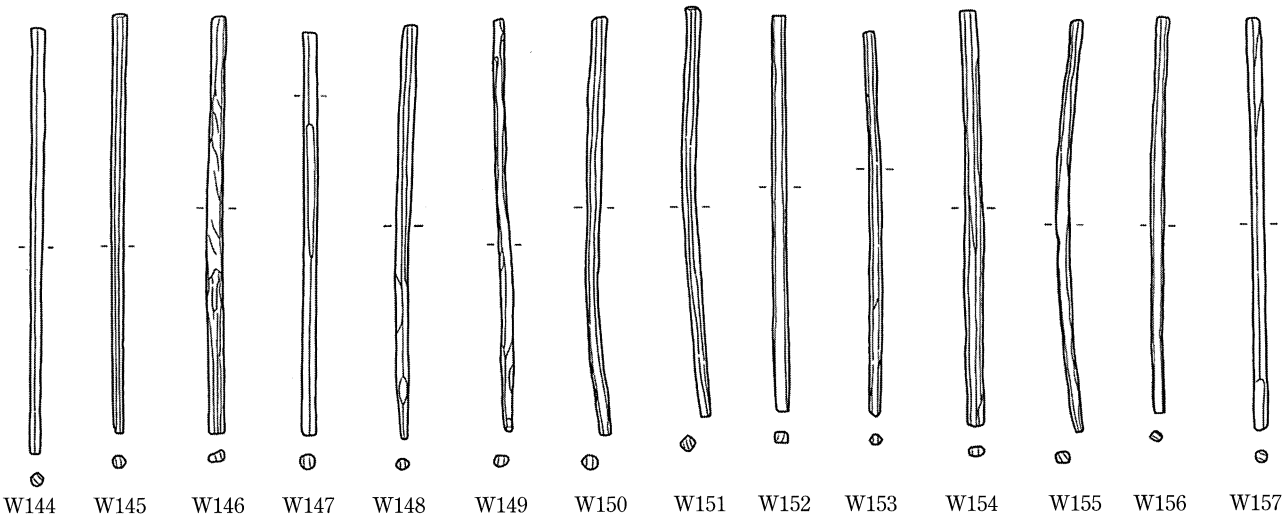
774～803は玩具類である。774～778は人形，779・780は御稲荷さんである。781は狛犬と考えられ，陶器製である。782～785は飾馬，786は鳥居，787は家の屋根，788は天神さん，789は茄子，790は猿，791は打ち出の小槌である。792は箱庭用の橋の欄干で陶器製である。793は顔形の芥子面，794は人形で，水滴の可能性もある。795～799は円盤で，795～798は擂鉢，799は瓦を転用している。800～803はミニチュア土製品で，801・802は陶器製の擂鉢である。803は蓋で，表面の一部に金箔が見られる。

瓦も多量に出土したが，今回は軒丸・軒平瓦で残りのいいものを掲載した。瓦１～３は鬼瓦の一部になると考えられる。瓦１・２は松平大膳家の家紋である丸に中陰四つ葵が見られる。瓦４～35は軒丸瓦，瓦36～49は軒平瓦，瓦50～53は軒桟瓦である。

木製品も多量に出土した。W21～W33は漆器の椀・蓋である。W21～W30は外面黒漆，内面朱漆，W31～W33は内外面とも朱漆である。外面に見られる家紋および文様は金で描かれている。朱塗椀は外面黒漆のものよりも大型で，腰が張る。W34・W35は外面黒漆，内面朱漆の漆器の盃である。外面には家紋が見られ，W35は三つ葵が見られる。高松藩の藩主の三つ葵とは異なり，葉脈が無く，葉先に点が見られる。松平一族の家紋と考えられるが，誰の家紋であるかは不明である。W36～W40は漆器の盆である。W36～W38は朱漆で文様が施されている。W41～W43は傘の軸である。その他，W44～W48のような漆製品が見られる。W49～W60は墨書が見られるものである。W49・W50は将棋の駒で，桂馬である。W51・52は建築部材と考えられる。W53～W60は木簡である。W53は表面「高松家中」，裏面「小嶋」，W54は「小一」，W55は「中村御宿」の記載が見られる。W60は表面「登得里さ」と意味不明の文字列があり，裏面に梵字が認められることから呪符木簡と考えられる。W61～W93は曲物や桶の底ないし上蓋と考えられる。W61・W62・W90のように焼き印が見られるものもある。W87・W88は同一個体と考えられ，切断面に２個の穴が見られ，２枚の板を接いで使用していたと考えられる。W94・W95は曲物である。W96・W97は桶である。桶も多量に出土している。W99は下駄である。W100～W102は長方形の板材に穿孔したものである。W103は棒状の製品で，刻み目が見られる。W104も棒状の製品で，両端に抉りが見られ，正面及び側面に非常に小さい穴をあけた痕が見られる。W106～W121は建築部材と考えられる。W122は自然木であるが，盆栽の可能性が考えられる。W123～W125は縄である。W126～W143は栓である。掲載した以外にも多量の栓が出土している。W144～W157は箸である。箸も非常に多く，破片も含めると数百本が出土した。図示した以外にも，箒，櫛等数多くの木製品が出土している。

その他の自然遺物としては魚の骨，ニシ貝，獣骨，モモの種も若干見られた。

SK123出土遺物中には松平大膳家の家紋（丸に中陰四つ葵）入り理兵衛焼（558），瓦（瓦１・瓦２）が出土したことから同地が松平大膳家の屋敷内であったことが確実となった。



第40図　SK123出土木製品実測図⑤

SK125（第41図）

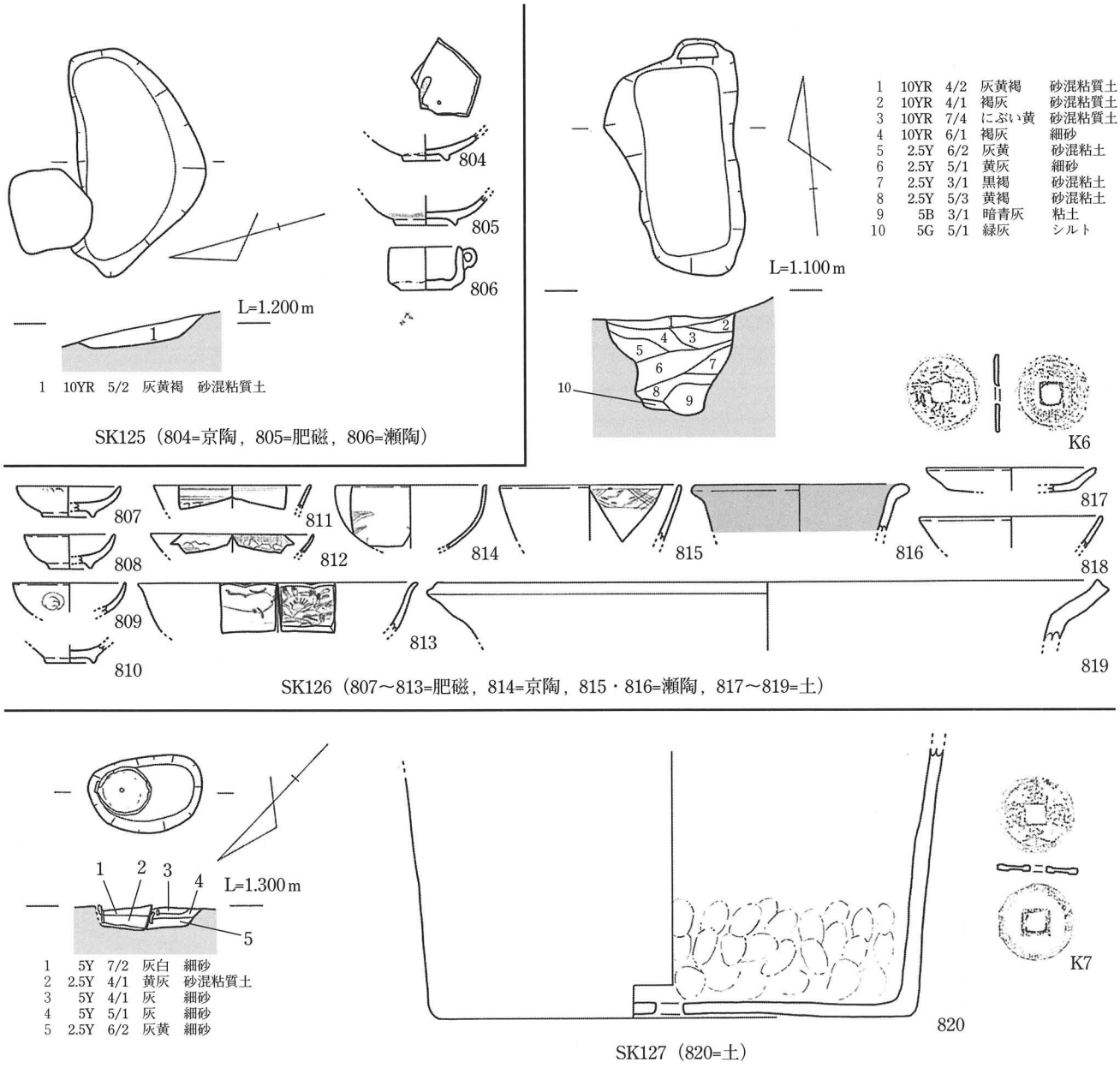
SK123の東側で検出した土坑である。長辺138cm，短辺79cm，深さ20cmを測る。埋土は単層で，断面形状は逆台形を呈する。出土遺物の中には瀬戸美濃陶器の餌猪口が見られる。また，漆器椀も出土したが，原形をとどめないほど腐蝕が進んでいた。18世紀後半～19世紀の遺構と考えられる。

SK126（第41図）

長辺1.46m，短辺81cm，深さ91cmを測る長方形の土坑である。遺構北側には１段段差が見られる。断面形状は逆台形を呈し，10層に分層できる。上層は砂混粘質土，中層は細砂，下層は砂混粘土に大別できる。出土遺物は肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，土師器等の他永楽銭が見られる。18世紀後半頃の遺構と考えられる。

SK127（第41図）

長径70cm，短径47cm，深さ13cmを測る楕円形の土坑である。土坑北端には土師質土器の甕が埋め込まれていた。甕内部からは寛永通宝が出土した。切り合い関係にあるすべての遺構を切っていることから19世紀以降の遺構と考えられる。



第41図　第１遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図③

SK128（第42図）

SK125・127，SD106に切られている土坑である。南側は撹乱で不明であるが，長辺1.45m，短辺70cm，深さ35cmを測る。断面形状はU字を呈し，3層に分層できる。出土遺物は肥前系陶磁器，京信楽系色絵陶器，備前焼，土師質焙烙の他，土師質土製品の天神さん，火打ち石等も見られる。19世紀初頭の遺構と考えられる。

SK129（第42図）

SK127，SD106に切られている土坑で，これらの遺構を掘削して検出した土坑である。長辺94cm以上，短辺79cm，深さ46cmを測る長方形の土坑である。断面形状はU字を呈し，3層に分層できる。出土遺物は肥前系磁器，京信楽系陶器，瓦質土器がある。19世紀初頭の遺構と考えられる。

SK135（第42図）

SK134，SD106に切られている土坑で，これらの遺構を掘削して検出した土坑である。南側は撹乱，東側は調査区外へ延びるため規模は不明である。埋土は単層で，第3図の88層に該当する。出土遺物は肥前系磁器，京信楽系陶器，瀬戸美濃系陶器，備前焼等がある。18世紀後半の遺構と考えられる。

SK136（第43図）

SD106・SK127～129等の遺構密集部分の下層で検出した遺構である。検出面は第2遺構面と同レベルで検出しているが，SK139を切っていることから18世紀後半～19世紀初頭で，第1遺構面の遺構と考えられる。断面形状は逆台形で，中央のみ1段浅く落ち込んでいる。出土遺物は肥前系陶磁器，土師器がある。

SK137（第43図）

撹乱により形状・規模は不明である。切り合い関係から18世紀後半～19世紀の遺構と考えられる。

SK138（第43図）

径約50cmの円形の土坑で，深さ約22cmを測る。埋土は単層で，断面形状は逆台形を呈する。遺構内には腐蝕した漆器椀，備前焼擂鉢（860），肥前系陶器不明製品（857）を埋納していた。18世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK139（第44～47図）

長辺約6.5m，短辺3.75m，深さ1.58mを測る大型の土坑である。埋土は5層に分層でき，上層は砂混粘質土，下層は粘土である。遺物は肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶磁器，京信楽系陶器，備前焼，軟質陶器，土師器等の他，備前焼陶器のミニチュアの兜，鉛玉が見られる。遺物の時期は18世紀後半～明治のものまで含むが，明治期の遺物については後述する井戸のものと考えられ，遺構自体の時期としては概ね18世紀後半が考えられる。なお，混入品には弥生土器も見られる。

SE101（第44・48図）

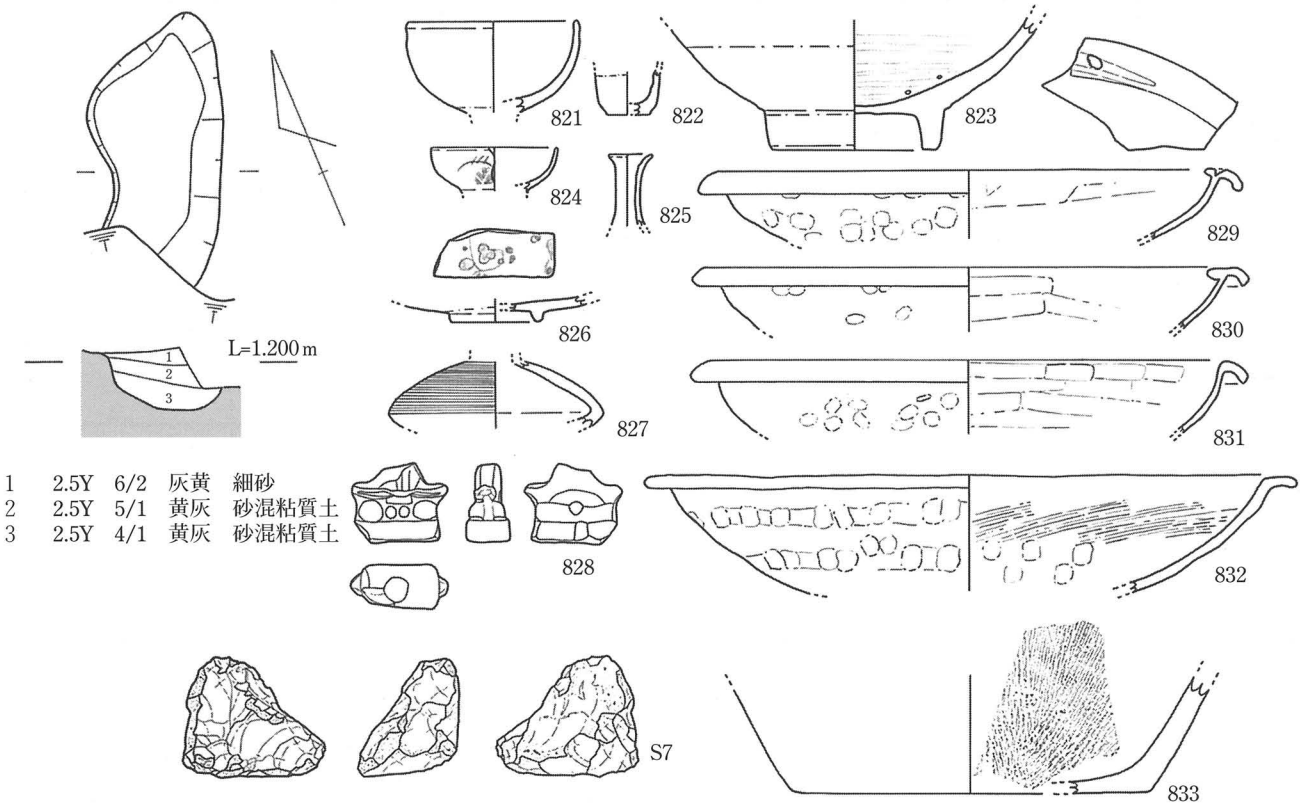
SK139掘削中に検出した井戸で，断面観察の結果，SK139の上面より掘り込んでいることが判明した。このため，掘り方部分の正確な規模は不明であるが，東壁断面によると径1.13m以上，深さ1.90mを測る。井戸枠は高さ約1m，径60cmの土師質の円筒で，2段積まれていたと考えられる。井戸枠内出土遺物は京・信楽陶器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器が見られる。図示していないが，肥前系磁器の型紙刷が見られることから明治期の井戸と考えられる。

SE102（第44・48図）

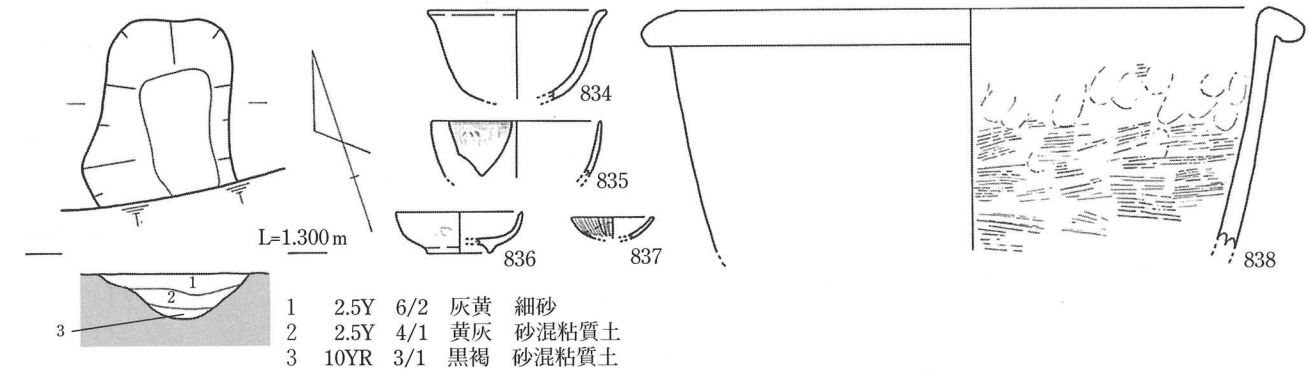
SK139底面で検出した井戸である。掘り方の規模は不明であるが現存部分では径1.18m，深さ94cmを測る。井戸枠は2段見られ，下段は高さ90cm，径70cmの木製曲げ物で，上段は土師質の円筒である。井戸枠内出土遺物は肥前系磁器，備前焼等が見られる。切り合い関係が不明で遺構の時期も不明である。

SE103（第44・48図）

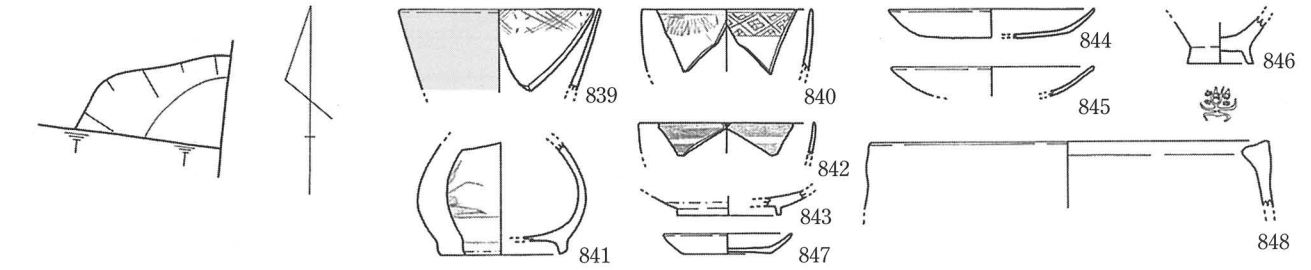
SK139底面で検出した井戸である。掘り方の規模は不明であるが現存部分では径1.22m，深さ1.3mを測る。井戸枠は現状では1段で，高さ130cm，径55cmの木製曲げ物で，上段は土師質の円筒である。井戸枠内出土遺物は肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器の他，簪や毛抜きなどの金属器も見られる。切り合い関係が不明で遺構の時期も不明である。



SK128（821～823=肥陶，824・825=肥磁，826=京陶色，827・833=備陶，828～832=土）

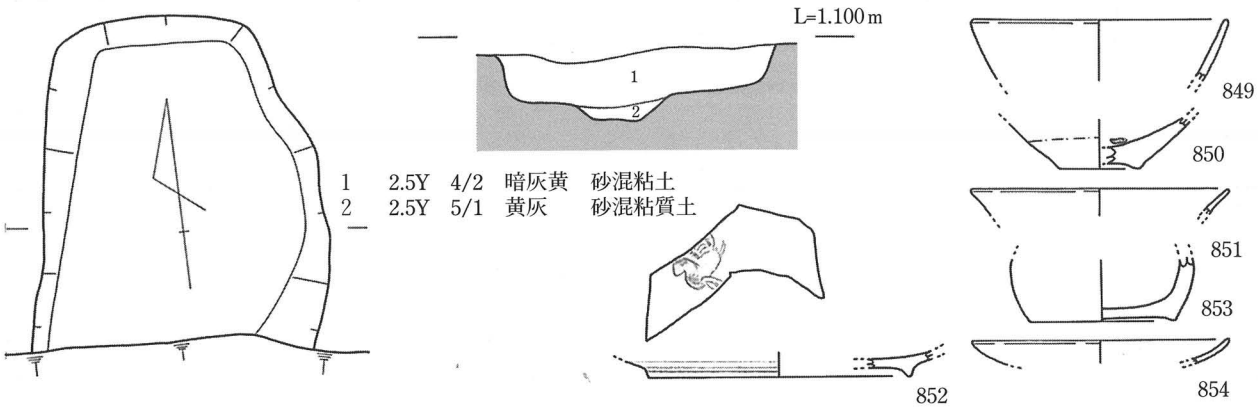


SK129（834=京陶，835～837=肥磁，838=瓦質）

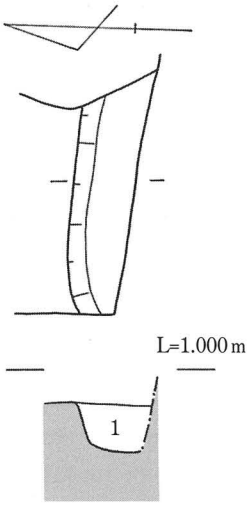


SK135（839～841=肥磁，842=瀬陶，843=京陶，844・845=備陶，846=軟陶，847・848=土）

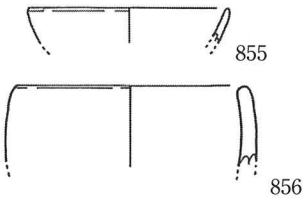
第42図　第１遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図④



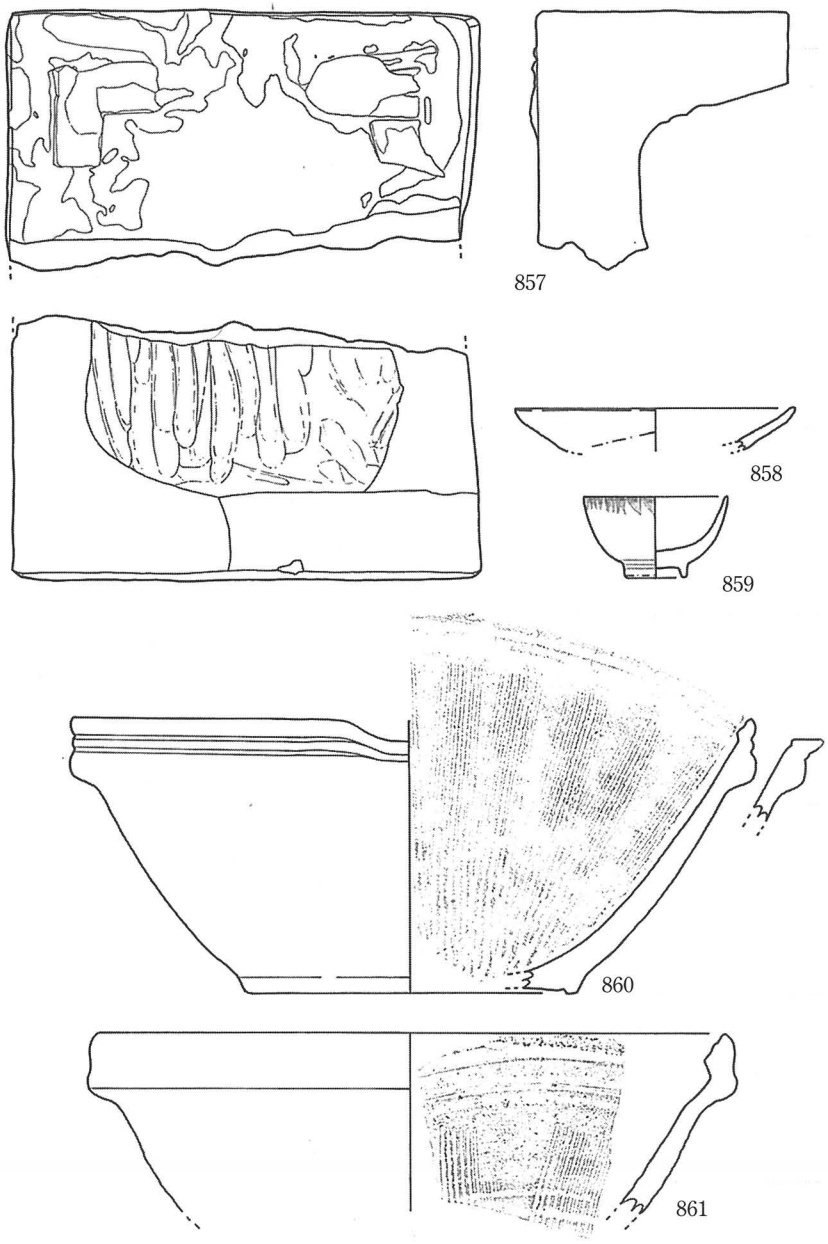
SK136（849・850=肥陶，851・852=肥磁，853・854=土）

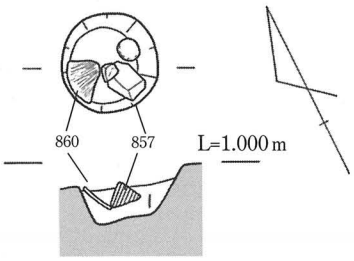


1　2.5Y　4/2　暗灰黄　砂混粘質土



SK137（855=京陶，856=備陶）

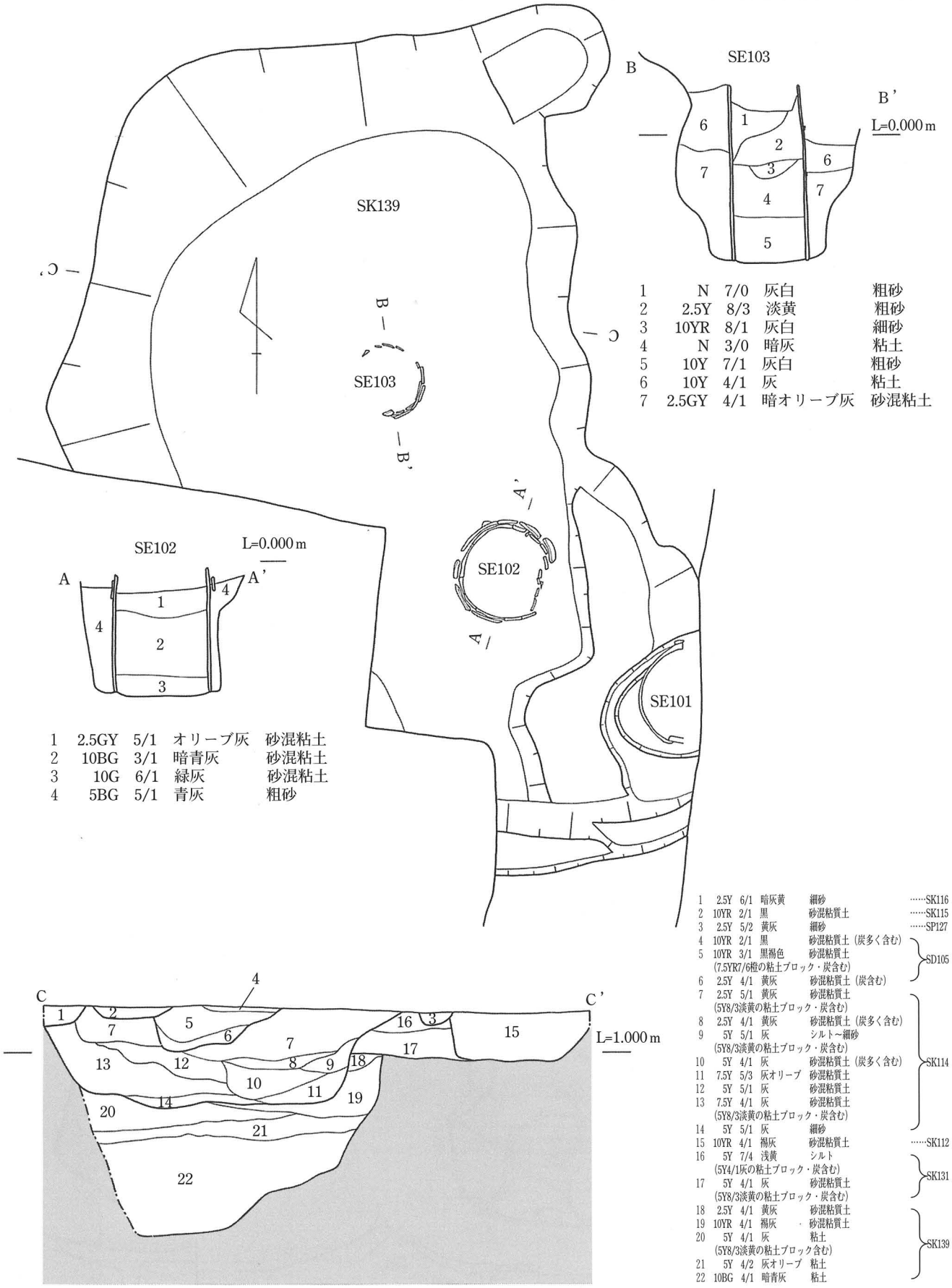




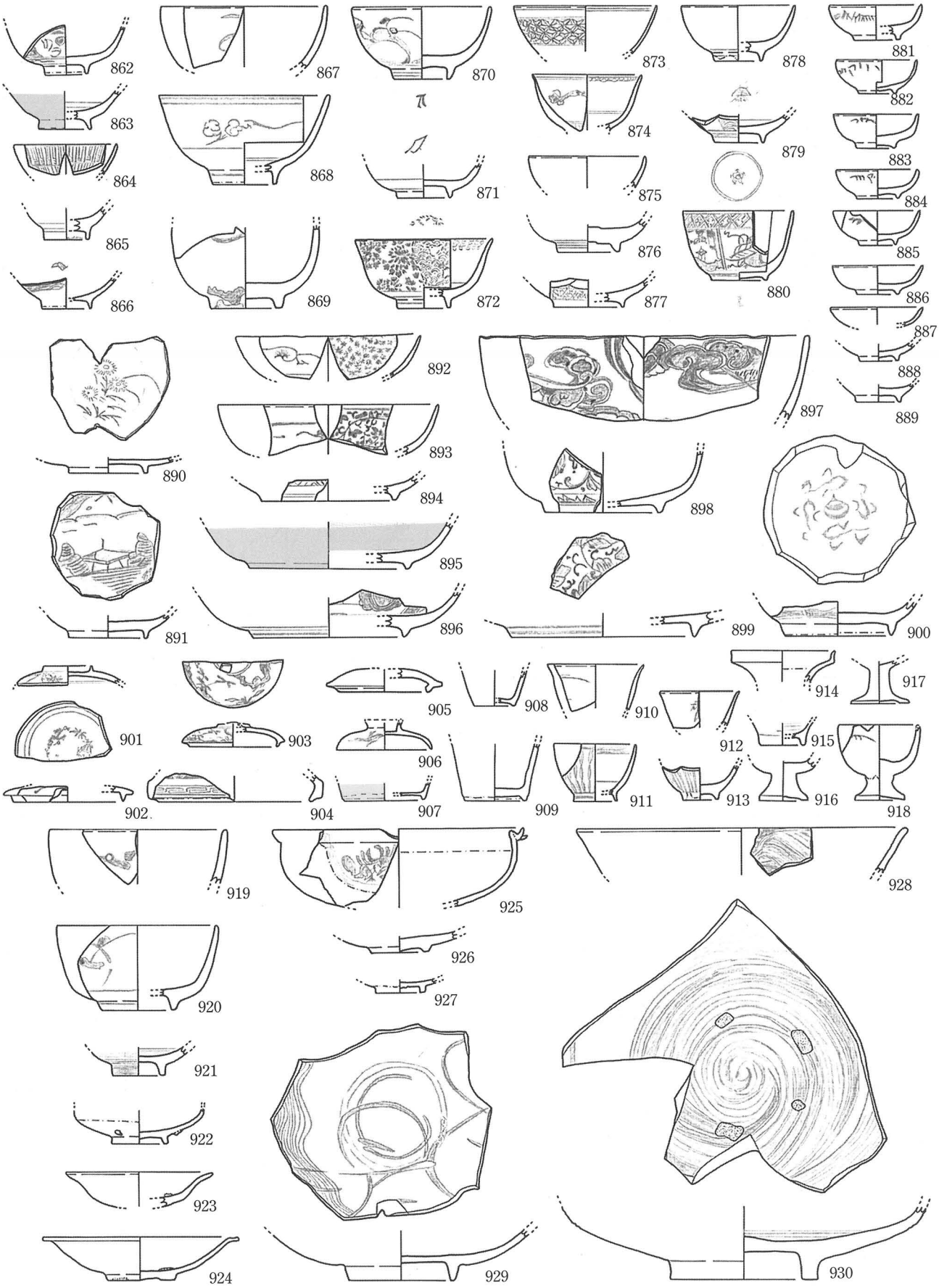
1　5Y　4/2　灰オリーブ　砂混粘質土

SK138（857・859=肥磁，858=肥陶，860・861=備陶）

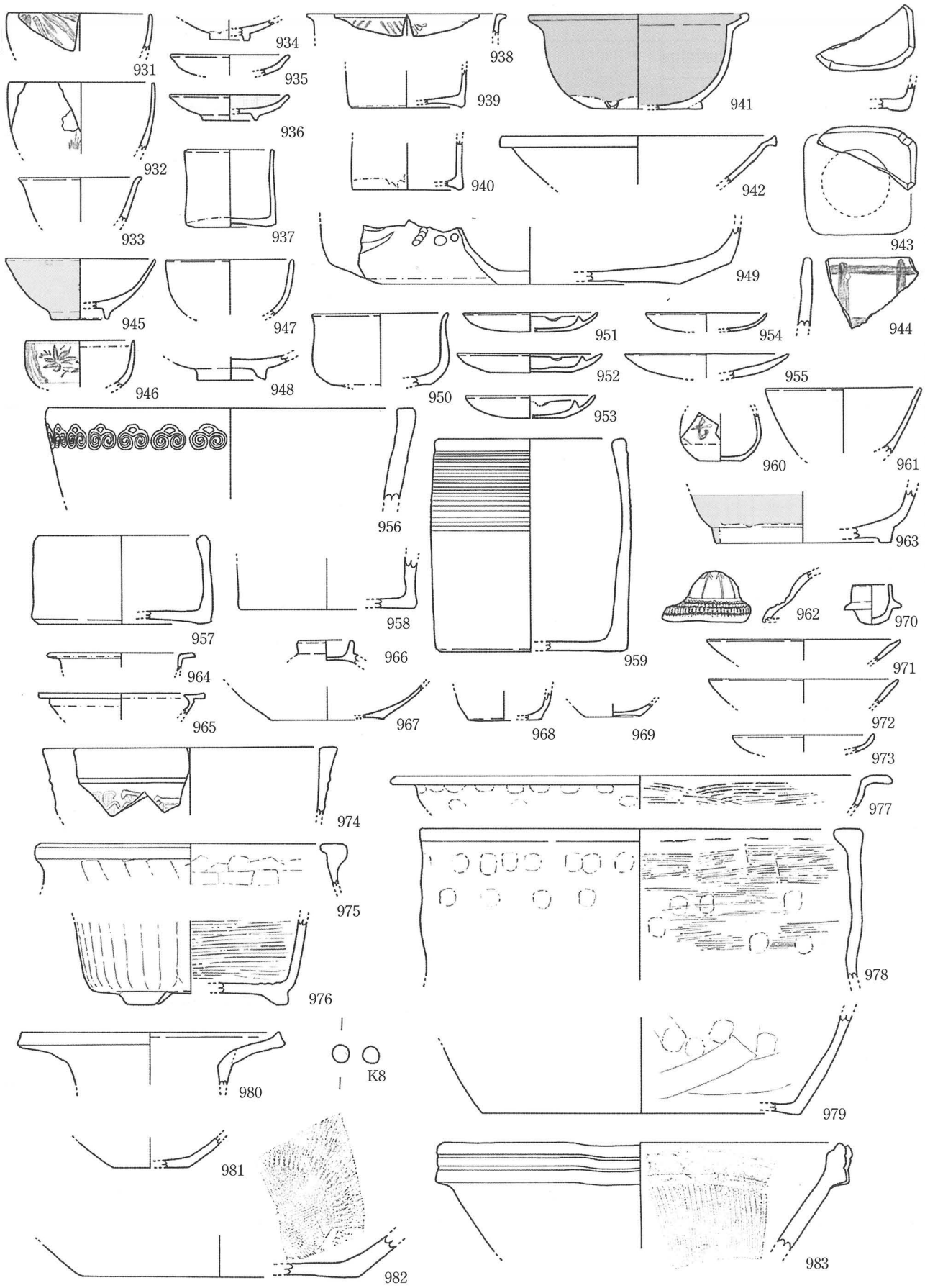
第43図　第１遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図⑤



第44図　SK139，SE101～103平・断面図

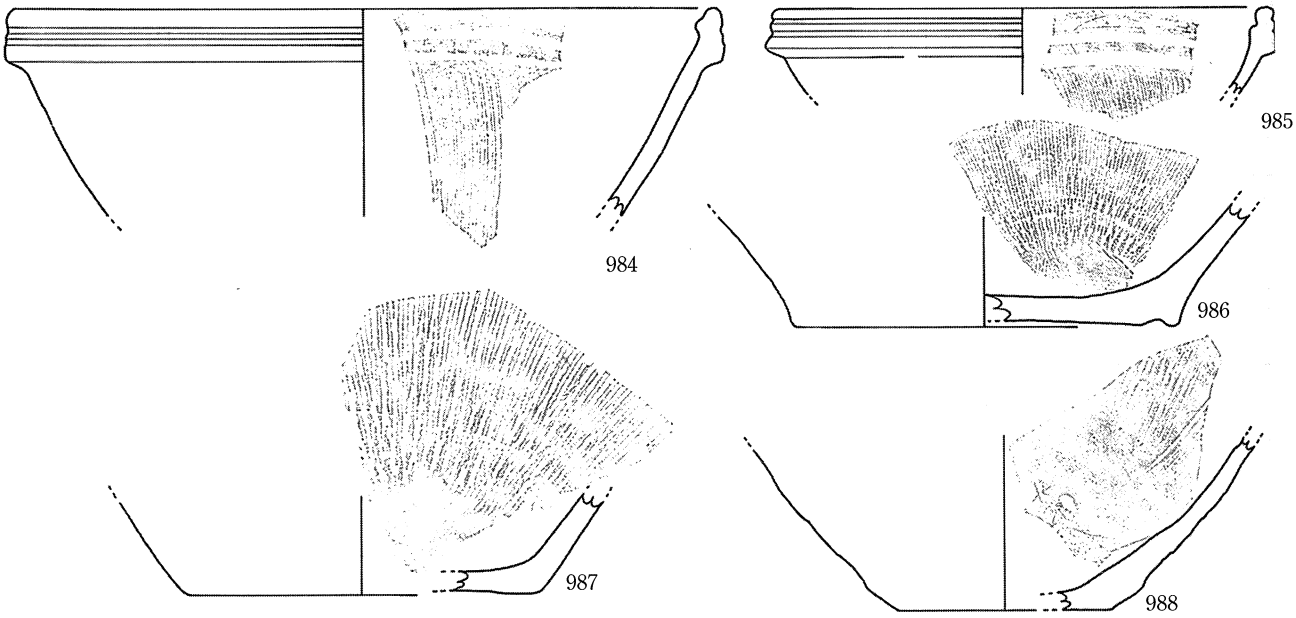


第45図　SK139出土遺物実測図①（862～918=肥磁，919～930=肥陶）



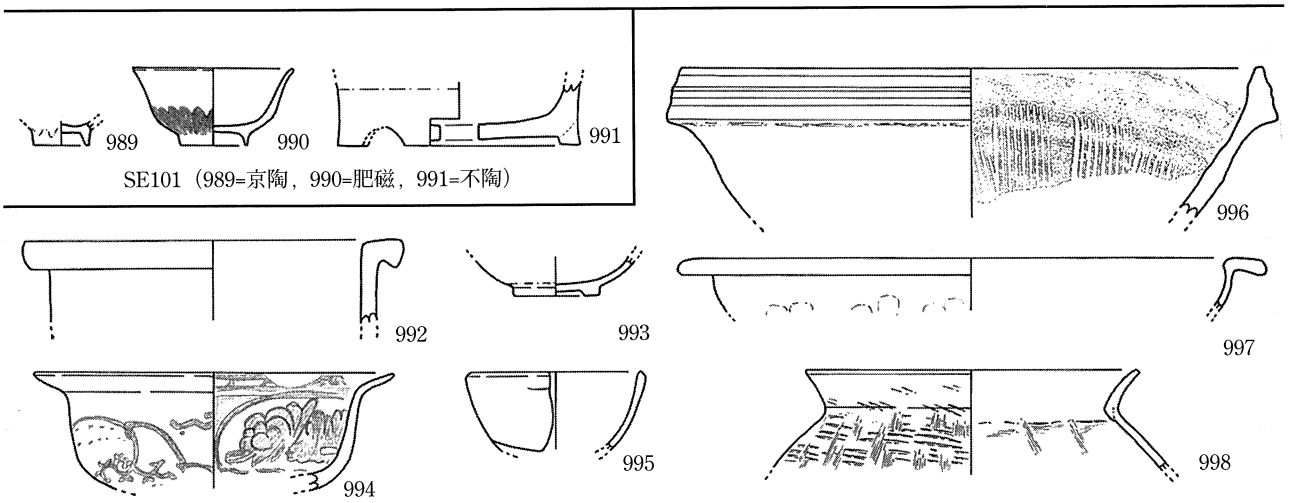
(931=京陶色，932～942=京陶，943・944=志野，945・946=瀬磁，947～950=瀬陶，951～962=備陶，963=不陶，964～969=軟陶，970～979=土，980・981=弥，982・983=堺陶)

第46図　SK139出土遺物実測図②



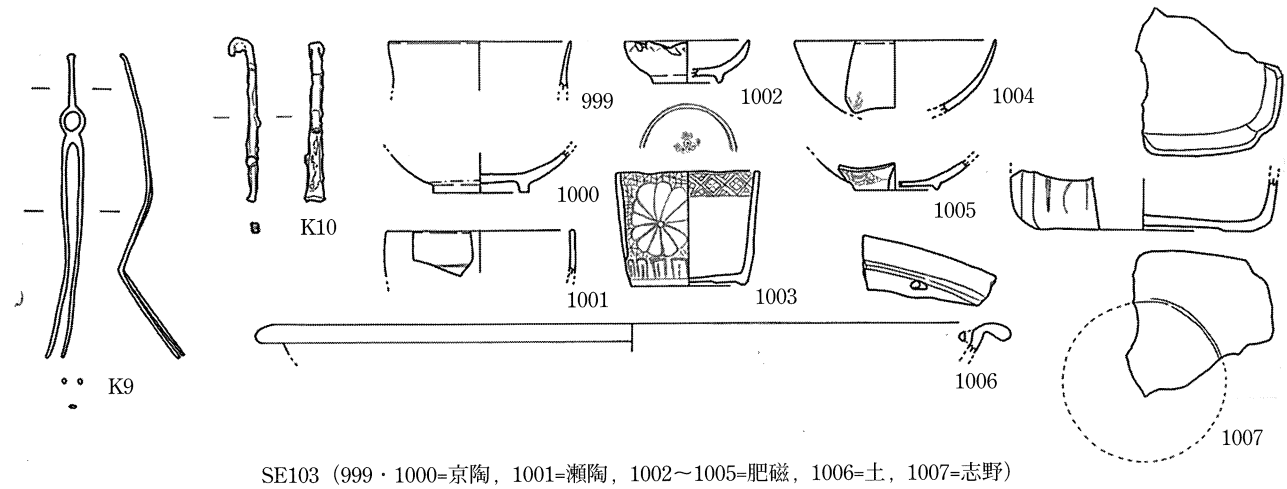
（984～986=堺陶，987・988=備陶）

第47図　SK139出土遺物実測図③



SE101（989=京陶，990=肥磁，991=不陶）

SE102（992=瀬陶，993=京陶，994・995=肥磁，996=備陶，997=土，998=弥）



SE103（999・1000=京陶，1001=瀬陶，1002～1005=肥磁，1006=土，1007=志野）

第48図　第１遺構面井戸出土遺物実測図

第4章 まとめ

第1節 第2遺構面の屋敷区画の変遷とその居住者について

調査地は99㎡と狭いながらも，第2遺構面において屋敷の区画溝と考えられるSD203・204を検出することができた。また，隣接して調査された高松城跡（丸の内地区）においても区画溝と考えられるSD02・05が検出されている（乗松2001）。なお，高松城跡（丸の内地区）検出のSK08（SK10）についてはSD02から連続しており，東西方向の区画溝である可能性が考えられる。同遺構は今回検出のSD204の延長部分にもあたることから，その可能性が非常に高い。これらの溝から生駒期～松平期初期にかけての屋敷の区画の変遷を考えてみたい。

今回の調査で第2遺構面の区画溝は，その切り合い関係から，南北方向のSD203と東西方向のSD204が併存する時期（＝第1期），SD204のみ存在する時期（＝第2期），区画溝が無くなる時期（＝第3期）の3時期の変遷がたどれる。一方，同時期の高松城の屋敷地が描かれた絵図は『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』（推定1638～39年製作の写）と『高松城下図屏風』（1656年以前製作）の2点が知られており（森下1996），これらの絵図と比較検討してみたい。

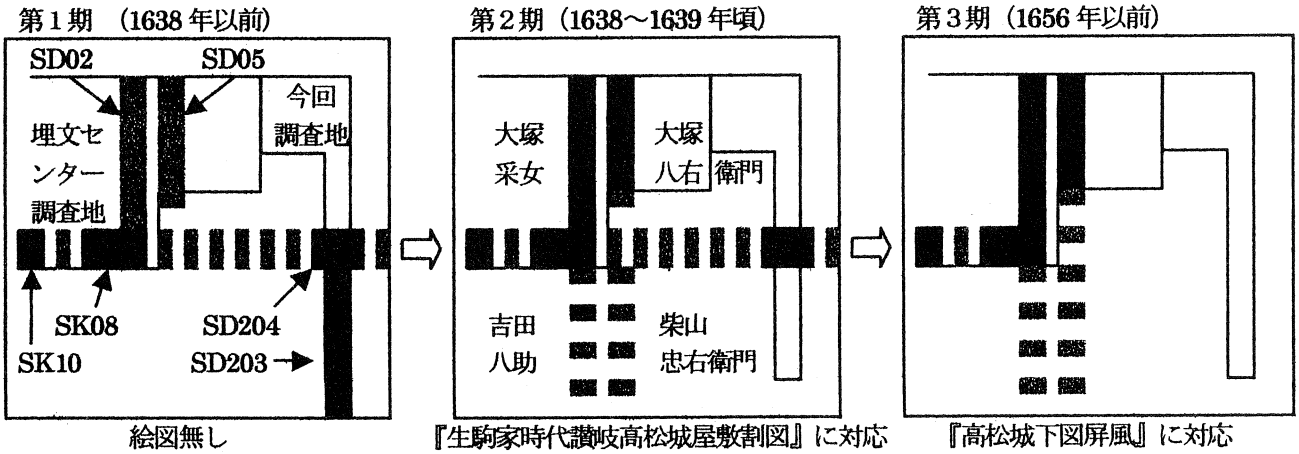
まず，第1期のように東西方向の溝に南北方向の溝が突き当たるようなT字の地割はどちらの絵図にも見られない。このため，絵図以前の地割である可能性が高い。なお，SD02・05とSD203のクランクした状態を絵図では簡略して描いた可能性もあるが，この場合1638～56年以前の短期間に2度の区画変更があったことになる。なお，第1期にSD02・05が存在したかどうかは不明である。

次に第2期であるが，今回の調査地ではSD204のみが存在した時期であるが，絵図では区画溝が十字に交わっている。高松城跡（丸の内地区）の調査で検出したSD02・05についても合流点以南が撹乱を受けており，十字に交差していたことを確認できないが，この溝が南へ延びるのであれば，『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』と一致することから，生駒期末期の地割と考えられる。

最後に，今回の調査地では区画溝が無くなる第3期である。SD02・05の埋土は第1遺構面上面の整地層と連続するとされているが，SD204は整地層と連続せず，またその上面に1662年の大火の後始末をしたと考えられるSK210が掘削されている。このため高松城跡（丸の内地区）のSD02・05はSD204埋没後も一定期間存続したことが立証される。『高松城下図屏風』では調査地部分のみ区画がなくなり，南北に細長い建物が描かれている様子と整合することから松平入封直後の地割と考えられる。なお，『高松城下図屏風』では屋敷の区画部分には板塀のみしか描かれておらず，高松城跡（丸の内地区）のSD02・05が屏風図製作時期まで存続していたかどうかは不明である。

また，人名の記載がある『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』によると，今回想定した第2期の地割が正しいとすれば，今回の調査地の北半から高松城跡（丸の内地区）の東端は大塚八右衛門邸，南半は柴山忠右衛門邸，高松城跡（丸の内地区）は大塚采女邸，その南は吉田八助邸と考えられる。なかでも大塚采女は生駒親正の娘婿大塚又一の子にあたるとされる人物である。

なお，今回の調査地及び高松城跡（丸の内地区）は非常に狭く，撹乱の多い調査であったため，不明確な点が多い。あくまでも今回提示した変遷は一案であり，今後周辺の調査で今回の調査成果を検証していきたい。



生駒期～松平期初期にかけての屋敷区画変遷模式図（案）

第２節　第１遺構面の屋敷地の居住者について

次に第１遺構面の屋敷地について，東西方向の溝SD103が屋敷地の区画の可能性があるが，検出長が短すぎて断定できない。あるいは『高松城下図屏風』に描かれているように区画は板塀のみの可能性も十分考えられるが，柱穴列は検出していない。このため，屋敷の区画については不明である。

しかしながら，今回の調査地の北西隅で検出したSK123から「丸に中陰四つ葵」家紋入り理兵衛焼・家紋入り瓦が出土した。この家紋は『高松市街古図（文化年間頃高松城下絵図）』や『東讃高松絵図（弘化年間高松城下絵図）』に描かれており，松平大膳家の家紋であったことがわかる。このため今回の調査地北部は松平大膳家の屋敷地内であったことが確実となった。 なお，『高松市街古図』によると松平大膳の屋敷は中堀の南正面に広い屋敷地，その南東部分にやや狭い屋敷地があったことがうかがえる。『東讃高松絵図』によると南側の屋敷地には志摩殿中屋敷と描かれていることから，北側が上屋敷，南側が中屋敷であったと考えられる。今回の調査地は現在の地割との比較及び隣接する高松城跡（丸の内地区），高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）の調査成果から中屋敷に該当すると考えられる。

さて，松平大膳家については絵図史料では**頼**芳の時期の絵図こそ現存しないが，その他の時期の絵図には松平大膳家代々の名前が書かれている。大膳家の名前が書かれた絵図として最も古い『高松城下図』（推定1716～36年製作の写）においては上屋敷部分に左近殿（＝**頼**熙），中屋敷部分に左近殿中屋敷と書かれている。次に，『元文五申年六月讃岐国高松地図』（推定1740年製作の写）においては上屋敷部分に鉄松殿（＝至央），中屋敷部分に鉄松殿中屋敷と書かれている。また，製作年代にやや疑問は残るが，『日本輿地南海道郡郷部讃州高松地図』（正徳享保年間製作の写・宝暦７年写）においては上屋敷部分に松平直之助殿（＝**頼**昌），中屋敷部分に直之助殿屋シキ内と書かれている。次に，『寛政元己酉年五月高松之図』（推定1789年製作の写）においては上屋敷部分に志摩殿（＝**頼**格），中屋敷部分に志摩殿中屋敷と書かれている。最後に『東讃高松絵図（＝弘化年間高松城下図絵）』（推定1844～1848年製作）においては上屋敷部分に松平大膳頼覚殿（＝**頼**覺），中屋敷部分に志摩殿中屋敷と書かれている。以上の絵図史料から少なくとも**頼**熙以降の代々当主は今回の調査地部分に居住していたことがうかがえる。

一方，松平大膳家については幕末頃に書かれたと思われる系図である『松平大膳家御系譜』が現存している。これによると，松平大膳家は藩祖松平**頼**重の第８子**頼**芳（よりよし：1667～1706）から始まり，1676年に３千石を賜っている。その後，二男**頼**熙（よりひろ：1699～1737）が1704年に２千石を継いでいる。**頼**熙には３人の子があり，長男**頼**桓（よりたけ：1720～1739）は1735年に高松藩本家の養子となり，４代藩主になっている。**頼**桓には子が無く，1739年に守山藩から**頼**恭（よりたか）が養子に入り，５代藩主になっている。一方，大膳家は1736年に二男の**頼**珍（名称不明：1721～1780）が家督３千石を継いでいたが，1739年に老中の指図で阿波蜂須賀家の養子となり，阿波藩９代藩主（蜂須賀家政を初代に数えた場合）となっている。三男の至央（よしひろ：1736～1754）は1739年に兄**頼**珍の家督３千石を継いだが，1754年に**頼**珍が阿波藩主を隠居したため，蜂須賀家へ養子に入り，阿波藩10代藩主となった。このため，大膳家には後継が無く，1754年に５代藩主**頼**恭の五男**頼**昌（よりあつ：1752～1789）が２千石で大膳家を継いでいる。1765年には大膳と名前を改めており，その後，1785年には５千石を賜っている。なお，今回の調査で家紋入り理兵衛焼・瓦が出土したSK123は18世紀第３四半期の遺構と考えられる。その当時の大膳家当主は**頼**昌（当主期間＝1754～1789）であり，理兵衛焼・瓦等は**頼**昌によって埋められた遺物と考えられる。**頼**昌は1789年に亡くなるが，子どもは娘１人しかおらず，**頼**昌の弟で大久保家へ養子に入った**頼**裕（よりひろ）の長男**頼**格（よりさだ：1777～1836）が大膳家の養子となり，２千石を賜っている。1836年に**頼**格が亡くなると，三男の**頼**覺（よりあき：1808～1867）が家督２千石を継いだ。**頼**覺は1863年に京都警衛の命を受けると藩主に代わって兵を率い京都へ入っている。また，1864年の禁門の変に際しては日華門外を守っている。1865年隠居し，長男**頼**利（よりとし：1833～）が家督２千石を継いだ。明治以降の大膳家については詳細は不明であるが，市内の四番丁に住んでおり「四番丁さん」と呼ばれていたと言われる。その後経緯は不明であるが，東京へ移住している（注１）。

その他に，文献資料としては『全讃史』において**頼**昌が「幼名直之助，後大膳と称した。城南の邸に居た」とある。このことから，今回の調査成果は絵図，系図，文献の３史料と整合する調査と言える。

最後に，本誌では松平大膳家について十分な検討が行えなかった。松平大膳家は高松藩の中でも非常に高い地位を占め，系図・絵図とも残っていることから，高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）の報告書において詳細な検討を加えたい。

参考文献

乗松真也 2001 「高松城（丸の内地区）の発掘調査概要－高松城跡における屋敷地間境界遺構－」『四国徳島城下町通信』第８号

森下友子 1996 「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

中山城山著 桑田明訳 1991 『口訳全讃史』城山会

注１　松平公益会より御教授賜った。

遺物観察表(土器)

番号	産地	種類	器形	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内　面	外　面
1	肥前	陶器	皿	13.0		2.3		高台無釉
2	肥前	陶器	皿	11.6		1.6	口縁部スス付着　灯明皿に転用	
3		土師質土器	皿	10.9		2.1		
4		土師質土器	皿	10.3		1.5		
5		土師質土器	羽釜	25.7		3.6		
6		土師質土器	鉢	23.6		6.4	ヨコヘラミガキ	指頭圧
7		土師質土器	杯	10.8		1.8		
8	肥前	陶器	皿	15.0		1.3		
9	肥前	陶器	皿	32.4		3.0		
10		土師質土器	皿	16.0		2.6		
11		土師質土器	杯	14.2	8.6	2.6		
12		土師質土器	杯	10.6		2.4		
13		土師質土器	皿	15.0	8.2	2.1	スス付着	
14		土師質土器	皿	11.4		2.3		
15		土師質土器	皿	8.2	4.4	1.6		
16		土師質土器	皿		4.6	1.9		
17		土師質土器	メンコ	4.4	4.4	0.4	土師質擂鉢を転用	
18	肥前	陶器	皿	12.0	3.0	4.4		高台無釉
19	肥前	陶器	皿		5.2	1.8	砂目	高台無釉
20	肥前	陶器	皿	14.0		2.5		無釉
21	肥前	陶器	皿		4.6	2.6	胎土目	高台無釉
22	肥前	陶器	碗		4.6	3.4		高台無釉
23	肥前	陶器	碗	11.0	4.4	6.9		高台無釉
24	肥前	陶器	皿	13.8	5.6	5.1	鉄絵草花文	高台無釉
25	肥前	陶器	皿	15.0	4.6	3.1	砂目	高台無釉
26	肥前	陶器	鉢	36.0		3.8		
27	肥前	陶器	鉢	25.0		6.0		
28	肥前	陶器	碗	12.2		3.8	鉄釉	鉄釉
29	瀬戸美濃	陶器	椀	13.2		4.1		
30	備前	陶器	擂鉢	32.0	15.6	11.0	体部下半ヨコヘラケズリ	
31	輸入	磁器	碗	15.0		3.3	圏線4条	圏線2条，染付草花文
32	肥前	陶器	皿	11.0		2.5		高台無釉
33	肥前	陶器	皿		4.2	1.7	砂目	高台無釉
34	肥前	陶器	碗		4.4	1.2		高台無釉
35	肥前	陶器	皿	18.0		2.1		
36	志野	陶器	碗	14.2	8.0	5.4		
37		土師質土器	擂鉢	23.0		6.7		
38	肥前	陶器	甕	21.0		3.4		
39	肥前	陶器	鉢	42.8		3.0		
40		土師質土器	皿	9.5	7.2	2.6		
41		土師質土器	皿		3.8	0.9		
42		土師質土器	皿	9.0	6.0	0.9		
43		土師質土器	皿	11.4	5.6	2.2		指頭圧，口縁部スス付着
44	肥前	陶器	皿	15.2		2.1		高台無釉
45	肥前	陶器	皿	13.6		1.5		
46	志野	陶器	碗			1.5		
47		土師質土器	皿	10.6	7.0	1.6		
48	瀬戸美濃	陶器	皿			3.4	染付草花文	
49	肥前	陶器	碗	11.0	6.0	5.5		底部無釉
50	肥前	磁器	皿	13.4	8.8	2.4		高台無釉
51	肥前	陶器	皿	11.4	7.4	1.7	胎土目	高台無釉
52	肥前	陶器	皿	13.0	4.2	3.0	砂目	高台無釉
53	肥前	陶器	皿	12.6	5.0	3.3	砂目	高台無釉
54	肥前	陶器	碗	7.6	5.0	6.5		高台無釉
55	肥前	磁器	紅猪口	5.4	2.8	1.2		
56	肥前	磁器	碗	12.6		5.1		染付草花文
57	肥前	陶器	擂鉢	30.4	22.0	6.4		
58		土師質土器	土鍋	41.0		12.7	ナデ	タテハケ
59		土師質土器	皿	7.7	4.6	1.6		
60		土師質土器	皿	11.3		2.1		
61	肥前	陶器	碗	4.2		2.3		高台無釉
62	肥前	陶器	皿	11.9		3.2	鉄絵	高台無釉
63	肥前	陶器	碗	4.8		3.2		高台無釉
64	肥前	陶器	皿	14.0		1.6		高台無釉
65	肥前	陶器	碗	4.2		5.5		高台無釉
66	肥前	陶器	甕	10.0		10.8	同心円タタキ	底部無釉
67	備前	陶器	擂鉢	16.0		5.8		
68		土師質土器	擂鉢	27.0		4.5		
69	肥前	陶器	碗		3.6	2.5		高台無釉
70	輸入	磁器	皿		11.2	1.1	染付草花文	
71	輸入	磁器	皿	17.4		2.0	染付草花文	
72	瀬戸美濃	磁器	碗	10.8		3.2		染付草花文
73	肥前	磁器	碗	10.0		2.6		染付草花文
74	備前	陶器	壺	5.7		2.8		刻印
75	肥前	磁器	碗		4.1	2.8	型紙刷，ハリ支え，見込松竹梅	型紙刷
76	肥前	磁器	蓋	10.0		2.5	口縁部無釉	染付草花文
77	肥前	磁器	皿	11.0	6.8	2.7	染付山水画，口紅	
78	肥前	磁器	碗	16.4		4.5	染付草花文，口紅	染付草花文，口紅
79	肥前	磁器	碗	8.0		2.5		
80	肥前	磁器	碗	9.6	3.6	5.0	見込記号文	染付山水画
81	肥前	磁器	碗		4.6	3.1	染付草花文	
82	肥前	磁器	碗		4.4	2.6		幾何学文，圏線3条
83	肥前	磁器	碗		5.6	3.8	蛇ノ目釉ハギ	圏線3条
84	肥前	磁器	碗	9.6	3.2	5.2	圏線2条，見込記号文	染付草花文
85	肥前	磁器	碗		6.0	2.2	圏線1条	圏線2条
86	肥前	磁器	碗	10.0	4.1	5.5	圏線3条，見込格子	格子
87	肥前	磁器	碗		4.7	1.1	見込染付十字花	

88	瀬戸美濃	磁器	碗	9.0		4.6	染付四方襷	染付草花文
89	備前	陶器	灯明皿	7.6		1.5		
90	京信楽	陶器	碗		3.4	1.7		錆絵小杉文
91	京信楽	陶器	色絵碗	12.0		4.1		色絵草花文
92	京信楽	陶器	鉢		9.4	2.8	無釉	
93	京信楽	陶器	蓋		10.2	2.3	無釉	
94	京信楽	陶器	皿	11.6	4.0	2.2	4条の櫛描状線刻	無釉
95	京信楽	陶器	灯明皿	11.5	4.0	2.3		無釉
96	京信楽	陶器	皿	7.0	2.0	4.1	型成形	無釉
97		軟質陶器	蓋	4.0	15.1	3.6		櫛描直線文2条
98		軟質陶器	土瓶		6.4	7.6		無釉
99		土師質土器	焙烙	24.2		4.9		指頭圧
100		土師質土器	蓋	3.4		1.0	ミニチュア	
101		土師質土器	焜炉	16.7	14.1	16.4	底部指頭圧	口縁部漆喰付着，底部外面ヨコヘラケズリ
102		土師質土器	焜炉		15.5	16.2	ヨコハケ，円孔	型成形草花文
103		土師質土器	植木鉢	25.2	19.0	18.0	ヨコハケ	型成形草花文
104	不明	陶器	芥子面	4.3	3.5	1.1	猿顔	
105		土師質土器	皿	9.6		1.4		
106		土師質土器	皿	10.6		1.2		
107		土師質土器	皿	10.6		1.6		
108	瀬戸美濃	陶器	碗	12.0		5.8		
109	瀬戸美濃	陶器	碗	9.8		3.8		
110	肥前	磁器	碗	10.6		4.7		染付網目文
111		土師質土器	碗	4.4	1.8	2.1		
112	肥前	磁器	碗		3.6	2.1		圏線2条
113	肥前	磁器	皿	13.6	8.0	3.8	染付竹，圏線2条，見込五弁花文	染付唐草文，圏線3条，蛇ノ目凹形高台
114	肥前	陶器	皿	12.6	5.0	3.1	砂目	高台無釉
115	肥前	磁器	仏販具	4.8		2.2		色絵草花文
116	肥前	磁器	碗	9.0		3.4		
117	肥前	陶器	蓋	14.4		1.7		無釉
118	肥前	陶器	行平	14.8		3.1		
119	肥前	磁器	碗		6.8	5.9	圏線3条	圏線1条
120		軟質陶器	土瓶		8.1	1.8		無釉
121	肥前	磁器	蓋	5.4	5.4	1.3		染付山水画
122	肥前	磁器	湯呑	6.6	4.6	7.7		イッチン掛け龍文
123	肥前	磁器	湯呑		3.7	6.7	染付草花文	青磁釉
124	肥前	磁器	瓶	1.5		8.1	無釉	染付草花文
125	肥前	磁器	皿		7.4	2.2	染付雷文，見込松竹梅	染付唐草文，圏線3条，蛇ノ目凹形高台
126	肥前	磁器	皿	14.4	10.2	4.0	型紙刷，見込松竹梅	型紙刷
127	肥前	磁器	蓋物	14.0	13.0	4.5	口縁部無釉	染付草花文
128	肥前	磁器	瓶		9.0	4.1	無釉	圏線1条
129	瀬戸美濃	磁器	瓶		5.8	5.0	無釉	圏線1条
130	瀬戸美濃	磁器	碗		5.2	4.4		染付草花文，雷文，櫛歯文，高台内記号文
131	瀬戸美濃	磁器	仏販具	5.5	3.4	4.4		色絵草花文
132	瀬戸美濃	磁器	盃		3.0	3.2		染付草花文，圏線2条
133	瀬戸美濃	磁器	皿	12.6		3.2	圏線2条	染付草花文，圏線1条
134	瀬戸美濃	陶器	皿	8.4	4.0	2.0		高台内無釉
135	瀬戸美濃	陶器	碗		5.2	2.2	見込五弁花文	圏線2条
136	肥前	陶器	碗		4.0	3.1		圏線4条
137	肥前	陶器	盃	5.2	2.8	2.5	刷毛目	刷毛目
138	京信楽	陶器	蓋	3.5		1.2	無釉	
139	京信楽	陶器	碗	9.2	3.3	5.8		高台無釉
140	京信楽	陶器	碗	10.6	8.6	2.9		
141	京信楽	陶器	碗		5.6	2.4		高台無釉
142	京信楽	陶器	碗	6.8	3.2	1.6		高台無釉
143	京信楽	陶器	皿	8.2	3.0	1.4	斜格子状線刻	無釉
144	京信楽	陶器	皿		5.5	1.9	色絵唐草文	高台無釉
145	不明	陶器	竈	3.1	1.9	1.0	ミニチュア	
146	不明	陶器	徳利	4.2	3.6	5.2	鉄釉	鉄釉
147	不明	磁器	蓋	5.8	3.7	0.9	円形スカシ	
148	不明	陶器	鉢	7.2	3.4	3.2	円形スカシ	
149	不明	陶器	鉢	28.6		4.6	鉄釉	鉄釉
150		軟質陶器	蓋	4.0	2.6	1.2		
151		軟質陶器	行平	13.1		3.0	無釉	刻目文
152	備前	陶器	鉢	12.4	13.0	6.3		底部重ね焼き痕
153	大谷	陶器	鉢		8.4	5.5		鉄釉，底部無釉
154		土師質土器	焼塩壺	6.4		1.9	布目	
155		土師質土器	杯	14.2		3.0	タテヘラミガキ	
156		瓦質土器	火鉢		24.0	18.8	ヨコハケ	タテヘラミガキ後下半のみヨコヘラミガキ
157		土師質土器	魚	3.7	3.5	0.8	型成形土製品	
158	肥前	磁器	仏販具		2.8	2.9		底部無釉
159	瀬戸美濃	磁器	盃		2.4	1.3		
160		軟質陶器	蓋	15.6		1.2		
161		土師質土器	甕		25.0	6.8		指頭圧
162	肥前	磁器	紅皿	4.6		1.3		高台無釉
163	肥前	磁器	紅猪口	5.6	3.0	1.8		染付笹文
164	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.0	2.2		染付笹文
165	肥前	磁器	紅猪口	7.2		2.0		
166	肥前	磁器	紅猪口	6.2		1.9		染付笹文
167	肥前	磁器	蕎麦猪口	4.3	3.9	3.4		
168	肥前	磁器	蕎麦猪口		3.4	1.2		染付草花文
169	肥前	磁器	蕎麦猪口		4.0	1.9		圏線2条
170	肥前	磁器	蓋	4.6		1.3		
171	肥前	磁器	蓋	15.2		2.0		染付草花文
172	肥前	磁器	盃		2.8	1.8		
173	肥前	磁器	碗		3.4	1.9	圏線1条，見込記号文	圏線2条
174	肥前	磁器	碗		3.2	1.9	青磁釉，圏線2条，五弁花文	青磁釉
175	肥前	磁器	碗	10.4	3.8	5.4	圏線3条，見込文字	染付文字，圏線6条
176	肥前	磁器	碗		5.8	3.5		圏線3条

177	肥前	磁器	碗		5.6	1.4	圏線2条，見込円	圏線3条
178	肥前	磁器	碗	10.1		3.7	染付四方襷，267と同一個体	染付吉祥文，圏線1条
179	肥前	磁器	皿	22.6		4.6	染付草花文，染付四方襷	染付唐草文
180	肥前	陶器	碗	8.8		5.0	無釉	圏線2条
181	肥前	陶器	鉢	16.4	5.8	7.4	刷毛目	刷毛目，高台無釉
182	志野	陶器	碗	11.4		5.7		鉄絵檜垣文
183	京信楽	陶器	蓋	5.8		2.1	無釉	
184	京信楽	陶器	紅猪口		3.6	1.7		底部無釉
185	京信楽	陶器	碗	14.6		4.9		
186	京信楽	陶器	碗	10.4		3.7		
187	京信楽	陶器	碗	10.4		4.1		
188	京信楽	陶器	色絵皿	12.8	5.4	2.8	色絵草花文	高台無釉
189	不明	陶器	徳利	3.6		2.4	鉄釉	鉄釉
190	不明	陶器	鉢		11.0	4.1		鉄釉
191	備前	陶器	甕	46.2		5.4	頸部指頭圧	
192	備前	陶器	鍋	16.2		3.6		
193	備前	陶器	灯明皿	7.8	2.2	1.0		
194	備前	陶器	灯明皿	8.0	0.8	1.4		
195	備前	陶器	灯明皿	8.0		1.1		
196	備前	陶器	灯明皿	9.0		1.5		スス付着
197	備前	陶器	灯明皿	10.2		1.5		スス付着
198	備前	陶器	灯明皿	10.4		1.5		スス付着
199	備前	陶器	灯明皿	11.4		1.3		スス付着
200	備前	陶器	灯明皿	12.0		1.5		
201		土師質土器	皿		6.2	1.1		
202		土師質土器	皿	6.2	2.8	1.1		
203		土師質土器	焼塩壷	8.8		1.8	布目	ナデ
204		土師質土器	犬	3.5		2.6		
205		土師質土器	羽釜	2.8	2.0	2.5		
206		土師質土器	焜炉		14.8	15.4	ヨコハケ	型成形草花文
207	備前	陶器	擂鉢	30.6		5.5		重ね焼き痕
208	堺	陶器	擂鉢		14.0	6.4		
209	明石	陶器	擂鉢		14.0	3.3		
210	肥前	磁器	紅皿	4.6	1.6	1.5		型成形，高台無釉
211	肥前	磁器	紅皿	5.1		1.2		型成形，高台無釉
212	肥前	磁器	紅猪口	6.0		1.4		染付笹文
213	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.0	2.0		染付笹文
214	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.0	2.3		染付笹文
215	肥前	磁器	紅猪口	6.0		2.0		雨降り文
216	肥前	磁器	仏販具		3.6	4.0		底部無釉
217	肥前	磁器	皿	14.0		2.0	圏線2条	染付草花文，圏線3条
218	肥前	磁器	皿	12.6	9.4	1.9		
219	肥前	磁器	皿		7.8	2.4	染付山水画，ハリ支え	蛇ノ目凹形高台
220	肥前	磁器	碗	10.8		2.0	青磁釉	青磁釉
221	肥前	磁器	碗	11.0		3.0	青磁釉	青磁釉
222	肥前	磁器	碗	11.4		2.7	染付四方襷	青磁釉
223	肥前	磁器	碗	11.6	5.0	6.3	染付四方襷，圏線2条，見込五弁花文	青磁釉，高台内渦福
224	肥前	磁器	碗	11.6	4.4	6.4	染付四方襷，圏線3条，見込五弁花文	青磁釉，高台内渦福
225	肥前	磁器	碗	11.0		11.0	染付四方襷	染付草花文
226	肥前	磁器	碗	15.8	6.3	6.8	染付四方襷，圏線2条	染付草花文，圏線3条
227	肥前	磁器	碗		5.8	3.1	圏線1条，見込染付草花文	染付草花文，圏線2条，高台内見込記号文，圏線1条
228	肥前	磁器	碗	8.6	3.6	5.3		
229	肥前	磁器	碗		2.5	4.8		染付草花文，圏線3条
230	肥前	磁器	碗	7.2	3.4	2.8	圏線1条，見込記号文	染付草花文，圏線2条
231	肥前	磁器	碗	9.2	5.2	2.0	圏線2条，見込五弁花文	圏線3条，高台内文字，圏線1条
232	肥前	磁器	碗	8.0	3.4	3.8		圏線2条
233	肥前	磁器	碗	8.4	4.2	2.9		
234	肥前	磁器	碗	4.6	7.8	1.4	染付四方襷	染付柳文
235	肥前	陶器	蓋	10.0	5.3	2.1		無釉
236	肥前	陶器	皿	11.8	6.6	1.8		
237	肥前	陶器	壷	7.0		2.6	無釉	
238	肥前	陶器	皿	16.6	3.8	6.6	砂目	
239	肥前	陶器	鉢	9.0		3.5		高台無釉
240	瀬戸美濃	磁器	盃	5.8	3.2	2.8		染付草花文，圏線2条
241	瀬戸美濃	磁器	花生	5.4	5.6	5.3	無釉	染付蛸唐草文
242	瀬戸美濃	磁器	紅猪口	4.0		1.4		染付草花文
243	瀬戸美濃	陶器	皿			2.9		
244	瀬戸美濃	陶器	碗	9.4	3.6	5.3		染付文様不明，高台無釉
245	京信楽	陶器	碗	4.6	5.2	4.2		色絵文様不明
246	京信楽	陶器	碗	9.6	5.6	4.6		色絵草花文
247	京信楽	陶器	碗		4.4	2.7		高台無釉
248	京信楽	陶器	皿	6.0	2.6	0.5		無釉
249	京信楽	陶器	鉢		10.0	2.8	無釉	
250	源内	陶器	皿	9.6		1.1	型成形	
251	源内	陶器	皿			1.6	型成形	
252		須恵質土器	茶釜	12.0		5.5		雷文
253	不明	陶器	植木鉢	14.0	16.2	17.5	下半無釉	型成形
254	不明	陶器	土瓶	7.6	12.4	2.0	無釉	
255		土師質土器	焙烙	42.8		1.9		指頭圧
256		土師質土器	土錘	7.8		3.9	ナデ，円孔4	ナデ
257	備前	陶器	甕	40.0		11.8	頸部指頭圧，体部板ナデ	鉄釉
258	備前	陶器	灯明皿	8.4		2.0		スス付着
259	備前	陶器	灯明皿	8.0		1.1		
260	備前	陶器	灯明皿	12.8	8.8	1.3		
261	明石	陶器	擂鉢	28.8	17.0	8.0		墨書「年」，刻印「久喜」
262	京信楽	陶器	碗		4.0	1.2		無釉
263	肥前	陶器	碗	6.4	4.0	3.4	鉄釉	上半鉄釉，下半無釉
264	肥前	陶器	鉢	15.0		2.2		
265	肥前	磁器	碗		2.4	2.3		

266	肥前	磁器	碗		3.0	2.9		染付文様不明
267	肥前	磁器	碗		4.0	2.5	見込松竹梅，ハリ支え，圏線1条，178と同一個体	染付吉祥文，高台内記号文，高台内圏線1条
268	肥前	陶器	碗	14.0		4.9	染付四方襷	染付草花文
269	不明	陶器	鉢		19.6	6.1		底部無釉
270	肥前	磁器	紅猪口	5.0		1.2		染付草花文
271	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.0	2.4		染付笹文
272	肥前	磁器	仏具	2.0		4.2	無釉	青磁釉
273	肥前	磁器	皿	9.8	4.0	2.2		高台無釉
274	肥前	磁器	碗	11.6	5.0	6.1	染付四方襷，圏線2条，見込五弁花	青磁釉，高台内渦福
275	肥前	磁器	碗	7.0	4.2	5.6	帯線，見込染付草花文	染付草花文，圏線4条
276	肥前	磁器	碗		4.8	2.9	染付草花文	圏線2条
277	肥前	磁器	碗		3.8	1.6	見込染付山水画	染付文様不明
278	肥前	磁器	碗	8.9		2.7		染付雨降り文
279	瀬戸美濃	磁器	碗	10.8		3.7		染付文様不明
280	肥前	陶器	皿	11.0		2.0		
281	不明	陶器	瓶		3.8	5.9	無釉	高台無釉
282	不明	陶器	鉢		10.2	2.6	鉄釉，ハリ支え	鉄釉，底部無釉
283		土師質土器	皿	7.7	5.6	1.0		
284		土師質土器	皿		7.2	1.2		
285	京信楽	陶器	碗		3.2	1.2		高台無釉
286	京信楽	陶器	碗		3.0	1.3		高台無釉
287	京信楽	陶器	花生	10.1	9.6	7.7	無釉	高台内墨書「エト」
288	京信楽	陶器	碗	10.4		5.0		染付文様不明
289	京信楽	陶器	碗	8.2	4.8	5.4	圏線1条	高台無釉
290	京信楽	陶器	碗	8.6	2.9	4.7		高台無釉
291	京信楽	陶器	碗	9.1	2.6	4.5		高台無釉
292	京信楽	陶器	碗	8.6	3.2	4.5		高台無釉
293	京信楽	陶器	碗		4.2	2.4		高台無釉
294	京信楽	陶器	碗	6.4	2.2	3.5		高台無釉
295	京信楽	陶器	碗	6.4		2.8		
296		軟質陶器	蓋		4.2	1.7		櫛描直線文
297		軟質陶器	蓋	6.2	2.8	2.0		無釉
298		軟質陶器	蓋	10.9	4.6	2.4		無釉
299		軟質陶器	蓋	7.1	4.4	2.0		無釉
300		軟質陶器	蓋	8.8	4.6	3.3		無釉
301		軟質陶器	鍋	18.7		7.5		無釉
302		軟質陶器	鍋	17.6		3.5		無釉
303		軟質陶器	土瓶	10.4	8.4	16.6	無釉	刻目，下半無釉
304		軟質陶器	土瓶	10.4		13.5	無釉	刻目，下半無釉
305		軟質陶器	土瓶	10.2		13.7	無釉	刻目，下半無釉
306		軟質陶器	土瓶	11.1	8.9	16.4	無釉	下半無釉
307		軟質陶器	土瓶	9.2	8.6	15.4	無釉	イッチン掛け，下半無釉
308		軟質陶器	土瓶	8.8		12.2	無釉	イッチン掛け，下半無釉
309	肥前	磁器	碗		4.8	3.1	染付半菊唐草文	青磁釉，高台内渦福
310	肥前	磁器	碗		4.0	1.4		圏線2条
311	京信楽	陶器	碗	9.0		3.5		
312	京信楽	陶器	碗	9.0		3.9		染付唐草文
313	肥前	磁器	紅猪口		2.8	1.2		
314	備前	陶器	灯明皿	8.0		1.4		スス付着
315	肥前	磁器	碗	11.8		4.9	青磁釉	青磁釉
316	肥前	磁器	碗	10.4		4.2	口紅，染付四方襷，染付梅文	青磁釉
317	肥前	磁器	碗	10.6		5.5	染付四方襷，圏線2条	青磁釉
318	肥前	磁器	碗	10.6	3.9	4.6	染付菊花散らし	染付菊花散らし
319	肥前	磁器	碗	9.6		4.2	染付菊花散らし	染付菊花散らし
320	肥前	磁器	碗	9.0		3.8		コンニャク印判
321	肥前	磁器	碗	10.2		3.9		染付草花文
322	肥前	磁器	碗	9.8		3.0		染付草花文
323	肥前	磁器	碗	11.0		3.6		染付草花文
324	肥前	磁器	碗	10.2		4.5		染付草花文
325	肥前	磁器	碗	10.0		4.0		染付草花文
326	肥前	磁器	碗	9.6		4.7	染付四方襷	染付草花文
327	肥前	磁器	碗	10.0				染付二重網目文
328	肥前	磁器	碗	10.0		3.5		色絵草花文
329	肥前	磁器	碗	11.6		3.5		染付草花文
330	肥前	磁器	碗	10.6		3.9		染付草花文
331	肥前	磁器	碗	10.8		4.0		染付草花文
332	肥前	磁器	碗	11.2		3.5		染付草花文
333	肥前	磁器	碗	9.6		3.4		染付草花文
334	肥前	磁器	碗	9.4		3.3		染付草花文
335	肥前	磁器	碗	9.1		3.2		染付山水画
336	肥前	磁器	碗	11.4		4.8		
337	肥前	磁器	碗	11.0		3.4		
338	肥前	磁器	碗	9.2		3.3		
339	肥前	磁器	碗	10.8	4.6	5.3	蛇ノ目釉ハギ	染付草花文，圏線4条
340	肥前	磁器	碗	11.0	5.2	7.4		圏線3条，染付文様不明
341	肥前	磁器	碗	10.6	4.6	6.4		圏線3条，染付文様不明
342	肥前	磁器	碗	9.6	3.0	6.2	染付四方襷，圏線2条	圏線2条，染付草花文，区画間文
343	肥前	磁器	碗		5.2	5.5	圏線2条	染付草花文，圏線3条
344	肥前	磁器	碗	10.9	4.3	5.0		染付梅文，圏線1条
345	肥前	磁器	碗	8.2	3.4	5.5		
346	肥前	磁器	碗		4.4	1.4	見込五弁花文	青磁釉，高台内記号文
347	肥前	磁器	碗		4.2	3.0	圏線2条，見込コンニャク印判	青磁釉
348	肥前	磁器	碗		4.8	3.3	染付草花文，圏線2条	青磁釉，高台内記号文
349	肥前	磁器	碗		5.2	4.1	圏線2条	青磁釉
350	肥前	磁器	碗		4.0	2.9	圏線3条	青磁釉
351	肥前	磁器	碗		4.0	3.6		青磁釉
352	肥前	磁器	碗		3.6	4.2		染付二重網目文，圏線3条
353	肥前	磁器	碗		4.8	3.6		圏線3条
354	肥前	磁器	碗		4.8	2.4		圏線3条

355	肥前	磁器	碗		4.2	2.7	蛇ノ目釉ハギ	染付草花文，圏線3条
356	肥前	磁器	碗		5.2	1.7		圏線3条
357	肥前	磁器	碗		4.4	2.5		染付草花文
358	肥前	磁器	碗		4.5	1.7		染付草花文
359	肥前	磁器	碗		3.9	1.9		染付斜格子文，○×文，圏線3条
360	肥前	磁器	碗		4.6	2.1	圏線2条，見込五弁花文	染付草花文，高台内渦福
361	肥前	磁器	碗		6.0	2.5	蛇ノ目釉ハギ，見込五弁花文	
362	肥前	磁器	碗		3.2	2.1		染付文様不明
363	肥前	磁器	碗	8.4	4.4	6.4	染付四方襷，圏線2条，見込五弁花文	染付丸文，圏線2条
364	肥前	磁器	碗	8.0		6.5	染付四方襷，圏線2条	青磁釉
365	肥前	磁器	碗		4.5	4.4	圏線2条，見込五弁花文	染付丸文，圏線2条
366	肥前	磁器	碗	8.6	3.4	3.9		染付菊花散らし
367	肥前	磁器	碗	8.2	3.6	4.0	染付菊花散らし	染付菊花散らし
368	肥前	磁器	碗	8.4	3.2	4.4		染付文様不明，圏線3条
369	肥前	磁器	碗	8.4	3.2	4.4		染付文様不明
370	肥前	磁器	碗	8.2	3.0	4.1		染付草花文
371	肥前	磁器	碗	7.7	3.0	3.7		染付笹文，圏線2条
372	肥前	磁器	碗	6.2	2.8	4.0		染付網目文
373	肥前	磁器	碗	7.8	3.2	3.8		圏線2条
374	肥前	磁器	碗	8.0	4.3	2.7		染付扇文
375	肥前	磁器	碗	9.0		3.0		染付雨降り文
376	肥前	磁器	碗	8.0		2.0		染付雨降り文
377	肥前	磁器	碗	7.5		2.7		染付雨降り文
378	肥前	磁器	碗	7.4		2.2		染付雨降り文
379	肥前	磁器	碗	6.6		2.6		染付斜格子文，圏線2条
380	肥前	磁器	碗	8.2		2.8		染付雁文
381	肥前	磁器	碗	7.9		2.9		染付草花文
382	肥前	磁器	碗		3.0	2.0		染付草花文，圏線3条
383	肥前	磁器	碗		3.0	2.4		染付草花文，圏線3条
384	肥前	磁器	碗		3.8	2.6		染付草花文，圏線3条
385	肥前	磁器	碗		3.2	1.6		圏線3条
386	肥前	磁器	碗		3.2	1.2		圏線3条
387	肥前	磁器	蓋物	9.4	5.2	5.0	口縁部無釉	染付草花文，圏線4条
388	肥前	磁器	蓋物	7.8		3.5	口縁部無釉	唐草文，圏線2条
389	肥前	磁器	盃	7.1	2.8	3.1		
390	肥前	磁器	盃	6.6		3.1		
391	肥前	磁器	仏販具		5.0	3.1		染付山形文，圏線1条
392	肥前	磁器	仏販具		3.4	3.1		
393	肥前	磁器	仏販具		3.4	3.7		高台無釉
394	肥前	磁器	仏販具		3.6	3.4		
395	肥前	磁器	紅皿	4.2	1.2	1.5		型成形，高台無釉
396	肥前	磁器	紅皿	4.4	1.6	1.3		型成形，高台無釉
397	肥前	磁器	紅皿	5.0	1.6	1.7		型成形，高台無釉
398	肥前	磁器	紅皿	5.6	1.5	1.6		型成形，高台無釉
399	肥前	磁器	鉢	12.6		1.3	無釉	
400	肥前	磁器	鉢	21.0		7.3	染付四方襷，染付草花文	染付唐草文
401	肥前	磁器	紅猪口	5.8	2.4	2.4		染付草花文
402	肥前	磁器	紅猪口	5.8	2.8	2.4		染笹文文
403	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.6	2.4		染付笹文
404	肥前	磁器	紅猪口	5.4	1.9	1.9		染付笹文
405	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.9	2.2		染付笹文
406	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.0	2.6		染付笹文
407	肥前	磁器	紅猪口	6.2	3.3	2.5		染付笹文
408	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.1	2.4		染付笹文
409	肥前	磁器	紅猪口	7.0	3.0	2.6		コンニャク印判
410	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.6	2.1		染付笹文
411	肥前	磁器	紅猪口	5.8	2.8	2.0		染付笹文
412	肥前	磁器	紅猪口	5.6	3.2	2.0		染付笹文
413	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.2	2.0		染付笹文
414	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.0	2.4		染付笹文
415	肥前	磁器	紅猪口	6.6	3.1	2.2		染付笹文
416	肥前	磁器	紅猪口	3.0	2.9	2.2		染付笹文
417	肥前	磁器	紅猪口	6.2	2.9	2.2		染付笹文
418	肥前	磁器	紅猪口	6.4	2.6	2.4		染付笹文
419	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.7	2.0		染付笹文
420	肥前	磁器	紅猪口	6.2	2.8	2.3		染付笹文
421	肥前	磁器	紅猪口	5.8	3.0	2.1		染付笹文
422	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.6	2.2		染付笹文
423	肥前	磁器	紅猪口	6.0	2.8	2.0		染付笹文
424	肥前	磁器	紅猪口	6.2	2.8	2.4		染付笹文
425	肥前	磁器	紅猪口		3.0	2.1		染付笹文
426	肥前	磁器	紅猪口		2.9	2.3		
427	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.2	2.3		
428	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.0	1.8		
429	肥前	磁器	紅猪口		2.6	1.9		
430	肥前	磁器	紅猪口	6.2	3.0	2.2		
431	肥前	磁器	紅猪口	6.0		2.0		染付笹文
432	肥前	磁器	紅猪口	6.2		1.5		染付笹文
433	肥前	磁器	紅猪口	5.8		1.4		染付笹文
434	肥前	磁器	紅猪口	6.4		1.5		染付笹文
435	肥前	磁器	紅猪口	6.0		1.1		染付笹文
436	肥前	磁器	紅猪口	5.4		1.5		
437	肥前	磁器	紅猪口	5.6		1.5		
438	肥前	磁器	紅猪口		2.8	1.0		溶着痕
439	肥前	磁器	紅猪口		2.6	1.0		
440	肥前	磁器	紅猪口		2.7	1.2		
441	肥前	磁器	紅猪口		3.8	1.1		
442	肥前	磁器	紅猪口		3.2	1.5		
443	肥前	磁器	紅猪口		3.6	1.3		

444	肥前	磁器	紅猪口		3.2	1.2		
445	肥前	磁器	紅猪口		2.8	1.2		
446	肥前	磁器	蕎麦猪口	10.4		3.1	染付四方襷	青磁釉
447	肥前	磁器	蕎麦猪口	9.3		2.8	染付四方襷	青磁釉
448	肥前	磁器	蕎麦猪口	10.0		2.0	染付四方襷	青磁釉
449	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.4		3.3		染付草花文
450	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.2		2.4		染付草花文，圏線2条
451	肥前	磁器	蕎麦猪口		4.8	3.0		染付文様不明，圏線1条，高台内圏線1条
452	肥前	磁器	蕎麦猪口		4.6	3.2		染付草花文，圏線2条，高台内圏線1条
453	肥前	磁器	蕎麦猪口		5.0	4.3		染付草花文，圏線2条，高台内圏線1条，記号文
454	肥前	磁器	蕎麦猪口		3.2	2.1		染付草花文，圏線2条
455	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.4	4.8	4.3		染付草花文，圏線2条，高台内渦福
456	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.6	4.0	5.2		染付草花文，圏線2条
457	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.2	5.2	5.3		染付草花文，圏線1条
458	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.6	6.2	5.7		染付葦文，圏線3条，高台内圏線1条
459	肥前	磁器	蓋	5.8		1.6		染付斜格子文
460	肥前	磁器	蓋		6.0	1.8		染付円圏文
461	肥前	磁器	蓋	4.8		3.4	口縁部無釉	染付梅文，圏線3条
462	肥前	磁器	蓋	10.4		2.4	口縁部無釉	染付梅文，圏線4条
463	肥前	磁器	蓋		10.8	1.8	口縁部無釉	染付草花文
464	肥前	磁器	蓋	8.5		2.4	口縁部無釉	染付草花文，圏線3条
465	肥前	磁器	蓋	10.0		3.2	染付四方襷，圏線2条，見込五弁花	青磁釉
466	肥前	磁器	蓋	11.0		1.9	染付四方襷	青磁釉
467	肥前	磁器	蓋	9.8	4.0	2.8	染付四方襷，圏線2条，見込五弁花	青磁釉
468	肥前	磁器	蓋	10.2		2.6	染付四方襷，染付草花文	青磁釉
469	肥前	磁器	蓋	10.9	4.4	3.0	染付四方襷，圏線2条	青磁釉
470	肥前	磁器	蓋	10.0		1.8	コンニャク印判	コンニャク印判
471	肥前	磁器	油壺	3.2		9.1	無釉	染付文様不明
472	肥前	磁器	油壺		5.0	3.5	無釉	染付文様不明
473	肥前	磁器	瓶		3.6	1.7	無釉	圏線2条
474	肥前	磁器	瓶		5.8	2.6	無釉	染付帯線
475	肥前	磁器	瓶		4.9	2.7	無釉	
476	肥前	磁器	花生		5.2	2.8	無釉	青磁釉
477	肥前	磁器	花生			12.0	無釉	人面取手，染付草花文
478	肥前	磁器	花生		5.0	2.2	無釉	染付文様不明，圏線1条
479	肥前	磁器	御神酒徳利		5.3	10.4	無釉	色絵草花文
480	肥前	磁器	瓶		4.6	7.0	無釉	染付唐草文，圏線3条
481	肥前	磁器	瓶		4.4	8.0	無釉	染付草花文
482	肥前	磁器	瓶	7.0		3.4		染付文様不明
483	肥前	磁器	瓶	2.2		9.2	無釉	染付草花文
484	肥前	磁器	瓶	1.8		8.5	無釉	染付草花文
485	肥前	磁器	皿		13.0	1.3	染付唐草文，圏線2条，見込染付草花文	圏線3条，高台内文字「明」
486	肥前	磁器	皿		11.8	2.9	染付草花文，圏線2条	染付唐草文，圏線3条，高台内圏線1条
487	肥前	磁器	皿		8.5	2.7	染付草花文	圏線3条，山形文，蛇ノ目凹形高台
488	肥前	磁器	皿	21.4	14.6	3.1	口紅，染付草花文，圏線3条，見込五弁花文	染付唐草文，圏線3条，高台内圏線1条，「大明年製」
489	肥前	磁器	皿		10.4	2.9	染付草花文	染付草花文，圏線4条
490	肥前	磁器	皿		7.6	1.2	圏線2条	圏線3条
491	肥前	磁器	皿	12.3		2.3	染付草花文，圏線1条	染付唐草文
492	肥前	磁器	皿	12.6		2.9	染付網目文，圏線2条	染付文様不明
493	肥前	磁器	皿	14.2	8.4	4.2	染付草花文，圏線2条	唐草文，圏線3条，高台内圏線1条
494	肥前	磁器	皿		7.6	2.2	染付雲文	染付文様不明，圏線3条
495	肥前	磁器	皿		8.2	3.0	染付草花文，圏線2条	染付草花文，圏線3条，高台内圏線1条
496	肥前	磁器	皿		6.9	3.9	圏線2条，見込染付草花文	染付文字「壽」，圏線2条
497	肥前	磁器	皿	14.1	8.2	3.9	染付草花文	染付唐草文，圏線2条，蛇ノ目凹形高台
498	肥前	磁器	皿		4.8	2.5	青磁釉，波状文	青磁釉，高台溶着痕
499	肥前	磁器	鉢	19.6	9.2	7.3	染付菊文，994と同一個体	唐草文，圏線3条，蛇ノ目凹形高台，高台内渦福
500	肥前	陶器	皿		4.8	1.9	砂目	高台無釉
501	肥前	陶器	皿		4.2	1.1	砂目	高台無釉
502	肥前	陶器	皿		4.4	2.6	胎土目，鉄絵	高台無釉
503	肥前	陶器	碗	13.6		4.7		高台無釉
504	肥前	陶器	碗		5.4	0.6		高台無釉
505	肥前	陶器	碗		2.7	1.4		高台無釉
506	肥前	陶器	碗	11.0		5.0		
507	肥前	陶器	碗	11.0		4.7		染付草花文
508	肥前	陶器	碗	11.2	5.2	6.9		圏線2条，染付草花文
509	肥前	陶器	碗		4.0	3.3	刷毛目	
510	肥前	陶器	碗	10.0		4.5		圏線3条，染付草花文
511	肥前	陶器	碗	10.6		3.4		
512	肥前	陶器	碗	10.5	4.2	6.8		
513	肥前	陶器	碗		5.0	3.5	無釉	高台無釉
514	肥前	陶器	碗	9.8		4.5		
515	肥前	陶器	碗	10.0		5.0		圏線2条，染付
516	肥前	陶器	碗	9.4	5.5	6.7	無釉	圏線4条，染付草花文，高台無釉
517	肥前	陶器	碗		5.6	2.3		
518	肥前	陶器	碗	8.5		4.7		高台無釉
519	肥前	陶器	碗	7.9		3.0		染付文様不明
520	肥前	陶器	碗	4.2		4.4		底部無釉
521	肥前	陶器	碗		4.6	2.0	青磁釉	青磁釉，高台無釉，高台溶着痕
522	肥前	陶器	碗		4.4	2.1		
523	肥前	陶器	鉢		6.8	5.9		高台無釉
524	肥前	陶器	鉢		8.2	3.9	三島手	
525	肥前	陶器	鉢	21.4		5.7	刷毛目	刷毛目
526	肥前	陶器	鉢		7.6	4.1	刷毛目	刷毛目
527	肥前	陶器	鉢	26.2		4.0	刷毛目	
528	肥前	陶器	鉢	30.0		7.7		
529	肥前	陶器	鉢	34.0	12.2	11.8	三島手，砂目	高台無釉
530	瀬戸美濃	陶器	皿	13.2		1.9		
531	瀬戸美濃	陶器	碗	8.2		3.6	鉄釉	鉄釉，高台無釉
532	瀬戸美濃	陶器	碗		5.2	1.2		圏線3条

533	瀬戸美濃	陶器	碗		4.2	2.1		圏線6条
534	瀬戸美濃	陶器	碗	10.6		4.9		高台無釉
535	瀬戸美濃	陶器	碗	11.2		4.1		染付文様不明
536	瀬戸美濃	陶器	碗	8.8	3.4	4.5		染付草花文，圏線2条
537	瀬戸美濃	陶器	碗		3.6	2.2		高台無釉
538	瀬戸美濃	陶器	碗		3.8	3.2		高台無釉
539	瀬戸美濃	陶器	碗	10.0		3.1		
540	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6		4.5		コンニャク印判
541	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6		4.1		染付円圏文
542	瀬戸美濃	陶器	碗	8.6	3.1	5.2		コンニャク印判，高台無釉
543	瀬戸美濃	陶器	碗		3.4	3.9		高台無釉
544	瀬戸美濃	陶器	碗	12.0		2.7		
545	瀬戸美濃	陶器	碗	10.0		4.7		染付文様不明
546	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6		5.1		染付円圏文
547	瀬戸美濃	陶器	碗	9.2	3.8	5.8		コンニャク印判，高台無釉
548	瀬戸美濃	陶器	碗	9.5	4.0	7.3		染付雲文，高台無釉
549	瀬戸美濃	陶器	碗	11.6		4.9		
550	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6		3.5		染付文様不明
551	瀬戸美濃	陶器	碗	9.5	4.5	6.0		染付円圏文
552	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6	4.0	6.0		染付文様不明，高台無釉
553	瀬戸美濃	陶器	碗	9.2	7.0	9.8	無釉	染付草花文，高台無釉
554	瀬戸美濃	陶器	碗	10.4		4.6		
555	瀬戸美濃	陶器	碗	9.0		4.2		染付円圏文
556	瀬戸美濃	陶器	碗	9.6	4.4	5.9		円圏
557	瀬戸美濃	陶器	鉢	5.6	12.1	5.9	溶着痕	溶着痕，高台無釉
558	理兵衛	陶器	碗			3.7		松平大膳家家紋上絵付け
559	京信楽	陶器	碗	9.8	3.0	5.9		色絵吉祥文，高台無釉
560	京信楽	陶器	碗	9.3	3.2	5.2		色絵草花文，高台無釉
561	京信楽	陶器	碗	9.4	3.2	5.3		色絵草花文，高台無釉
562	京信楽	陶器	碗	9.4	3.0	5.4		色絵草花文，高台無釉
563	京信楽	陶器	碗	9.4	2.4	5.4		色絵草花文，高台無釉
564	京信楽	陶器	碗	9.6	3.0	5.2		色絵草花文，高台無釉
565	京信楽	陶器	碗	9.6		4.5		色絵草花文
566	京信楽	陶器	碗	9.0		4.7		色絵草花文
567	京信楽	陶器	碗	11.0		4.0		色絵草花文
568	京信楽	陶器	碗	9.6		5.0		色絵草花文
569	京信楽	陶器	碗	10.2		4.3		色絵草花文
570	京信楽	陶器	碗	10.2		3.8		色絵草花文，金使用
571	京信楽	陶器	碗	9.4		4.4		色絵草花文，金使用
572	京信楽	陶器	碗	10.0		3.1		色絵草花文
573	京信楽	陶器	碗		3.0	2.2		色絵草花文，高台無釉，高台内墨書
574	京信楽	陶器	碗		2.8	3.3		色絵草花文，高台無釉
575	京信楽	陶器	碗		3.2	4.6		色絵草花文，高台無釉
576	京信楽	陶器	碗		3.6	1.9	色絵文様不明	高台無釉
577	京信楽	陶器	碗		3.0	3.6		色絵草花文，高台無釉
578	京信楽	陶器	碗		3.2	1.5	色絵文様不明	高台無釉
579	京信楽	陶器	碗		2.8	3.5		色絵山水画，高台無釉
580	京信楽	陶器	碗	10.6		2.8		
581	京信楽	陶器	碗	10.0		3.1		
582	京信楽	陶器	碗	9.6		2.8		
583	京信楽	陶器	碗	10.0		2.3		
584	京信楽	陶器	碗	9.0		2.7		
585	京信楽	陶器	碗	10.2		2.0		
586	京信楽	陶器	碗	7.2		3.0		
587	京信楽	陶器	碗	7.2		3.1		
588	京信楽	陶器	碗	9.8		4.7		
589	京信楽	陶器	碗	9.2		4.7		染付草花文
590	京信楽	陶器	碗	10.6		3.9		染付松文
591	京信楽	陶器	碗	9.2		6.0		染付草花文
592	京信楽	陶器	碗	8.0		2.7		
593	京信楽	陶器	碗	8.8		5.5		高台無釉
594	京信楽	陶器	碗	10.0	3.2	5.3		高台無釉
595	京信楽	陶器	碗	9.3	2.8	5.6		高台無釉
596	京信楽	陶器	碗	9.4	2.8	5.3		高台無釉
597	京信楽	陶器	碗	9.6	3.4	4.9		高台無釉
598	京信楽	陶器	碗	9.7	4.0	5.6		高台無釉
599	京信楽	陶器	碗	10.2	3.9	5.1		高台無釉
600	京信楽	陶器	碗	9.4	3.0	5.4		高台無釉
601	京信楽	陶器	碗	9.4	3.2	5.5		錆絵松葉文，高台無釉
602	京信楽	陶器	碗		5.2	5.2		高台無釉
603	京信楽	陶器	碗		4.0	3.5		高台無釉
604	京信楽	陶器	碗		5.0	4.0		高台無釉
605	京信楽	陶器	碗		4.0	3.6		高台無釉
606	京信楽	陶器	碗		3.4	3.6		高台無釉
607	京信楽	陶器	碗		4.6	2.1		高台無釉，高台内墨書
608	京信楽	陶器	碗		4.0	3.0		高台無釉
609	京信楽	陶器	碗		3.4	3.1		高台無釉
610	京信楽	陶器	碗		2.9	2.9		高台無釉
611	京信楽	陶器	碗		3.8	2.4		高台無釉
612	京信楽	陶器	碗		4.8	0.7		高台無釉，高台内墨書
613	京信楽	陶器	碗		3.2	2.4		高台無釉
614	京信楽	陶器	碗		2.8	2.0		高台無釉
615	京信楽	陶器	碗		3.4	1.9		高台無釉
616	京信楽	陶器	碗		3.0	2.0		高台無釉
617	京信楽	陶器	碗		3.0	2.3		高台無釉
618	京信楽	陶器	碗		3.4	1.5		高台無釉
619	京信楽	陶器	碗		4.8	0.9		高台無釉
620	京信楽	陶器	碗		2.8	1.6		高台無釉
621	京信楽	陶器	碗		2.9	1.6		高台無釉

622	京信楽	陶器	碗		3.0	1.2		高台無釉
623	京信楽	陶器	碗	10.6		5.8		
624	京信楽	陶器	碗	9.7	4.3	6.9		
625	京信楽	陶器	碗		5.3	3.6		染付文様不明，高台無釉
626	京信楽	陶器	碗		6.6	2.7		底部無釉
627	京信楽	陶器	碗	9.2		3.6		
628	京信楽	陶器	碗	11.2	5.2	5.5		高台無釉
629	京信楽	陶器	碗	9.2	3.1	4.6		錆絵小杉文，高台無釉
630	京信楽	陶器	碗	11.6	5.2	7.1		錆絵小杉文，高台無釉
631	京信楽	陶器	花生		5.0	4.1	無釉	底部無釉
632	京信楽	陶器	瓶		7.1	2.4	無釉	底部無釉
633	京信楽	陶器	鉢			4.4		錆絵藤文
634	京信楽	陶器	皿	12.0		3.6	色絵文様不明	
635	京信楽	陶器	皿	11.2		3.7	色絵文様不明	
636	京信楽	陶器	皿	11.8		3.6	色絵文様不明	色絵文様不明
637	京信楽	陶器	皿	12.4		2.6	色絵文様不明	
638	京信楽	陶器	皿	12.0	4.1	4.3	色絵文様不明	高台無釉，高台内墨書
639	京信楽	陶器	皿	12.9	4.2	4.6	色絵草花文	高台無釉
640	京信楽	陶器	皿	4.0		1.6		高台無釉
641	京信楽	陶器	皿		6.0	3.0	染付文様不明	高台無釉
642	京信楽	陶器	鉢	11.2		7.4	無釉	青磁釉，高台無釉，染付笹文
643	京信楽	陶器	鉢	18.4		6.4		
644	京信楽	陶器	鉢		8.4	4.6		高台無釉
645	京信楽	陶器	土瓶		7.4	1.3		無釉
646	京信楽	陶器	土瓶		9.2	2.9		無釉
647	京信楽	陶器	土瓶		7.6	2.2		底部無釉
648	京信楽	陶器	土瓶	8.6		2.7	鉄釉	鉄釉，底部無釉
649	京信楽	陶器	土瓶	10.5		11.9	無釉	染付草花文，底部無釉
650	京信楽	陶器	土瓶	11.6		2.0	無釉	染付草花文
651	京信楽	陶器	土瓶	12.0		1.3	無釉	青磁釉
652	京信楽	陶器	土瓶			3.2		
653	備前	陶器	灯明皿	9.0	4.0	1.1		
654	備前	陶器	灯明皿	8.8		1.5		スス付着
655	備前	陶器	灯明皿	10.2	3.7	1.7		スス付着
656	備前	陶器	灯明皿	11.0		2.2		スス付着
657	備前	陶器	灯明皿	10.3	3.0	1.9		スス付着
658	備前	陶器	灯明皿	10.6		1.8		
659	備前	陶器	灯明皿	8.4	4.6	1.4		
660	備前	陶器	灯明皿	9.0		1.2		
661	備前	陶器	灯明皿	10.0		2.1		スス付着
662	備前	陶器	灯明皿	10.2		2.0		スス付着
663	備前	陶器	灯明皿	10.4		1.5		スス付着
664	備前	陶器	灯明皿	10.0		1.6		スス付着
665	備前	陶器	灯明皿	8.6		1.3		スス付着
666	備前	陶器	灯明皿	10.6		1.5		スス付着
667	備前	陶器	灯明皿	10.2		1.4		スス付着
668	備前	陶器	灯明皿	8.8	4.0	1.2		
669	備前	陶器	灯明皿	8.8	4.4	1.2		
670	備前	陶器	灯明皿	10.0	3.4	1.9		スス付着
671	備前	陶器	灯明皿	8.6		1.1		
672	備前	陶器	灯明皿	9.0	4.2	1.3		
673	備前	陶器	灯明皿	10.6	4.8	1.6		スス付着
674	備前	陶器	灯明皿	8.0		1.4		
675	備前	陶器	灯明皿	10.0		1.5		
676	備前	陶器	鉢	15.4		7.6		円形穿孔
677	備前	陶器	瓶	7.0		4.0		
678	備前	陶器	油徳利	2.6		4.6		
679	備前	陶器	油徳利		5.0	9.0		
680	備前	陶器	鉢	10.0	10.4	6.7		
681	備前	陶器	鉢	12.3	13.2	6.7		
682	備前	陶器	徳利			9.0		
683	備前	陶器	徳利		8.8	10.5		底部刻印
684	備前	陶器	徳利		8.4	19.5		型成形布袋，底部刻印
685	不明	陶器	碗	14.2		6.9		
686	不明	陶器	瓶		8.0	5.5	無釉	
687	不明	陶器	鉢	14.0		3.0	鉄釉	鉄釉
688	不明	陶器	鉢		9.0	7.1		鉄釉
689	不明	陶器	鉢	12.6		2.5		高台無釉
690	不明	陶器	鉢		7.0	2.0		
691	不明	陶器	植木鉢		12.8	4.4		高台無釉，底部円孔
692	不明	陶器	花生			9.2		
693	堺	陶器	擂鉢		13.0	3.3		貼付け高台
694	堺	陶器	擂鉢		16.2	3.2		貼付け高台
695	堺	陶器	擂鉢		15.0	3.9		貼付け高台
696	堺	陶器	擂鉢		17.4	5.4		
697	堺	陶器	擂鉢		16.0	6.7		
698	堺	陶器	擂鉢		16.2	6.7		
699	堺	陶器	擂鉢	26.0		8.3		
700	堺	陶器	擂鉢	29.6		7.8		
701	堺	陶器	擂鉢	35.4		7.0		
702	堺	陶器	擂鉢	35.8		8.5		
703	堺	陶器	擂鉢	35.0		8.9		
704	堺	陶器	擂鉢	37.8	21.6	12.8		
705	堺	陶器	擂鉢	31.0	14.4	12.7		
706		土師質土器	皿		5.4	0.8		
707		土師質土器	皿		6.8	0.5		
708		土師質土器	皿	7.6	5.0	1.3		
709		土師質土器	皿	8.0	5.6	1.2		
710		土師質土器	皿		6.2	0.6		

711		土師質土器	皿		6.0	1.5		
712		土師質土器	皿	8.0	5.8	1.1		
713		土師質土器	灯明皿	7.2	5.0	1.0		
714		土師質土器	皿	11.8		2.0		
715		土師質土器	杯	13.6		2.1		
716		土師質土器	皿	13.2	6.6	2.6		
717		土師質土器	杯	16.0	9.1	2.6		
718		土師質土器	皿	15.0	7.0	2.4		
719		土師質土器	焼塩壺	6.2	5.4	7.2	タテヘラケズリ	刻印
720		土師質土器	焼塩壺蓋	8.0		1.8	布目	
721		土師質土器	焼塩壺蓋	7.5		2.0	布目	
722		土師質土器	焼塩壺蓋	7.6	7.5	1.7	布目	
723		土師質土器	焼塩壺蓋	7.6	4.3	2.4	布目	
724		土師質土器	土錘	8.0		6.0		
725		瓦質土器	火鉢			10.7		
726		土師質土器	焙烙	36.0		3.7		指頭圧
727		土師質土器	焙烙	35.0		2.6	板ナデ	指頭圧
728		土師質土器	焙烙	36.0		2.2		指頭圧
729		土師質土器	焙烙	37.8		5.3	ヨコハケ	指頭圧
730		土師質土器	焙烙	36.0		7.0	上半ヨコハケ，下半板ナデ	指頭圧，タテハケ
731		土師質土器	焙烙	26.0		5.0	板ナデ	指頭圧
732		土師質土器	焙烙	34.0		3.2	ヨコハケ	指頭圧
733		土師質土器	焙烙	32.0		3.6	ヨコハケ	指頭圧
734		土師質土器	焙烙	35.0		3.0		指頭圧
735		土師質土器	焙烙	41.2		4.5	ヨコハケ	指頭圧
736		土師質土器	焙烙	27.8		5.6	ヨコハケ	指頭圧
737		土師質土器	焙烙	30.4		6.0	上半ヨコハケ，下半板ナデ	指頭圧，ヨコハケ
738		土師質土器	焙烙	31.2		5.7	ヨコハケ	指頭圧，板ナデ
739		土師質土器	焙烙	32.1		6.2	指頭圧のちヨコハケ	指頭圧
740		土師質土器	焙烙	31.0		5.7	ヨコハケ	指頭圧
741		土師質土器	焙烙	31.0		5.9	板ナデ	指頭圧
742		土師質土器	焙烙	3.0		3.9	板ナデ	指頭圧
743		土師質土器	焙烙	31.0		4.1	板ナデ	指頭圧
744		土師質土器	焙烙	30.0		5.2	ヨコハケ	指頭圧
745		土師質土器	焙烙	32.4		7.0	ヨコハケ	指頭圧のち下半ヨコハケ
746		土師質土器	焙烙	28.6		6.3	板ナデ	指頭圧
747		土師質土器	焙烙	34.2		6.1	ヨコハケ	指頭圧
748		土師質土器	焙烙	30.8		6.8	上半ヨコハケ，下半指頭圧	指頭圧
749		土師質土器	焙烙	33.0		6.1	上半ヨコハケ，下半板ナデ	指頭圧，タテハケ
750		土師質土器	焙烙	37.0		5.2	板ナデ	指頭圧
751		土師質土器	焙烙	32.0		3.3	ヨコハケ	指頭圧
752		土師質土器	焙烙	32.8		5.1	ヨコハケ	指頭圧
753		土師質土器	焙烙	18.6		4.7	指頭圧，ヨコハケ	
754		土師質土器	焙烙	18.6		7.4	指頭圧のちヨコハケ	指頭圧のちタテハケ
755		土師質土器	羽釜	12.8		8.2		指頭圧
756		土師質土器	羽釜	10.6		6.5	上半指頭圧，下半ヨコハケ	指頭圧
757		土師質土器	羽釜	16.0		11.8	指頭圧	指頭圧
758		土師質土器	羽釜	18.1		12.8	指頭圧のち板ナデ	指頭圧
759		土師質土器	羽釜	18.8		13.5	指頭圧	上半指頭圧のち板ナデ，下半指頭圧のちヨコハケ
760		須恵器	壺		11.7	4.5		
761		須恵器	杯		9.4	1.6		高台内ツメ圧痕
762		土師質土器	壺	20.6		7.0	指頭圧	
763		土師質土器	壺	21.4		12.7	指頭圧	
764		土師質土器		29.0		18.6	指頭圧	
765		土師質土器	甕	30.4		8.8		
766		土師質土器	甕	36.0		10.8		
767		土師質土器		40.0		19.0	指頭圧	指頭圧
768		土師質土器		20.0		21.0	指頭圧	指頭圧
769		土師質土器	甕		23.0	15.6	指頭圧	指頭圧のちヨコヘラケズリ
770		土師質土器	火鉢		22.6	16.0	ヨコハケ	ヨコヘラケズリ
771		土師質土器		70.0		8.5		押圧突帯
772		土師質土器	風呂釜		59.6	14.1	指頭圧	押圧突帯，円孔
773		土師質土器		23.0		15.4	指頭圧のち板ナデ	指頭圧
774		土師質土器	人形	4.1	5.6	1.7	型成形土製品	
775		土師質土器	人形	4.6	5.8	1.8	型成形土製品	
776		土師質土器	人形	6.1	3.6	2.2	型成形土製品	
777		土師質土器	人形	6.9	4.9	1.8	型成形土製品	
778		土師質土器	人形	4.5	4.5	3.6	型成形土製品	底部墨書
779		土師質土器	キツネ	6.8	4.0	2.2	型成形土製品	
780		土師質土器	キツネ	5.7	3.8	2.3	型成形土製品	
781	不明	陶器	こま犬	4.5	3.7	1.9	型成形土製品	
782		土師質土器	馬	3.1	5.1	1.8	型成形土製品	
783		土師質土器	馬	3.4	6.3	1.8	型成形土製品	
784		土師質土器	馬	3.2	6.5	1.9	型成形土製品	
785		土師質土器	馬	2.7	5.2	1.7	型成形土製品	
786		土師質土器	鳥居	2.6	3.0	1.2	型成形土製品	
787		土師質土器	屋根	2.8	2.3	4.0	型成形土製品	
788		土師質土器	神社	3.0	4.6	2.1	型成形土製品	
789		土師質土器	ナス	1.3	2.4	4.6	型成形土製品	
790		土師質土器	サル	3.2	3.3	1.1	型成形土製品	
791	備前	陶器	打出の小槌	2.8	2.9	2.4	型成形土製品	
792	不明	陶器	箱庭橋	2.9	8.3	1.6		
793		土師質土器	仏様	4.4	4.1	1.8	型成形土製品	
794	肥前	陶器	水滴	2.8	5.1	3.2	型成形土製品	
795		土師質土器	メンコ	3.7	3.2	1.1	擂鉢を転用	
796	備前	陶器	メンコ	2.8	3.0	1.4	擂鉢を転用	
797	備前	陶器	メンコ	3.1	3.2	1.4	擂鉢を転用	
798	備前	陶器	メンコ	2.8	2.9	1.1	擂鉢を転用	
799		瓦	メンコ	2.6	2.6	1.4	瓦を転用	

800		土師質土器	鉢		3.6	2.1	ミニチュア	
801	不明	陶器	擂鉢	2.6		2.5	ミニチュア	
802	不明	陶器	擂鉢	11.0		3.5	ミニチュア	
803		土師質土器	蓋	3.4		1.0	ミニチュア	金箔付着
804	京信楽	陶器	碗		3.0	1.7	色絵文様不明	高台無釉
805	肥前	磁器	碗		3.8	1.9		染付円圏
806	瀬戸美濃	陶器	餌猪口	4.4	3.2	2.7		高台無釉，底面墨書「セマ」
807	肥前	磁器	紅猪口	6.4	3.2	1.9		染付笹文
808	肥前	磁器	紅猪口	5.6	2.6	2.1		
809	肥前	磁器	紅猪口	7.0		1.9		染付丸文
810	肥前	磁器	紅猪口		3.0	1.2		
811	肥前	磁器	碗	9.6		1.5	圏線2条	圏線4条
812	肥前	磁器	皿	10.0		1.2	染付文様不明	染付文様不明
813	肥前	磁器	皿	17.0		3.1	染付草花文	染付唐草文
814	京信楽	陶器	碗	9.2		4.0		
815	瀬戸美濃	陶器	碗	11.1		3.5		
816	瀬戸美濃	陶器	鉢	12.8		3.0		
817		土師質土器	皿	10.4		1.5		
818		土師質土器	皿	11.2		1.9		
819		土師質土器	土鍋	40.6		3.8		
820		土師質土器	甕	29.0		16.5	円孔	指頭圧
821	肥前	陶器	碗	9.0		4.8		高台無釉
822	肥前	陶器	壺		2.2	2.4		高台無釉
823	肥前	陶器	鉢		8.6	6.9	刷毛目	無釉
824	肥前	磁器	紅猪口	6.6		2.4		染付草花文
825	肥前	磁器	瓶	2.3		3.8		
826	京信楽	陶器	皿		4.8	1.3		高台無釉
827	備前	陶器	壺			3.5		
828		土師質土器	天神さん	5.3	2.3	4.1	型成形土製品	
829		土師質土器	焙烙	28.6		3.7	板ナデ	指頭圧
830		土師質土器	焙烙	28.0		3.3	板ナデ	指頭圧
831		土師質土器	焙烙	36.8		3.9	板ナデ	指頭圧
832		土師質土器	焙烙	34.4		6.2	指頭圧のちヨコハケ	指頭圧
833	備前	陶器	擂鉢		18.7	6.2		
834	京信楽	陶器	碗	9.3		4.8		
835	肥前	磁器	碗	8.8		3.0		染付雨降り文
836	肥前	磁器	紅猪口	6.6	3.2	2.2		
837	肥前	磁器	紅皿	4.4		1.2		型成形，高台無釉
838		瓦質土器	火鉢	34.8		12.8	指頭圧のちヨコハケ	
839	肥前	磁器	碗	10.6		4.3	染付四方襷	青磁釉
840	肥前	磁器	碗	9.0		3.3	染付四方襷	染付草花文
841	肥前	磁器	油壺		6.4	5.9	無釉	染付草花文
842	瀬戸美濃	磁器	碗	9.4		1.8	染付円圏	染付円圏
843	京信楽	陶器	碗		5.4	1.4		高台無釉
844	備前	陶器	灯明皿	10.8	4.0	1.5		
845	備前	陶器	灯明皿	10.6		1.5		
846		軟質陶器	盃		3.4	2.5		高台内陽刻「樂」
847		土師質土器	皿	6.8	4.4	1.0		
848		土師質土器	火鉢	20.8		3.5	ナデ	ナデ
849	肥前	陶器	碗	13.6	10.6	3.3		
850	肥前	陶器	碗		4.0	2.7	砂目	高台無釉
851	肥前	磁器	皿	13.6	11.2	1.4		
852	肥前	磁器	皿	16.0	13.8	1.4	染付鳥文	圏線2条
853		土師質土器	鉢	9.4	7.6	4.3		
854		土師質土器	皿	13.4	9.6	1.4		
855	京信楽	陶器	碗	10.4		1.9		
856	備前	陶器	鉢	12.0		4.2		
857	肥前	磁器	不明	24.9	13.7	13.6	指頭ナデ	上面に接合痕あり
858	肥前	陶器	皿	14.6		2.2		高台無釉
859	肥前	磁器	碗	7.5	3.0	4.3		染付雨降り文，圏線3条
860	備前	陶器	擂鉢	36.0	17.6	14.4		削り出し高台
861	備前	陶器	擂鉢	32.6		10.1		
862	肥前	磁器	碗		3.1	3.4		染付文様不明
863	肥前	磁器	碗		3.8	2.8	圏線2条	青磁釉
864	肥前	磁器	碗	7.6		2.2	染付文様不明	染付文様不明
865	肥前	磁器	碗		3.2	2.4		圏線2条
866	肥前	磁器	碗		3.6	2.2	見込記号文	染付文様不明
867	肥前	磁器	碗	12.0		4.5		染付文様不明
868	肥前	磁器	碗	12.4	4.5	6.5	圏線2条	染付梅文，圏線4条
869	肥前	磁器	碗	10.6	5.0	6.0		染付文様不明，底部溶着痕
870	肥前	磁器	碗	10.1	2.0	5.3		染付草花文，圏線2条，高台内記号文
871	肥前	磁器	碗	8.4	2.0	2.5	見込記号文	圏線2条
872	肥前	磁器	碗	10.0	4.8	5.0	型紙刷，圏線1条，見込松竹梅	型紙刷，圏線3条
873	肥前	磁器	碗	10.4		3.5	圏線2条	染付麻の葉文，圏線1条
874	肥前	磁器	碗	8.0		4.1	染付連弧文，圏線2条	染付文様不明，圏線2条
875	肥前	磁器	碗	4.2	6.6	2.4		
876	肥前	磁器	碗	8.6	4.6	2.2		圏線4条
877	肥前	磁器	碗		5.2	2.1		染付網目文
878	肥前	磁器	碗	8.2	3.4	4.1		圏線2条
879	肥前	磁器	碗		3.6	2.1	圏線1条，見込記号文	染付草花文，圏線4条
880	肥前	磁器	碗	8.0		5.0	圏線2条，見込五弁花文	染付四方襷，染付山水画，圏線3条
881	肥前	磁器	紅猪口	6.6	3.3	2.6		染付笹文
882	肥前	磁器	紅猪口	5.8		2.5		染付笹文
883	肥前	磁器	紅猪口	6.1	2.8	2.5		染付笹文
884	肥前	磁器	紅猪口	6.0	3.0	2.1		染付笹文
885	肥前	磁器	紅猪口	6.3	2.6	2.5		染付笹文
886	肥前	磁器	紅猪口	6.6	3.0	2.1		
887	肥前	磁器	紅猪口	6.8	3.8	1.4		
888	肥前	磁器	紅猪口		2.8	1.3		

889	肥前	磁器	紅猪口		3.2	1.3		
890	肥前	磁器	皿		5.8	1.2	染付草花文	
891	肥前	磁器	皿		5.7	1.7	染付山水画	
892	肥前	磁器	皿	13.4		3.1	型紙刷	染付唐草文，圏線1条
893	肥前	磁器	皿	16.0		3.7	染付草花文	染付唐草文
894	肥前	磁器	皿		9.8	1.7		染付文様不明，圏線2条
895	肥前	磁器	皿		11.6	3.4	青磁釉	青磁釉
896	肥前	磁器	皿		11.0	3.2	染付草花文	圏線3条
897	肥前	磁器	皿	24.0		6.1	染付雲文	染付雲文
898	肥前	磁器	皿		8.4	4.5		染付草花文
899	肥前	磁器	皿		13.4	1.8	染付草花文	圏線2条
900	肥前	磁器	鉢		7.7	2.4	染付文様不明	染付文様不明
901	備前	磁器	蓋		3.5	1.4	圏線2条，見込松竹梅	染付竹文
902	肥前	磁器	蓋	8.0		1.1		染付文様不明
903	肥前	磁器	蓋	7.4		1.6		染付草花文
904	肥前	磁器	蓋	11.2		1.9	口縁部無釉	染付雷文
905	肥前	磁器	蓋	6.4		1.7		
906	肥前	磁器	蓋	6.9		2.0		染付鳥文
907	肥前	磁器	蕎麦猪口		5.8	1.3		
908	肥前	磁器	蕎麦猪口	4.6	2.8	2.6		
909	肥前	磁器	蕎麦猪口		4.4	4.2		
910	肥前	磁器	盃	7.0		3.4		染付文様不明
911	肥前	磁器	盃	5.0	3.2	4.2	染付帯線，圏線1条	染付連鎖文
912	肥前	磁器	盃	5.8		2.7		染付文様不明
913	肥前	磁器	盃		2.6	2.5		型成形
914	肥前	磁器	花生	7.6		2.3	無釉	
915	肥前	磁器	瓶		3.2	1.7		
916	肥前	磁器	仏販具	4.6	3.6	3.2		
917	肥前	磁器	仏販具		4.2	3.0		
918	肥前	磁器	仏販具	5.7	3.5	5.5		染付笹文，脚部無釉
919	肥前	陶器	碗	12.7		4.0		染付文様不明
920	肥前	陶器	碗	11.6	5.2	6.2		染付文様不明，圏線2条
921	肥前	陶器	碗	7.0	3.8	2.1	刷毛目	刷毛目
922	肥前	陶器	皿	4.0		2.5		高台無釉，胎土目
923	肥前	陶器	皿	10.6		2.5	胎土目	
924	肥前	陶器	皿	14.2	4.8	3.2	砂目	
925	肥前	陶器	片口鉢	18.2		5.7	無釉	片口，染付文様不明
926	肥前	陶器	皿	8.4	4.0	1.5		
927	肥前	陶器	皿		3.5	1.0		高台無釉
928	肥前	陶器	鉢	24.2		3.3	刷毛目	
929	肥前	陶器	皿		7.6	3.7	鉄絵，重ね焼き痕	
930	肥前	陶器	鉢		10.8	5.3	刷毛目，砂目	
931	京信楽	陶器	碗	10.5		2.8		色絵草花文
932	京信楽	陶器	碗	10.6		5.0		錆絵小杉文
933	京信楽	陶器	碗	9.0		3.3		
934	京信楽	陶器	碗		2.8	1.5		高台無釉
935	京信楽	陶器	皿	8.6		1.5		
936	京信楽	陶器	皿	8.8	4.0	1.9	青磁釉	青磁釉
937	京信楽	陶器	湯呑み	6.2	6.6	5.7		底部無釉
938	京信楽	陶器	鉢	14.6		1.6	錆絵	錆絵
939	京信楽	陶器	花生		8.0	2.8		底部無釉
940	京信楽	陶器	花生	4.0	4.2	3.6		底部無釉
941	京信楽	陶器	鍋	16.0	6.6	7.0	鉄釉	鉄釉，底部無釉，胎土目
942	京信楽	陶器	鉢	20.0		3.6		
943	志野	陶器	碗			1.9		
944	志野	陶器	碗			5.2		
945	瀬戸美濃	磁器	碗	11.0	4.1	4.5		青磁釉
946	瀬戸美濃	磁器	蓋物	7.8		3.5	口縁部無釉	染付草花文
947	瀬戸美濃	陶器	碗	9.2		4.1		
948	瀬戸美濃	陶器	鉢		5.0	1.8		
949	瀬戸美濃	陶器	鉢		22.0	4.2		陰刻，底部無釉
950	瀬戸美濃	陶器	碗	9.9		5.4		高台無釉
951	備前	陶器	灯明皿	10.0	3.4	1.4		
952	備前	陶器	灯明皿	10.4	5.7	1.4		
953	備前	陶器	灯明皿	5.4	4.2	1.7		
954	備前	陶器	灯明皿	8.8		1.4		
955	備前	陶器	灯明皿	12.0		1.8		
956	備前	陶器	鉢	26.6		6.7		スタンプ如意頭文
957	備前	陶器	鉢	12.2	12.2	6.5		
958	備前	陶器	鉢		12.7	3.8		
959	備前	陶器	鉢	13.5	13.1	15.6		
960	不明	陶器	壺		3.1	3.5		文字，底部無釉
961	不明	陶器	碗	11.4		4.8		
962	備前	陶器	兜	6.5		3.8	型成形土製品	
963	不明	陶器	鉢		12.8	3.9		鉄釉
964		軟質陶器	蓋	10.4		1.1	無釉	
965		軟質陶器	蓋	12.1		1.6	無釉	
966		軟質陶器	蓋	2.4	3.8	1.7		
967		軟質陶器	土瓶		5.6	2.4		無釉
968		軟質陶器	鉢		5.2	2.2		
969		軟質陶器	皿	5.4	3.8	0.9		
970		土師質土器	羽釜	2.8	2.0	3.0	ミニチュア	
971		土師質土器	皿	14.0		1.6		
972		土師質土器	皿	13.8		1.9		
973		土師質土器	皿	10.2		1.3		
974		土師質土器	鉢	23.4		5.0		型成形
975		土師質土器	焜炉	22.3		3.2	板ナデ	板ナデ
976		土師質土器	焜炉		14.1	6.3	ヨコハケ	
977		土師質土器	焙烙	36.0		2.4	ヨコハケ	指頭圧

978		土師質土器	火鉢	32.0		10.9	指頭圧のちヨコハケ	指頭圧
979		土師質土器	火鉢	30.6	23.4	7.2	指頭圧のち板ナデ	
980		弥生土器	壺	18.8		3.9		
981		弥生土器	壺		5.2	2.3		
982	堺	陶器	擂鉢		20.0	3.1		
983	堺	陶器	擂鉢	29.0		8.0		
984	堺	陶器	擂鉢	37.0		11.0		
985	堺	陶器	擂鉢	26.0	22.4	4.0		
986	堺	陶器	擂鉢		20.0	5.8		削り出し高台
987	備前	陶器	擂鉢		18.0	5.3		
988	備前	陶器	擂鉢		11.3	9.3		
989	京信楽	陶器	碗		3.0	1.3		高台無釉
990	肥前	磁器	碗	8.4	3.5	4.1		染付連弁文
991	不明	陶器	植木鉢	12.8	12.6	3.4		高台無釉
992	瀬戸美濃	陶器	鉢	20.0		4.5		
993	京信楽	陶器	碗		3.8	2.1		高台無釉
994	肥前	磁器	鉢	19.0		6.1	染付菊文，499と同一個体	染付文様不明
995	京信楽	陶器	碗	8.9		4.2		
996	備前	陶器	擂鉢	31.0		7.9		重ね焼き痕
997		土師質土器	焙烙	31.0		2.8		指頭圧
998		弥生土器	甕	17.4		5.3	ヨコハケのちタテハケ	タタキのちタテハケ
999	京信楽	陶器	碗	9.6	9.2	2.6		
1000	京信楽	陶器	碗	9.4	5.0	2.2		高台無釉
1001	瀬戸美濃	陶器	碗	10.0	9.8	2.4		圏線1条
1002	肥前	磁器	紅猪口	6.6	3.6	2.2		染付笹文
1003	肥前	磁器	蕎麦猪口	7.6	6.0	6.0	染付四方襷，見込圏線2条，見込五弁花文	染付菊花散らし，蛇ノ目凹形高台
1004	肥前	磁器	碗	10.6	5.0	3.8		染付草花文
1005	肥前	磁器	碗	7.8	4.4	1.4		染付文様不明
1006		土師質土器	焙烙	39.8	36.8	1.8		
1007	志野	陶器	碗	14.0	11.0	2.7		

遺物観察表（石器）

番号	品名	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	特記事項
S1	砥石	4.4	2.3	1.0	両面に擦痕あり
S2	砥石	11.8	8.7	5.4	両面に擦痕あり
S3	火打ち石	2.6	2.0	2.1	陵部全体に敲打痕あり
S4	硯	6.6	3.8	1.0	陸部のみ残存
S5	硯	16.4	6.2	2.2	海部から陸部にかけて残存，背面も使用
S6	不明	12.4	11.2	4.2	両面とも多数の線刻
S7	火打ち石	3.2	3.7	2.5	陵部全体に敲打痕あり

遺物観察表（金属器）

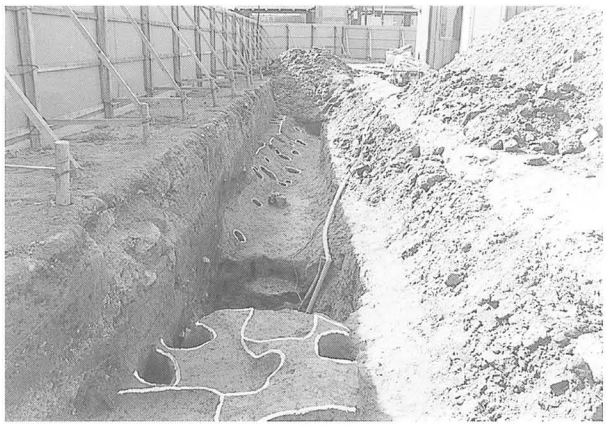
番号	品名	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	特記事項
K1	刀	18.9	4.0	1.4	
K2	針	8.8	0.6	0.1	
K3	寛永通宝	4.3	4.3	0.2	
K4	輪状製品	4.8	5.2	0.5	
K5	煙管吸口	6.3	1.0	1.0	
K6	永楽通宝	4.8	4.8	0.2	
K7	寛永通宝	4.6	4.6	0.2	
K8	鉛玉	1.2	1.2	1.2	
K9	簪	16	1.3	0.1	
K10	毛抜き	8.6	1.4	1.0	

遺物観察表(木器)

番号	品名	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	表面(内面)	裏面(外面)	備考
W1	箱	12.9	2.4	0.5	黒漆塗り, 石黄蒔絵	黒漆塗り	
W2	箱	10.1	104.0	0.4	黒漆塗り, 石黄蒔絵	黒漆塗り	
W3	椀			9.4	朱漆塗り	黒漆塗り	
W4	箸	25.3	0.6	0.5			
W5	箸	24.9	0.6	0.6			
W6	蒲鉾板	13.1	1.3	0.4			
W7	建築部材	15.2	1.4	0.5	釘穴2個		
W8	板材	13.4	4.3	0.2	円孔		
W9	板材	6.8	5.3	0.4	円孔		
W10	板材	8.2	2.5	0.3	円孔		
W11	板材	5.9	2.6	0.4	円孔		
W12	板材	4.4	3.4	1.0			
W13	円版	5.2	2.8	0.4			
W14	板材	6.8	6.4	1.6			
W15	板材	9.0	8.1	0.8	上下に小円孔多数		
W16	建築部材	16.7	0.4	0.2	鋸歯状の棒材		
W17	建築部材	11.4	1.2	0.3	鋸歯状の板材		
W18	木簡	9.3	1.8	2.5	墨書「一井」		
W19	椀		6.8	8.8	朱漆塗り	黒漆塗り	
W20	下駄	21.0	7.9	2.4	円孔3, 方孔2		
W21	蓋	12.6	5.8	3.0	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	
W22	蓋	10.0		2.1	朱漆塗り	黒漆塗り	
W23	椀	4.8		4.7	朱漆塗り	黒漆塗り	
W24	椀		5.2	3.5	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	
W25	椀		4.5	4.1	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	
W26	椀			1.6	朱漆塗り	黒漆塗り	
W27	椀		5.0	5.8	朱漆塗り	黒漆塗り	
W28	椀		5.0	5.1	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵, 高台内朱漆文字「極」	
W29	椀			3.7	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	
W30	椀			3.7	朱漆塗り	黒漆塗り, 金または銀蒔絵	
W31	椀		5.6	1.2	朱漆塗り	朱漆塗り	
W32	椀		7.2	4.6	朱漆塗り	朱漆塗り	
W33	椀		7.0	4.3	朱漆塗り	朱漆塗り	
W34	盃	9.0	4.6	3.1	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	
W35	盃	8.4	4.8	2.8	朱漆塗り	黒漆塗り, 銀蒔絵	三つ葵家紋
W36	盆			0.9	黒漆塗り, 朱漆花弁	黒漆塗り	朽木盆か?
W37	盆	4.0		0.8	黒漆塗り, 朱漆花弁	黒漆塗り	朽木盆か?
W38	盆			16.3	黒漆塗り, 朱漆文様	黒漆塗り	
W39	盆	4.9	3.6	0.7	朱漆塗り, 釘孔1	黒漆塗り	
W40	盆	23.3	10.1	4.5	朱漆塗り	黒漆塗り	
W41	傘	6.0		3.3		黒漆塗り	
W42	傘	5.0	5.2			黒漆塗り	
W43	傘	2.9	5.0			上半黒漆塗り, 下半朱漆塗り	
W44	杓	21.2	3.5	0.5	朱漆塗り	朱漆塗り	
W45	板材	16.3	3.2	0.8	朱漆塗り	黒漆塗り	
W46	板材	22.7	5.6	0.3	黒漆塗り, 円孔1		
W47	板材	23.5	2.6	0.8	黒漆塗り		
W48	建築部材	5.5	6.3	4.0	黒漆塗り		
W49	将棋駒	2.9	2.7	1.0	桂馬	金	
W50	将棋駒	2.6	2.2	0.8	桂馬	金	
W51	建築部材	6.0	6.9	5.0	墨書		
W52	建築部材	14.2	2.5	2.5	墨書「間」		
W53	木簡	8.8	2.7	0.5	墨書「高松家中」	墨書「小鳩」	
W54	木簡	18.8	3.4	0.3	墨書「小一□」	墨書	
W55	木簡	9.8	2.0	0.3	墨書「中村御宿」		
W56	木簡	2.1	8.8	2.5	墨書「二」		
W57	木簡	6.4	2.6	0.5	墨書「□村」	墨書	
W58	木簡	12.1	2.1	0.3	墨書		
W59	木簡	9.8	3.9	0.4	墨書		
W60	木簡	18.9	2.9	0.3	墨書「登得里さ」	墨書梵字	
W61	曲物底板	11.7	12.1	1.3	焼印「子」		
W62	曲物底板	10.5	6.4	1.1	焼印		
W63	曲物底板	12.7	13.0	1.2	金具痕		
W64	曲物底板	11.6	11.7	1.0			
W65	曲物底板	8.4	8.1	0.5			
W66	曲物底板	9.2	9.6	1.6			
W67	曲物底板	10.0	11.0	0.8			
W68	曲物底板	11.0	11.5	1.4			
W69	曲物底板	15.3	15.0	1.1	円孔1		
W70	曲物底板	14.0	14.3	1.1			
W71	曲物底板	9.7	8.5	0.8			
W72	曲物底板	5.6	5.3	1.2			
W73	曲物底板	7.8	6.1	1.1			
W74	曲物底板	8.6	4.6	0.5			
W75	曲物底板	8.1	4.0	0.4			
W76	曲物底板	4.9	3.0	0.3			
W77	曲物底板	11.3	6.2	0.7			
W78	曲物底板	12.8	6.5	8.5			
W79	曲物底板	6.1	6.5	5.5			
W80	曲物底板	16.0	8.3	1.0			
W81	曲物底板	27.5	14.9	1.2			
W82	曲物底板	24.2	4.0	1.1			
W83	曲物底板	24.2	5.9	1.1			

W84	曲物底板	12.5	4.7	1.0			
W85	曲物底板	14.2	9.7	1.3			
W86	曲物底板	13.0	6.8	1.1			
W87	曲物底板	11.3	7.3	1.0	側面に釘孔2，W88と接合		
W88	曲物底板	3.8	10.5	1.1	側面に釘孔2，W87と接合		
W89	曲物天板	13.3	5.5	1.1	円孔1		
W90	曲物天板	13.4	10.2	1.0	円孔1，焼印		
W91	曲物天板	13.1	6.1	1.3	円孔1		
W92	曲物天板	9.2	5.0	0.9	円孔1		
W93	円板	4.1	4.6	1.2			
W94	曲物	9.7	8.2	0.9			
W95	曲物側板	8.7	15.9	0.5			
W96	桶側板材	6.0	33.1	0.8	方形孔1		
W97	桶側板材	5.0	31.5	0.8	方形孔1		
W98	棒状製品	25.2	2.0	1.1			
W99	下駄	12.9	7.9	1.0	円孔2		
W100	板材	12.5	8.6	1.4	円孔1		
W101	板材	12.3	4.7	0.6	円孔1		
W102	板材	9.6	3.1	0.6	円孔2		
W103	棒材	6.6	0.6	0.7	切込み多数		
W104	板材	17.5	1.0	0.5	小円孔多数	小円孔多数	
W105	匙	12.6	2.3	0.2			
W106	建築部材	6.7	2.0	1.5	釘孔1		
W107	建築部材	8.5	3.0	1.5			
W108	板材	17.4	1.4	0.8			
W109	棒材	10.9	1.7	1.6			
W110	板材	15.0	1.6	1.1			
W111	板材	14.9	4.8	2.0			
W112	建築部材	21.2	2.8	1.2	釘孔2		
W113	建築部材	17.6	2.8	1.5	釘孔1		
W114	建築部材	18.5	1.7	1.2	切込み1		
W115	板材	18.9	9.8	1.2	釘孔2		
W116	板材	18.2	10.1	0.7			
W117	板材	9.6	3.1	1.0			
W118	板材	27.5	8.5	1.0	釘孔11		
W119	建築部材	19.7	9.6	5.8			
W120	建築部材	13.4	8.6	5.7			
W121	建築部材	8.2	5.2	6.0	ホゾ孔で接合		
W122	盆栽	27.6	9.0				
W123	縄	30.1	1.1	0.9			
W124	縄	16.7	0.7				
W125	縄	9.0	0.3				
W126	栓	3.6	2.3	2.3			
W127	栓	3.0	2.8	2.5			
W128	栓	3.8	2.6	2.0			
W129	栓	4.4	3.2	2.7			
W130	栓	3.9	3.2	2.9			
W131	栓	4.6	3.5	1.5			
W132	栓	4.7	3.0	3.0			
W133	栓	5.3	3.3	3.2			
W134	栓	5.8	3.1	2.6			
W135	栓	5.1	3.3	2.3			
W136	栓	5.2	2.9	3.0			
W137	栓	5.6	2.7	2.5			
W138	栓	5.1	2.9	2.5			
W139	栓	3.9	2.4	1.6			
W140	栓	4.9	3.0	2.2			
W141	栓	6.5	2.8	2.5			
W142	栓	4.9	2.9	2.2			
W143	栓	5.2	3.4	3.0			
W144	箸	22.5	0.6	0.7			
W145	箸	22.2	0.6	0.6			
W146	箸	22.1	0.8	0.7			
W147	箸	21.3	0.7	0.8			
W148	箸	22.1	0.8	0.5			
W149	箸	21.9	0.6	0.6			
W150	箸	22.2	0.9	0.7			
W151	箸	21.7	0.8	0.9			
W152	箸	21.0	7.5	6.0			
W153	箸	18.5	0.7	0.6			
W154	箸	22.0	1.1	0.6			
W155	箸	22.0	0.7	0.6			
W156	箸	20.9	0.7	0.5			
W157	箸	21.8	0.6	0.6			

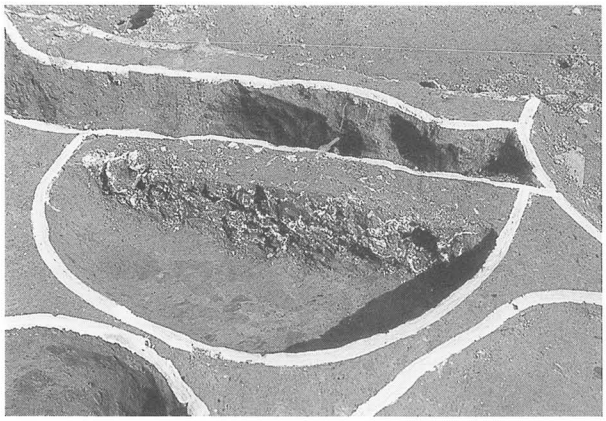
SD201・202,SA201・202完掘状況



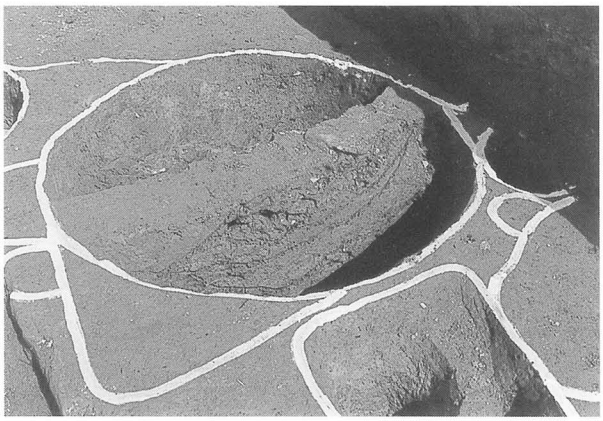
SD203完掘状況

SD203土層断面

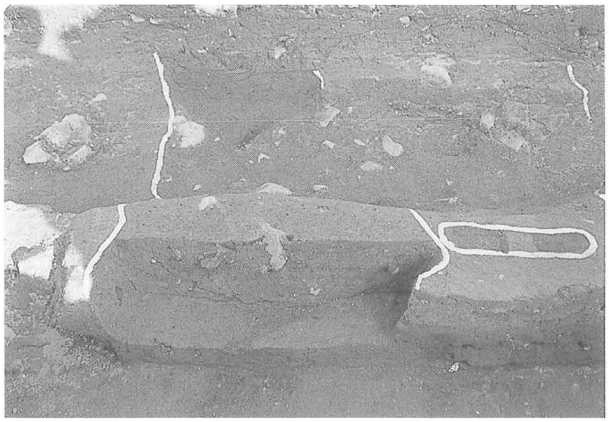
SD204土層断面



SK207土層断面



SK210土層断面

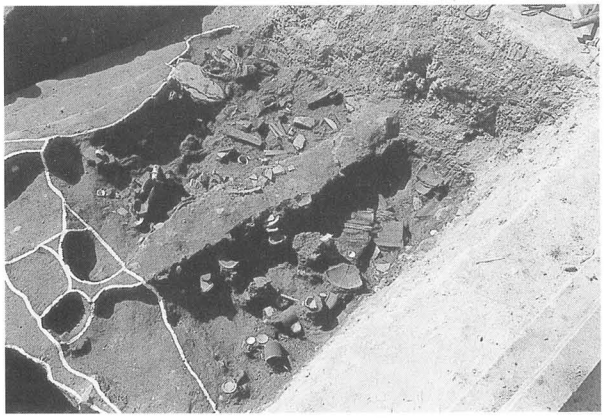


SD103土層断面

SD104完掘状況

SD105遺物出土状況

SK123検出状況



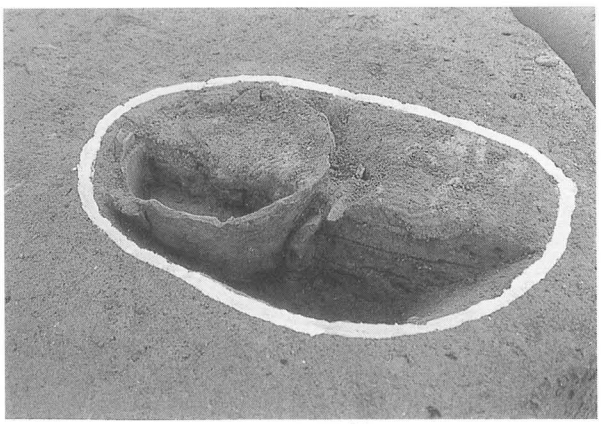
SK123遺物出土状況

SK123遺物出土状況

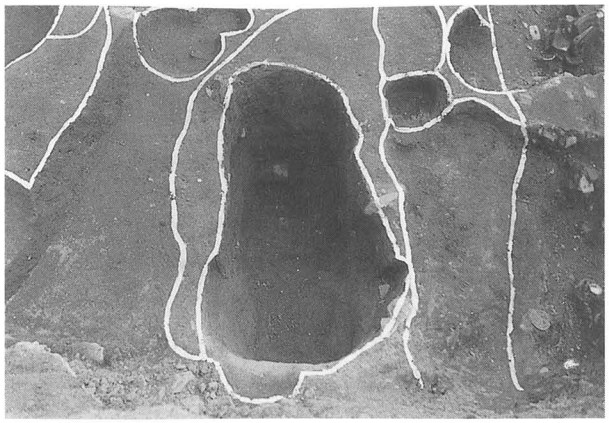
SK123遺物出土状況

SK123土層断面

SK123完掘状況



SK127土層断面



SK126完掘状況

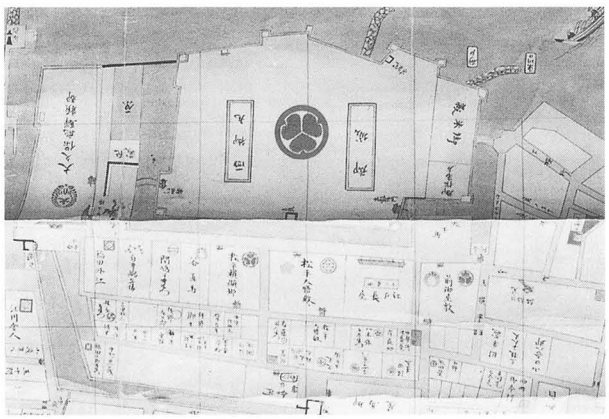
SD105・SK114～117・SK139土層断面

第1遺横面完掘状況（北半）

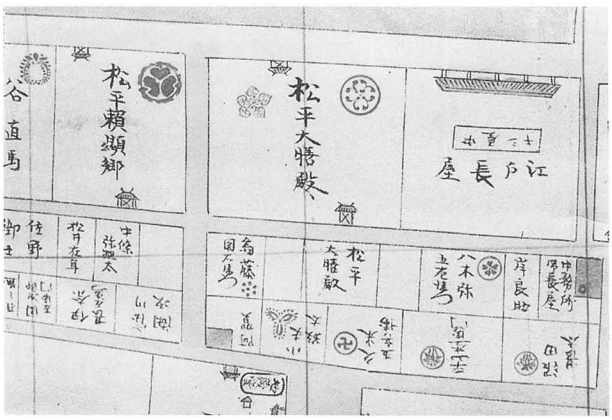
第1遺横面完掘状況（南半）

作業風景

作業風景

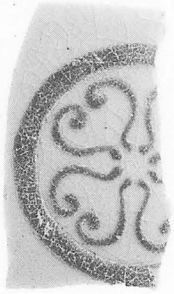


『高松市街古図（文化年間頃高松城下図）』



調査地周辺（左の絵図拡大）

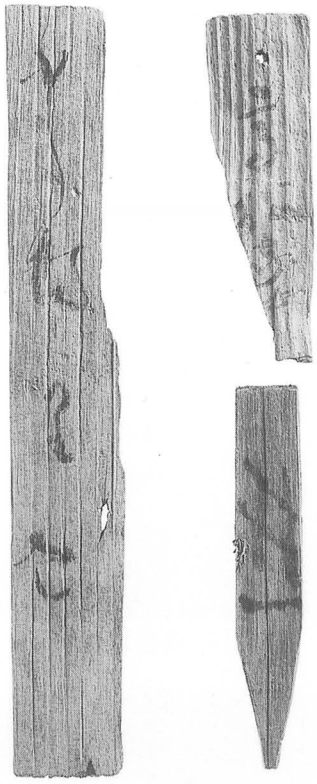
SK123出土家紋瓦



SK123出土家紋入理兵衛焼

SK123出土将棋駒

SK123出土陶磁器類



木簡類

SK123出土須恵器

SK123出土漆器椀

SK121出土軟質陶器土瓶

SK123出土玩具類

報告書抄録

ふりがな	たかまつじょうあと（まつだいらだいぜんけなかやしきあと）
書名	高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）
副書名	香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第61集
編著者名	大嶋 和則
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目8番15号　　TEL087－839－2636
発行年月日	西暦2002年12月27日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
高松城跡（たかまつじょうあと）（松平大膳家（まつだいらだいぜんけ）中屋敷跡（なかやしきあと））	香川県（かがわけん）高松市（たかまつし）丸の内（まるのうち）	37201		34°20′40″	134°03′15″	2002.2.1～2002.3.25	99㎡	香川県弁護士会会館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）	城館	江戸	土坑 溝 柱穴 井戸	理兵衛焼 瓦 陶磁器	松平大膳家家紋入り理兵衛焼・瓦

香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）

平成14年12月27日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番15号
発　行　高松市教育委員会
　　香川県弁護士会
印　刷　小松印刷㈱

高松城跡(松平大
3120010947